

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行
住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地
TEL. 0258-81-6252

保存版

い・わか



毎月月末
発行(予定)

2005.3～2006.12

2004年10月23日
新潟県中越大震災

みんなの
体験談

あの日、
あのとき

社会福祉法人 小千谷市社会福祉協議会 (小千谷市ボランティアセンター)

「いーねか保存版」の発刊に寄せて

小千谷市社会福祉協議会 小千谷市ボランティアセンター

センター長 篠 田 英 哉

小千谷市社会福祉協議会は、平成16年10月23日新潟県中越大地震発生の4日後、10月27日に「小千谷市災害ボランティアセンター」を立ち上げ、全国から駆けつけていただいた多数のボランティアのご支援をいただきながら、災害救援のための活動を行いました。

災害救援作業が一段落した12月19日には「災害ボランティアセンター」を閉所し、翌日の12月20日から「小千谷市ボランティアセンター」として、救援活動を継続しながらも、仮設住宅に移動した高齢者の安否確認など、災害復興救援活動に重点を移し、現在も継続して活動しています。

恐ろしかった地震の体験を、広く市民の皆さんから寄せさせていただくとともに、行事情報を発進するため、「いーねか」という名前で広報紙を発行することとし、平成17年4月号を創刊号として、毎月1回、平成18年12月号まで21回発行してまいりました。

このたび、社会福祉法人読売光と愛の事業団様のご協力を得て、これを保存版として刊行し、一つの地震記録集として、各位のご参考に供することといたしました。

21回の紙面に連載した多くの方の震災体験文「あの日、あの時」は、平穀な暮らしを一瞬にして奪い、恐怖と破壊の地獄絵を現実のものとした様子が記されており、貴重な記録集となりました。また、震災後ボランティアセンターを通してどのようなイベントや支援事業が行われたかを知る一つの資料となるものと思います。

広報紙を作ることでは素人が編集したものであり、この「保存版」はそれを単に複製したため、誤植があったり、間違いがあったりしていますが、お許しいただいて、ご覧いただきたいと思います。

また、この紙面を借りて、原稿をお寄せいただいたみなさまに、心から感謝と御礼を申し上げ、発刊のご挨拶といたします。ありがとうございました。

いーねか

「いーねか」 …… 小千谷の方言です。

標準語だったら…

「いいじやないですか」

「仕方ないね」

「結構！」

ということになりましょうか。

ボランティアセンターの広報紙の名前をなんにしようかみんなで相談したとき、なんとなく決まった言葉です。

小千谷の方言のあつたかい感じがいいという意見が多くたからだと思います。

「地震」という試練を天が与えたのなら、嘆くばかりでなく、「災い転じて福となす」の精神で、

「いーねか、みんなで力を合わせて
乗り越えてゆこうよ」

という意味づけがありました。

そして、つたないながら21回発行することができました。

小千谷市社会福祉協議会

小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地

TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

創刊号

いーねか



毎月月末
発行(予定)

あの日私達は 坂詰司朗さん 小栗山・75歳

あの日あの時
2004年10月23日
みんなの体験談

くガレキの山、万事休す。車を降り上越線の線路を歩いて渡り、浦柄地内へ入り、花屋さんの前まで来たら道路にビチャビチャと水が流れて来たので、「これは水道管が破れたなあ」と話しながら50メートルも歩かぬうちに段々濁流になり、大きな石や丸太がゴロゴロと流れ出し、水かさは我々の膝までになり、もう危なくて歩けない。民家の高い方に急いで避難、みるみるうちに濁流に車が1台2台と流され小屋の屋根の様な物も流され、それはもう地震に水害の追打ち、此の世の地獄と思われた。

20、30分待っても濁流の勢いが増すばかり、村の消防団の方に「お前方、これから先は絶対行けない」と言われ、「でも自分たちの家、家族が心配だ、何としても帰りたい。」と言ったら村の長老の一人が「お前方も心配だろうし、本当に帰りたいのなら俺が山道を知っているから、寺沢の農道まで案内する、それから先は分るだろうから農道を辿って行けば帰れると思う。」と言われ私共6名「よし行こう」と案内人のあとを道なき道、壊れた養鯉池の土手をドロンコになって、妙見神社の灯りの見える所まで山を登った所で漸く農道らしきにたどり着き、「お前方これから先は月明かりで農道を辿って行けば、国道におりられるだろう」とのことでの、本当に有難く、みんなで幾度もお礼を言って別れた。下り始めたが道は所々山崩れで、ヤブの中を見当で声をかけ合って、下の国道

にたどり着いた時はみんなでほっとした。

幸いその夜は昼をもあざむく月明かりで本当に助かった。しかし、東山トンネル前まで来たら、トンネルの中程まで土砂で一杯、また別ルートを取るしかない。田んぼの畦、キスの土手、無残にヒビ割れた池や饅頭の様に盛り上がった田んぼの畦を歩いてヘトヘトになって家に辿り着いたのは歩き出して3時間程だったろうか?

後で皆さんに逢い無事をよろこび合って話したが、若し5分早く出発していたら、500m程の道のりの一瞬にしての山津波にのみ込まれていたに違いないと、ぞつとした次第です。

その後、家は一部損壊、修理すれば何とか住める状態、村は孤立、三日後に漸く自衛隊のヘリコプターで全村避難、約2ヶ月市の総合体育館で避難生活後、今の仮設住まい。先の見えない避難解除、帰ったら田んぼや鯉もやりたいと念じつつ、全国からの大勢の皆さんからの激励、ご支援を感謝致しております。

ちなみに私は、国県の復興支援を待っていては何時になるかわからん、自力復旧出来る所は自分で、と20haの田んぼと30ha程の稚魚池の復旧を業者を頼んで始めたのですが、降雪のため全部復旧出来ず、春の雪だけを待っております。



あの日あの時 10月23日大地震

小池ヤスさん 小栗山・64歳

これから夕食を始めようかと思って、スプーンで女孫の前に差し出した時ドカーンと大きな音と共にぐらぐらと大揺れ、これはなんだ、なんだと思えば大地震の発生。一歳三ヶ月の女孫を左腕にかかえ、右手に三歳八ヶ月の男孫を抱き柱につかまつたけれどぐらぐら…電気は消え、棚から物は落ち、タンスはころび家中はめちゃくちゃ、真っ暗な所に手さぐりで懐中電灯を取り必死で玄関まで行くことが出来、ようやく外へ脱出。怖くて体中がぶるぶる震えて一歳と三歳の孫は泣きやまず、ようやく広場のある吉谷トレーニングセンターに行き車の中で一息。車の中でも時折余震が続き一睡もできず夜明けを迎える、避難者でいっぱいになっていた。

前日の夕食も食べず朝になり、余震の合間に何か食べられる品を取りに行き、煮たり、焼いたりしてみんな協力し合って輪になり、みんなで分け合って食事をとった。

そんな事が一週間も続きその後やっとボランティア等のお手伝いさんが来てくれたので、共に協力し合い、食事作りをした。

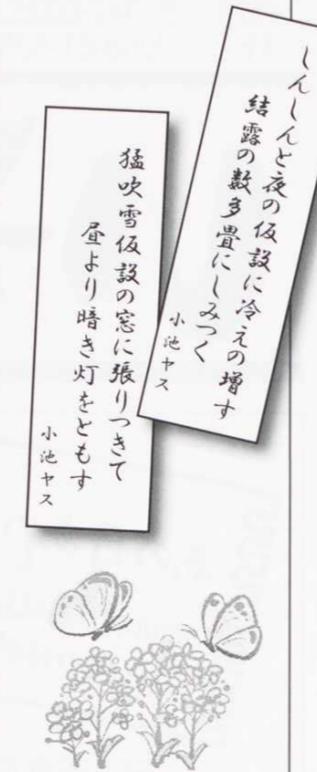
毎日毎日余震がくるたびに怖く、心臓がどんどんと高鳴り、いつ迄続くのか不安が募り、毎日

不眠となり体調も崩れた。

車内の休息より屋内の方が良いといわれトレーニングセンターの中に休む所を確保し、そこで四十八日間も避難生活が続いた。その後十二月五日より仮設住宅にお世話になります、現在に至っています。

尚今でも不眠症となり、病院より眠剤を頂き服用して居ります。その上今年は十九年ぶりの大雪、ほんとうに春が待ちどおしい昨今です。

※現在(平成18年4月)若手は群馬県の方へ転勤し、吾々二人生活です。家も建てられず四苦八苦の生活にがんばっています。



猛烈吹雪仮設の窓に張りつきて
登より暗き灯をともす
小池ヤス

しんしんと夜の仮設に冷えの増す
結露の数多豊にくみづく
小池ヤス

まちづくりツアーレポート in むらかみ

3月19日(日)にいってきました

高根フロンティアクラブ経営の食堂で昼食

廃校した朝日村高根小学校を活用した「食堂IRORI」「みんなが集える空間づくり、心のよりどころとして人どうしの交流」をコンセプトに運営されています。マイナスをプラスに変えていく発想!ぜひ朝日村へ行った際にはお立ち寄りください。土・日・祝のみ営業しています。



小千谷のまちづくりをちょっと違った視点で見てみようなんて思いまして企画しました。

朝日村まゆクラフトに感激

先人から受け継がれた養蚕の技術を継承しながら、新しい感覚でまゆを使った「まゆクラフト」を作っている。朝日村シルクファー製作工房を見学しました。



人形様めぐり

城下町として村上に残されている人形を町屋造りの格調高い家々で見たりお話を伺つたりと楽しいひと時でした。



掲示板

JR 東労組青年部主催 震災復興支援ライブ

4月3日(日) 小千谷市市民会館

★ライブ 13:00 スタート (12:00 開場)
出演者/カズン・Boogaloob・ライアン・YOSAKOI ソーラン
★イベント 10:00 ~ 16:00 鉄道模型展示走行会等

たかのスーパー移動販売車予定時刻のおしらせ!

元中子仮設	月・木 PM 1:50 増
千谷仮設	月・木 PM 3:40 増
吉谷トレーニングセンター	火・金 AM 10:00 増
高畠仮設	火・金 AM 11:00 增
上ノ山仮設	火・金 PM 2:40 増

「地域のお茶の間」
4月1日からはじまります

- 平沢談話室 ■ 西部公園談話室
- 両新田談話室 ■ 城内談話室

午前10:00～午後12:00

各仮設月1回の予定で集会場・談話室で行います

楽しく集って、お話ししましょう！
1月25日に各仮設で演じた大根！
さすが母ちゃん
うまいです！

遠藤則子先生と健康体操

身体が鈍っている人、軽く運動したい
人集まれー！開催日時・時間は集会場
又は談話室に貼り出します。

★参加は自由お子さんから
おじちゃんおばあちゃんまでみんなで参加！

お知らせ

締め切り
4月3日(日)必着

奥飛騨温泉郷に無料招待

中越地震で被災した小千谷市のみなさんへ岐阜県奥飛騨温泉郷新穂高温泉観光協会のみなさんが1泊2日の温泉に無料招待！！

招待期間／4月11日(月)～12日(火)

募集人数／150名程度(超えた場合は抽選)

参加費／無料(バス代・宿泊料(2食付)、両日の昼食代)

宿泊する旅館、部屋割り等は先方に一任となります。

対象／小千谷市民(バスに自分で乗り降りできる方)

応募方法／往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、返信用にも代表者の住所、氏名を記入すること。

宛先／〒947-0035 小千谷市桜町5410番地

小千谷市ボランティアセンター
温泉招待係り

問合せ先 小千谷市ボランティアセンター(サンラックおぢや内)
お申込先 TEL.(0258)81-6252

締め切り 4月7日(木)必着
**北陸温泉郷でも
無料招待!!**

JR西日本旅運北陸支部のみなさんがご招待します。

招待期間／①4月18日(月)～19日(火)
②4月19日(火)～20日(水)

募集人数／42名(21組)(超えた場合は抽選)

参加費／無料(JR運賃・宿泊料(2食付))

対象／小千谷市民

応募方法／電話でお申ください。

1組2名での申し込みとなります。

★いずれも長岡駅からの出発です。長岡駅までの交通費は自己負担となります。

①18日出発 富山県 宇奈月温泉
石川県 輪島温泉・和倉温泉
福井県 芦原温泉

②19日出発 石川県 和倉温泉・山代温泉
山中温泉
片山津温泉

★行き先等は先方に一任となります。



※この情報誌にある記述や写真を無断で転載しないで下さい

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町5410番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

いわか

5月号

毎月月末
発行(予定)

思いがけない災難 小林よしさん 城内・76歳

あの日あの時
2004年10月23日
みんなの体験談

昨年六月、今までなく十日間も風邪で寝込み、翌七月には白内障の手術を二回も受け、その頃から体調を崩し始めていたのに歳を考えず大丈夫と思い込み無理がたり、とうとう十月初め入院してしまった。うつ病と診断されました。

忘れる事の出来ないあの忌まわしい二十三日には、自宅で休養。今日は一人で久しぶりの洗髪後、夕食でもと思っていた矢先、前ぶれもなく突然グラッと頭上のサークライムの電球が二本ぶら下がり、上を向くと

いただき、ありがとうございました。夜空には、地上のことなど知らぬように真ん丸お月様が輝いていた。

明けて二日目は晴天。まだ日々余震が続き、誰となく近所の法務局に集まり始めていた。どこからも情報はまったく入らず、電気、ガス、水道は止まったまま。ただ運よく市役所に近かったので誰かが耳にはさんだこと、見たことなどを皆に知らせてくれた。そのうち町内会の方から連絡があり、自衛隊からも応援が来て、市役所で炊き出しが始まり、水も配給があり、段々集まりが形作られて二十名のグループになった。

法務局の方も協力してくれて、車庫も局舎の一部も気持ちよく貸してくれたので、若い人達は協力して炊事をしてくれてありがたく、和気アツイの数日間だった。そのうち電気、水道が来てくれそれぞれ家路へと帰り始めた。

余震の度に飛び起き不安の日々もあったが、気がついた時には私のうつ病はすっかり治っていたことは不幸中の幸いだった。

しかし、家は“危険”的赤紙が貼られ、雪の降る前に取り壊した。

くじ運が弱い私としては仮設住宅は当たり悪いと思っていたが、幸い入居でき、知人には「仮設はいいよ。寝室のすぐ前はトイレ、お風呂付。まるでホテルみたい。」と誇っている。

最後に、この震災に際しボランティアの方の労働はもとより、全国の皆様から援助していただき本当にありがとうございました。

棟 繰き仮設のくさめ聞きくさめ
小林

仮設住宅にお住まいのみなさんへ
お知らせです



仮設内の駐車場や通路は危険がいっぱい!
お互いに気をつけましょう!

お茶の間曜日
地域の
変更お知らせ

■城内談話室 ■平沢談話室
毎週火曜日のみになりました午前10時~正午

激励寄席

落語でリラックス 囲碁・将棋しませんか

走る落語家
三遊亭樂松さん

■場所 土川談話室
■日時 5月3日(祝)
19:00~20:00



募 集

希望者はボランティアセンターまでご連絡下さい。
■会場 元中子集会場
千谷第1集会場
■日時 5月8日(日)・22日(日)
午後1時~5時

押し花でおひな様を つくろう レポート

真空パックして色紙に貼ったおひな様は、
すべて押し花でできた世界でただ1つの私の
おひな様です。「この年
になって自分のおひな
様がもててうれしい。」
など喜びの声をたくさん頂きました。



今回は仮設の方、その地区にお住まいの方との交流をと思い開催しました。
3月22日(火)は千谷多目的集会センター
3月28日(月)は勤労青少年ホーム

千谷では終了時間を大幅に
オーバーして頑張って作りました。



勤少では「今までいろいろ
参加してみたけど、今回が一
番難しかった。でも一番楽し
かった。」と喜んでました。



4月11日(月)・12日(火)

温泉招待ありがとう

4月18日(月)・19日(火)
4月19日(火)・20日(水)

奥飛騨
温泉



中越地震で被災した小千谷のみなさんへと、新穂高温泉観光協会さんとJR西日本旅運北陸支部さんより素敵なお招待を頂きました。たくさんの方からお礼のお言葉をいただきました。

穂高岳・槍ヶ岳などの北アルプスに囲まれた新穂高温泉。すばらしい景色と親切なもてなしに204名の参加者は大感激。

お湯良し、宿良し、料理良しの言うことなしの旅でした。

北陸温泉



黒部峡谷の雄大な自然と満開の桜。2日間ともお天気に恵まれのんびりした雰囲気とおいしい食事に心も体もリフレッシュすることができました。ありがとうございました。

お知らせ

1ヶ月間お花のお世話してみませんか? 小千谷に花を届けよう 5月15日(日) 千谷仮設住宅でお待ちしています。

松本市にある、エクセラン高等学校より、3,000袋の花の種が届きました。その種をプランターに植えて芽が出るまでお世話して頂けませんか。苗になったら仮設住宅や町の中に植えて素敵なお花をつくりましょう!

5月15日に千谷の仮設住宅にて土とプランター3個と種をお渡しします。



皆さんのご家庭で育ててください。

6月4日(土)・6月5日(日)に千谷の仮設住宅までプランター3個中2個をお持ちください。1個は育ててくれたお礼です。そのままご家庭でお育て下さい。集めた苗を仮設や町に届けます。



小千谷市民のみなさんちからを貸してください!

- ★5月・6月の土・日1日でも作業できる方
- ★会社の仲間・サークルや友達など、数人のグループでお手伝いいただける方(1人でも可)



雪解けも進み仮設住宅からの引越しや雪に埋もれていた家の後片付けなど、家族だけではできない家庭もあるのではと考えています。ぜひ、小千谷市のみなさんボランティア登録して、お力を貸してください。

募 集

自家用軽トラックを使って粗大ごみ等の搬のお手伝いしてくれる方募集しています。ボランティアセンターまでご連絡下さい。

お問合せ先 小千谷市ボランティアセンター(サンラックおぢや内)

TEL.(0258) 81-6252

※この情報誌にある記述や写真を無断で転載しないで下さい

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

6月号

い・わ・か



毎月月末
発行(予定)

仮設住宅にお住まいのみなさんへ
お知らせです

パーティストといっしょに作ろう!
仮設住宅に
陽だまりのベンチ
を
いっしょに作りましょう

6月4日(土)・5日(日)
13:00 ~ 17:00

千谷の仮設住宅第1集会場

お友達同士・ご家族で・おじいちゃん・おばあちゃん 参加はだれでもOK!
主催・申込先：社会福祉協議会 小千谷市ボランティアセンター
電話番号 0258-81-6252
共催：まつだい農舞台



回収ボックスのお知らせ

リングブル・使用済み切手・使用済みテレホンカードの回収ボックスを6月1日より各集会場へ設置いたします。どうぞご利用下さい。

- | 設置場所 | 元中子仮設集会場 |
|------|-------------|
| | ■ 千谷第1仮設集会場 |
| | ■ 千谷第2仮設集会場 |
| | ■ 上ノ山集会場 |

上記以外で設置をご希望の場合はボランティアセンターまでご連絡下さい

お知らせ

フォーラム「災害・子どもたち・心のケア」

テーマは、「こどもたち」。第1部は10年前の阪神大震災以降、活動を続けてこられた各専門家の働きから、災害のみならず日常の諸問題、子どもたちの生きる力、私たちに求められている関わり、などについて実践事例から共に考えます。また、第2部はレクリエーションを通しての心のケアの実際についてです。ぜひご参加下さい。

対象 子ども達の教育・福祉に関わる方々、関心のある方々、保護者など 定員(50名)

日時 6月25日(土) 14:00~17:00
サンラックおぢや(小千谷市総合福祉センター)
〒947-0035 小千谷市桜町5140

お申し込み 小千谷市ボランティアセンター
お問合せ (小千谷市社会福祉協議会) TEL.0258-81-6252
※参加費無料・事前にお申込み下さい

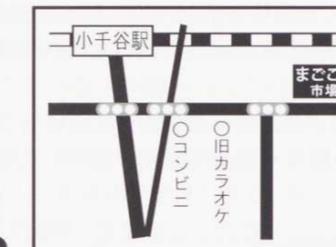
主催 日本YMCA同盟 協力:横浜YMCA
共催・後援 共催:小千谷市社会福祉協議会(小千谷市ボランティアセンター)
後援:小千谷市・小千谷市教育委員会

まごころ市場

■毎週日曜日
■9時~12時



フリーマーケット・鮮魚・
くだもの等もりだくさん!
まごころ市場での真人豆腐
初売りは6/5、次回6/19です。



新潟県中越地震復興支援 よみうり・ふれあい コンサート

出演者

古都清乃 水沢礼子 花元麻希 平浜ひろし
(ピクター) (クラウン) (パッブ) (クラウン)
石田丈二 斗南良子 岩木淳 金子明朗
(キング) (キンギ) (キンギ) (同会)

主催:よみうり健康ニュース社 協賛:相模原防災ボランティアネットワーク
協力:小千谷青年会議所・小千谷市・日本ベアリング(株)
小千谷市社会福祉協議会(小千谷市ボランティアセンター)

お問合せ先 小千谷市ボランティアセンター(サンラックおぢや内)

TEL.(0258) 81-6252

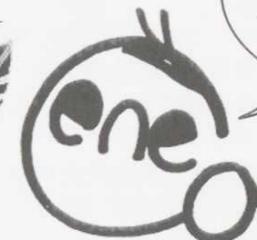
※この情報誌にある記述や写真を無断で転載しないで下さい

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140 番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

7月号

い・わ・か



毎月月末
発行(予定)

仮設住宅にお住まいのみなさんへ
お知らせです

1人暮らしの高齢者、
高齢者世帯が対象になります。

出前ふれあい相談

- 行政から来た文章が読んでもわからない。
- 役所に相談や届出に行きたいが、1人でいけない。
- 新築・改築・就労・健康・税金・年金など、どこに聞けばいいかわからない。

そんな時はご相談下さい！

小千谷市
社会福祉協議会
ボランティアセンター
電話 0258-81-6252
ご自宅(仮設住宅)までおうかがいします。



集会場・談話室にて お茶の間開催中

注意 たいへん暑い日が続
いてます。食中毒や熱中症に気を
つけてください。

食品は冷蔵庫に保管をし、普段
から十分水分をとるよう心がけ
てください。

また、体調が
崩れたら、がま
んせず、お医者
さんに相談し
てください。

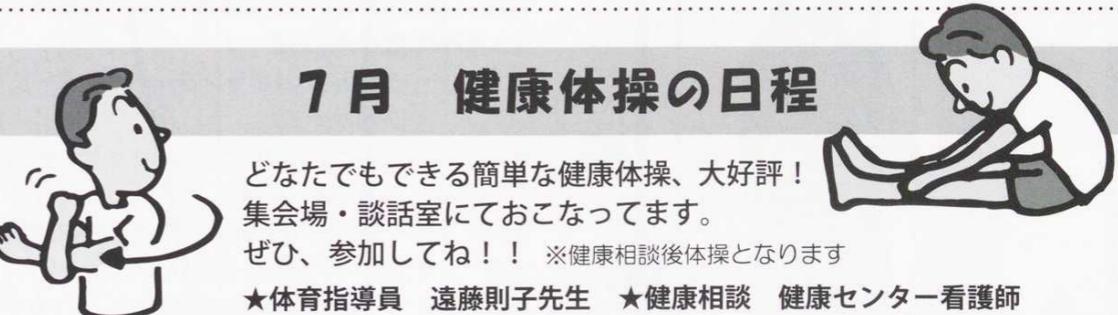


「虹の会」大型紙芝居公演



7月21日(木) 午後2時より
千谷第1仮設住宅集会場

- 安寿と厨子王
- とりのみじいさん(民話)
- 杜子春



7月 健康体操の日程

どなたでもできる簡単な健康体操、大好評！
集会場・談話室にておこなってます。
ぜひ、参加してね！！ ※健康相談後体操となります

★体育指導員 遠藤則子先生 ★健康相談 健康センター看護師

元中子	1日 (金) 10:00～12:00	千谷川	11日 (月) 10:00～12:00
千谷第1	4日 (月) 10:00～12:00	栄町	12日 (火) 10:00～12:00
千谷第2	5日 (火) 10:00～12:00	サンラック	15日 (金) 10:00～12:00
上ノ山	8日 (金) 10:00～12:00	平沢	19日 (火) 10:00～11:00
		若葉	19日 (火) 11:15～12:15

お知らせ

こどもと遊ぼう



主催：バプテスト教会

7月16日(土)
午前10時から午後3時
千谷仮設住宅地内

こども(幼児)用プールを設置して水遊びや、
スライム作り、喫茶コーナー・昼食時は軽
食を用意します。

●大人と子供の読みきかせの会●

第1部「だいじょうぶ だいじょうぶ」講談社 第2部「おおきなかぶ」ブロンズ新社

「大人と子供のための読みきかせの会」(代表中井貴恵さん)は、1998年10月から、幼稚園・小学生・養護学校に加え病院など、全国各地で620回を超える公演活動を行っています。

同会は、不思議な絵本の力・心に響く物語の朗読・美しい音楽・心温まるメッセージを携えて、阪神大震災や新潟をはじめ各地の被災地支援のために活動を続けています。今回の公演は、最新作の「だいじょうぶ・だいじょうぶ」、親子に大人気です。夢と希望にあふれた豊かじっくり体験して

朗読 中井貴恵(女優・エッセイスト)

ピアノ 荒井泰子

RHA 三塚幸彦 筆 小野美穂子

大型絵本 平野知代子・宗佳代子

2005年9月4日(日)

14:00~16:00 (開場13:30)

**会場:小千谷市民会館
(小千谷市土川1-3-3)**

★対象:子どもたちと保護者の方々 定員:450名

★入場無料:整理券が必要です。

ご希望の方はボランティアセンターまで
(先着順です)

★主催:大人と子供のための読みきかせの会
おぢや実行委員会

★共催:小千谷市教育委員会・小千谷市社会福祉協議会

★協力:日本YMCA同盟・横浜YMCA

★お問合せ:小千谷市社会福祉協議会(サンラックおぢや)

TEL 0258-81-6252

(小千谷市ボランティアセンター)



いとうひろし 作・絵

お問合せ先 小千谷市ボランティアセンター (サンラックおぢや内)

TEL.(0258) 81-6252

※この情報誌にある記述や写真を無断で転載しないで下さい

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683



8月号

毎月月末
発行(予定)

あの日・あの時

新谷 京子さん 真人町・50歳代

私共夫婦の念願だったハワイ旅行から3日前に帰ってきました。その写真を見ながら家族7人揃って賑やかにしていたのです。その時、なにが何だか解らないあの揺れ、すぐに外に出たものの、道路にしゃがみこんでる嫁と孫が素足なのに気づき、まずズックを取りにゆき、つづいて毛布、後はなにも頭に浮かばず、急いで車に乗り避難所の南中学校に向かいました。次々に集まってくる車の様子に道は寸断され、何処にもいけない事だけは理解出来ましたが、家はどうなっているか、これからどんな事が待っているのか、寒さも加わ

り不安でなりません。しかし、幼い孫達の前で不安そうな顔を見せまいと、気を張っていました。そのうち大勢集まっている心強さと揺れに少しぬれた事もあり、なにもかもお見通しの様な、あの日の青いお月様に向かって「何でもきやがれ、バカヤロウ」と呟いていた事が思い出されます。それからは近所の人達との1週間程の共同生活でしたが、頭では解っていた「人間一人では生きられない」の言葉が骨身に染まる体験となりました。皆様に感謝です。

声震え立つ
月に吠え立つ
孫を抱き立つ

社会福祉協議会 電話 83-2340

場所／小千谷市妙見堰(越の大橋)下流河川敷

時間／午前11時～午後8時

アートラックの展示

花火大会

歌謡ショー

8/14
(日)

災害に負けるな子どもたち
チャリティー大会 in 小千谷



地元芸能

bingoゲーム

アートラックを通して、30年近く全国的に交通遺児救済や災害救援活動を行っている哥麿会のチャリティー企画です。

主催：全国哥麿会 後援：全国アートラック連盟

協力：小千谷市・交通遺児を支援する会(NPO法人)・(社)全国脊髄損傷者連合会

仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

桜町公園と諏訪公園のみなさん
お茶の間の会場が変更になりました。

地域の方もご自由に参加してください

■場 所 西部開発センター
■日 時 月曜日～金曜日 10時～12時



城内の仮設住宅に
お住まいのみなさんへ

8月から10月末まで地域のお茶の間をお休みいたしますが、健康相談・体操は8月に談話室で行います。ぜひ参加してください！

本場「安来節」”どじょうすくい踊り”



8月3日(水)

栄町仮設住宅談話室 午後1時～午後2時
白寿荘(旭・元中子仮設にお住まいの方)午後3時～午後4時

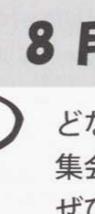
8月4日(木)

西部開発センター 午後3時30分～
(桜町・諏訪公園にお住まいの方) 午後4時30分

8月5日(金)

上ノ山仮設住宅集会場 午後1時30分～午後2時30分
千谷第2仮設住宅集会場 午後3時～午後4時

★お近くに住まわれている方もお誘い下さい。



8月 健康体操の日程

お待ちしてます

どなたでもできる簡単な健康体操、大好評！

集会場・談話室にておこなってます。

ぜひ、参加してね！！※健康相談後体操となります

元中子 1日(月)10:00～12:00 吉谷トレセン 5日(金)14:00～16:00

千谷第1 2日(火)10:00～12:00 兩新田 8日(月)10:00～12:00

千谷第2 3日(水)10:00～12:00 土川 8日(月)14:00～16:00

上ノ山 5日(金)10:00～12:00 城内 9日(火)10:00～12:00

★健康体操 体育指導員 ★健康相談 健康センター看護師



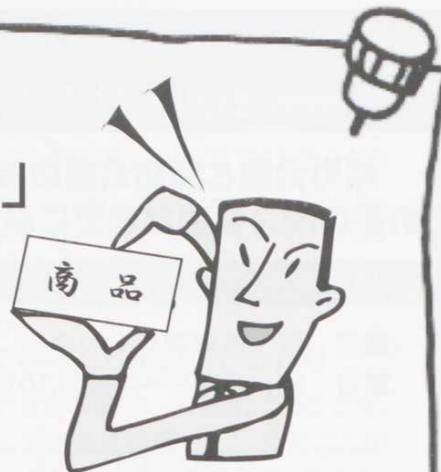
お知らせ

あの手この手「悪質商法」

架空請求されたかも

キャッチセールスに捕まったかも

マルチ商法に狙われたかも



訪問販売・電話勧誘販売などで契約をしてしまったけど解約したい…
そんな時は…クーリングオフを利用しましょう

困った時は 新潟県消費生活センターへ 電話番号 025-285-4196

●大人と子供の読みきかせの会●

第1部「だいじょうぶ だいじょうぶ」講談社 第2部「おおきなかぶ」ブロンズ新社

9月4日(日) 14:00~16:00(開場13:30) 会場:小千谷市民会館



朗読 中井貴恵

(女優・エッセイスト)

いとうひろし 作・絵

★対象:子どもたちと保護者の方々 定員:450名

★入場無料:整理券が必要です。

ご希望の方はボランティアセンターまで
(先着順です)

★主催:大人と子供のための読みきかせの会
おぢや実行委員会

★共催:小千谷市教育委員会・小千谷市社会福祉協議会

★協力:日本YMCA同盟・横浜YMCA

★お問合せ:小千谷市社会福祉協議会(サンラックおぢや)

TEL 0258-81-6252(小千谷市ボランティアセンター)

ワークショップ「色と親しむ」

子どもの描く絵には、感情そのものが表現されることがあります。ときには、なにかしらのメッセージを伝えようとしています。なぜ子どもは絵を描くことが好きなのでしょうか?もう一度考え、色を体験してみませんか?

申込先

小千谷市ボランティアセンター
(サンラックおぢや内)

TEL.(0258) 81-6252



大きな模造紙や画用紙にダイナミックに色を使い、筆だけでなく手を使ってみたり、道具を使ってみたり、色を身近に感じ、色で表現できるということを体験していただきます。

★日時/7月31日(日)13:00~15:00

★会場/サンラックおぢや2F第3・4相談室

★講師/看護師・チャイルドアートインストラクター 竹内晶子

★用意するもの/汚れてもよい服装・持ち帰り用の大きめの袋

★参加費/無料

★対象/関心のある方(お子様はご遠慮下さい)

★定員/15名(先着順)

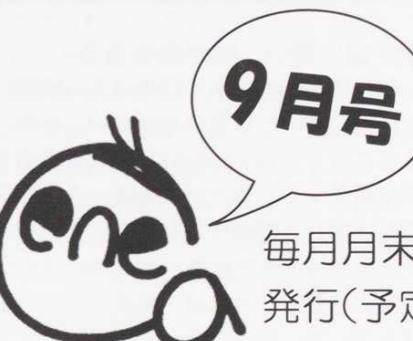
小千谷市社会福祉協議会

小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地

TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

いーかわ



9月号

毎月月末
発行(予定)

「10月23日」

篠田 泰子さん 仮設住宅在住・48歳

鍋が宙に舞い、娘が傷を負う

夕食準備中の台所で灯の消える瞬間にみたものは、火が点いたままのガスレンジが鍋ごと宙に舞うところでした。「えっ！何」「ガタガタガタ、ガチャガチャ！」音と共に停電、今まで経験した事のない揺れが闇の中で何度も何度も続く、立っている家具はすべて倒れ、手を引いてもらひ家具の上をよじ登らなければ、部屋から外へも出られませんでした。やっと外出することができたのは3回目の強い揺れの直前でした。小5の息子は箸笥が倒れてたんこぶができ、階段が抜けて壁は落ちていた中をどうやって階下に降りたか覚えていないという。高3の娘は膝を切って傷がパックリと開き手当てを受けられたのは、二日後に救助された後でした。でもその程度の軽症でした。家を離れて会社にいた夫にもすぐに連絡が取れ、全員無事の確認が直にでき安堵の気持ちで一杯でした。道路の寸断と土砂で川が溢れて、泥だらけになつて夫が帰つて来たのは夜が明けてからでした。

のどかな風景が一変！

中山間地域を襲った大地震といわれていますが、棚田、養鯉池、のどかな風景が一変して山と池が破れ、土砂崩れと洪水を起こし、道路が濁流の川となり、山の壁面が谷に落ち地層も露わに、道路の段差はいたる所に見られ、地割れ、家の倒壊、など悲惨な状況でした。しかし意外だったのは、火災はこの大きな地震の中で2件という少なさでした。食事前で火を使っていた人がほとんどだったと思います。これは、阪神淡路以降のガスのシステムが改まっていたおかげで本当に助かりました。火傷の人も随分いましたので、仮設に入つてしまらくは台所にたつのが嫌だ、揚げ物がまだ怖くてできないという声を多く聞きました。

野池と越冬池が破れて道路が洪水状態、水がどんどん増えて行く錯覚に襲われ、足もすぐわれ恐ろしかった。上に行つたらよいか、下に行つたらよいか、どうすればいいんだろう？避難場所がわからず右往左往では無く、分かっていてもどうしてよいかが解りませんでした。

今でも耳奥に残る「バリバリ、メリメリドドド

が同時に混ざった濁音、それは東山小学校の前にある山の壁面が4度目か5度目の揺れで谷底に落ちる時の音でした。暗闇の中で、しかも地割れのするグ



ランドにうずくまって聞いた不気味でいやな記憶の一つです。余震が強いのと、地割れのグランドに阻まれ避難しようとしていた体育館に近づくのをついにあきらめました。二手に分かれていた町内の人々が一箇所に集まることになり、移動することになりました。学校のスクールバスが無事だったので、お年寄りから乗つてもらうことにしました。寒さも増してきたのでバスは助かりました。

最初はその辺で用をたすのも勇気が必要でしたが、一日くらいなら何とでもなるけど続くとどうなるだろう、総ての事が不安だらけでした。

夜半になり町内の会館の様子を見て大丈夫そうなので建物の中に入つて過ごすことになりましたが、建物の中にはとても入る気がしないという人もいて、車とバスと会館に70名の人々が2日過ごしました。

冷たく見えた月明かり

いつの間にか綺麗な月が昇つて、澄んだ晩秋の空に蒼い光は闇から私たちを救つてはくれましたが、過去に見た月の中では一番冷たく見えました。町内へ登つてくる道路はすべて崩れているという中で、泥だらけになった人が次から次と上がってきました。先へ進みたいのに道路が無いため崖を這い上がり、田んぼや野池の畦をつたつて来ました。携帯も繋がらない、家族の安否が気になる、単に我家へという想いで、登つて来る人を見るにつけ胸が熱くなりました。市内で唯一火災が起きた岩間木地区、「ズドーン、ズドーン、ズドーン」3回続けて爆発の大音響が轟きました。我家への想いが募つてひとが見つめるなかで、とても残酷な炎と爆音でした。更に山古志の人々もやって来ました。ここにたどり着くだけですでに疲れきっている人もいて、夜が明けるまで留まる人もいました。その次の日もそうでした。一人で子供3人を連れた若いママが、我が家への想いで夕方になって登つてきました。みんなで説得してその晩はここへ留まる事に、夜半に家族と連絡が付き翌日の朝、待ち合わせ場所に迎えに来ることになりほつとしました。

同級生の計報に泣く息子

夜中にラジオで子供の同級生の計報を聞きました。涙が止まりませんでした。どうやって子供に伝えようか考えがまとまらず、夫が戻つてきたら相談しよう



うと考えていたのですが、夫は相談する間もなく子供に会つた瞬間に友の死を告げました。小5の子供は声も出せずにあふれる涙を拭つて、拭つてまた拭つて肩を震わせ泣きました。

頼りになった地域の力

夕食をとつていない人がほとんどなので明るくなるとほぼ同時に食事の用意が始まりました。最初は汁物とご飯だけでしたが、家から持つてこれる物は協力し合つて米がある人は米を持ちより、冷蔵庫の中身を提供する人／乾物／保存食／牛乳／何でも役に立つ。朝・昼・晩の食事当番を決めることにしました。

すべてのライフラインがだめな中で、若い人の活躍が際立ちました。発電機の設置、LPGのボンベの設置、水を引く、ヘリポートの目印作り、情報収集等、何をするにも普段の生活の中では決して見えて来ないことばかりで非常時の手際の良さに、感心し頼もしく見えました。上空を飛ぶヘリコプターは、一向に降りてくる様子も

無く通り過ぎていきました。私たちのことは、まるで忘れ去られているのだろうか、孤立している状況は、まだ伝わっていないのだろうか。東京から新聞記者は来るのに、対策本部からは、何の情報も来ないと不安が募りました。それから2日後へりで救助され搬送されました。ヘリの中から見た被害の酷さに、もうここに戻ることが出来ないのではないかと思いながら、崩れた山を見ながら東山を後にしました。

東京でも地震を体験

皆様の記憶に新しい先月7月23日午後4時35分頃震度4～5の地震を東京で体験しました。私たち小千谷市と杉並区とは昨年5月に防災協定を結んでおり、東山小の親子はNPO杉並文化村の招待で天満敦子さんのヴァイオリンコンサートに来していました。天井からコンクリートの破片が落ちてきて演奏は一時中断、小千谷の私達は、地震と認識でき落ち着いておりました。演奏の感動も含めて忘れられない日になりました。

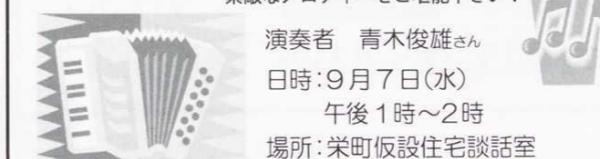
★「あの日あの時」中越地震の体験談を募集しています。お話ししたい方、スタッフがお話しを聞きにお伺いします。ボランティアセンターまでご連絡ください。

仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

アコーディオン演奏会

楽しく癒されませんか？
素敵なメロディーをご堪能下さい！

演奏者 青木俊雄さん
日時：9月7日(水)
午後1時～2時
場所：栄町仮設住宅談話室



地域のお茶の間開催中

ワンちゃんニャンちゃんの飼い主さんへ

玄関等に「犬注意」等の掲示してますか?

犬につけてる綱、長すぎていませんか?

フンなどのしまつ大丈夫ですか?

大事な家族の一員のワンちゃん・ニャンちゃん!私たちをいつも癒してくれます。でも、ちょっとした飼い主さんの油断で、他の人に迷惑をかけてしまう事もあります。仮設住宅は道が狭いので注意が必要です。ペットも環境がかわりストレスをかかえています。どうぞ飼い主さん気を配ってあげて下さい。

お待ちしています 9月 健康体操の日程

どなたでもできる簡単な健康体操、大好評!集会場・談話室にておこなっています。ぜひ参加してね!! ※健康相談後体操となります

元中子	5日(月)10:00~12:00	栄町	16日(金)10:00~12:00
千谷第1	6日(火)10:00~12:00	西部開発センター	20日(火)10:00~12:00
千谷第2	7日(水)10:00~12:00	平沢	26日(月)10:00~
上ノ山	9日(金)10:00~12:00	西部公園	26日(月)11:15~
千谷川	12日(月)10:00~12:00		

★健康体操 体育指導員 ★健康相談 健康センター看護師



お知らせ

**まだまだ絶えない
悪質商法・強引な勧誘**

必要なければはっきり断りましょう!

自分の判断に迷ったらご家族や
親しい方に相談してみましょう!

訪問販売・電話勧誘販売などで
契約をしてしまったけど解約したい…
そんな時は…クーリングオフを利用しましょう

▶ 新潟県消費生活センター 電話番号 025-285-4196

※この情報誌にある記述や写真を無断で転載しないで下さい



小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行
住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

10月号

いーわか **enea**

毎月月末発行

あの時

昨年の地震から早いもので、もう10ヶ月が過ぎました。改めて、亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。

あの日、家には母の実家(川口)から祖母が来ていました。夕飯の支度をしていた母、ストーブ側に祖母が2人、お風呂に入っていた父、いつもと変わらぬ夕方でした。父が風呂から上がり、私は飯台におかずを出していました。その時でした！突然ドーンと言う音と、もの凄い揺れ。一瞬何がおきたのか解りませんでした。母は驚きのあまり声が震え、立ちすくんでいました。私の祖母はリュウマチで、足が不自由なため、椅子に腰掛けたままで、川口の祖母はその隣に座って、ただ「おごった。おごった。」と言つてたのは覚えています。



最初の揺れで一瞬電気が消えてしまったので、台所に居た母は懐中電灯を持ち出し、父と一緒に祖母2人をなんとか外に連れ出し、車の中に避難させました。私はというと、ガスの元栓を切り、ストーブを消し、とりあえず寒くないように、タオルと筆筒から上着等手当り次第に持ち出していました。我が家には犬がいます。犬も恐がり震えていました。しばらくして、町内の人達が見回りに来て、「家の前に車を止めておくと危険だから」と言われ農道に車を移動し、外に居ました。携帯電話のメールで三条に住む兄に、家族の無事と家も崩れる事無く建てる事を伝え、川口の祖母も一緒に居る事も伝えました。川口の叔母は旅行中だったので、連絡が取れずにいました。従姉妹の携帯が唯一解っていたので、祖母の無事を叔母に伝えてもらいました。そうこうしていたら、父がゴザを持ってきて敷き始めました。私も家に行き、豆炭コタツを持ち出していました。幸いにも、家にはプロパンガスがあったので、豆炭もおこす事が出来ました。時間が経つにつれ寒くなり、外で過ごすのも困難になってきた時でした。近所のお爺さんが「家の丸車庫(蒲鉾形)に入ろうや。あこならあちこたねえすけ、ねらそうしようや。」その声に甘え、車庫に敷き物を敷き、外に出していたコタツ



小見山 里美さん 塩殿・34歳

ツを持って行きました。お爺さんも家からコタツを持って来てくれました。まだ揺れているなか、皆で片づけ毛布や布団を持ち寄り、石油ストーブを点けて暖をとっていました。車の中にいた祖母2人も連れて、共同生活が始まりました。深夜になってようやく家に着いた隣のおばさんは、皆が無事で良かったと安心していました。とにかく不安な夜を暖かい車庫で過ごしました。



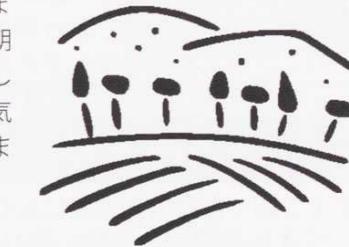
翌朝、起きるとご飯の用意を母達がしていました。ご飯をツバ釜で炊き、味噌汁も作り、遅くなつたが皆で温かい朝食を取ることができました。その時、兄が軽トラいっぱいに食料など物資を持って来ました。兄は驚いていました。隣の部落に居る友達から、食料を持って来て欲しいと連絡があつたらしく、私たち家族や近所の人達が、お腹を空かしていると思って、心配していたからでした。来るまでの間、道路の隆起や陥没。そして家屋の倒壊。悲惨な光景を見てきた兄は、我が家を見てホッとしていました。築80年以上経っているので、もしかしたら…と思ったそうです。



どこの家でも皆片づけを始めていました。1軒の家は、車庫をなんとか住める様にして、家に入れる迄そこにいました。もう1軒も車庫を片づけていました。祖母達は車庫の中に居るだけでした。片づけの合間を見て、畑に行き大根・白菜・キャベツを採つて來たりしていました。次の日、携帯電話の充電をしに、「福祉センターみなみ」に行ってみました。そこも、避難している人が大勢いました。祖母達だけでも、そこに来ることができたら…。トイレも有るし、中は暖かい。何より楽に寝起きが出来るのでは…。そう思い、一旦皆の居る車庫に戻り、相談してみた。出来ることなら…と言うことで、館長さんにお願いしてみた。「付き添いの人が1人居れば」と言って下さった。トイレの近くの部屋を貸してくれました。その間に川口の叔母が来てくれていました。祖母は一緒に帰るつもりでしたが、叔母に「もう少しここに居たほうが良いから、」と言われ寂しそうにしていました。無理もなかったのです。川口に行くのに、途中迄しか車が通れなかったのです。それから、2晩私が付き添いで、

福祉センターにお世話になりました。そして27日、上越の叔父(母の弟)が来て、「家に来ないか?」と言つてくれました。川口の祖母はうつむいたままでした。その時突然また凄く揺れたので「いつまたこんな地震来るか解らないよ。叔父さんの家なら、お風呂にも入れるし、テレビも観れる。私だって、いつ迄も付き添つていられないの。」そう言うと仕方なく同意し、上越の家に避難することになったのです。身支度をしている時、川口の祖母は、「家に帰りたい。帰つて着替えと薬持ってきてえ。」何度も言つていました。着替えは私の祖母の物で我慢してもらい、薬は叔父が後日取りに行き、届けてくれました。川口の祖母は糖尿病でインシュリン投与をしています。その為行き付けの病院に連絡して、上越の病院に治療状況や処方箋等教えて欲しいと、お願いしました。私の祖母も同様でした。どこの病院も引き受けてくれたので、助かりました。1ヵ月もの間上越に避難

して、帰つて来た時の祖母達は、とても嬉しそうでした。地震から1週間して、ようやく電気が使える様になった時、車庫にテレビを持ち込み、皆で観ていた事や、ご飯の時は4世帯で、寝る時は3世帯で犬も一緒に休んでいた事など話しました。近所の親戚の人が、何度も物資を持って訪ねて来てくれた事、上越の従兄弟も千葉に就職しているのに、少しでも手伝える事があればと、来てくれた事も…皆で協力して乗り越えて来た出来事でした。そして、もうじき稻刈も始まります。祖母達も元気で過ごしています。小千谷の復興に向けて、皆で頑張つていきましょう。そして、朝晩冷えてきました。体調にも気をつけていきましょう。



「え、何！」

平澤 美以子さん 東山・50歳

「え、何、ふざけてるの」「え、何あのけむり」「え、何地震？」文字で書くとどうも変だが私の頭の中に浮かんだ（考えた）事の順序だ。

私はあの日、五日町からの帰り主人と川口荒谷のトンネルの中で震度7に遭った。車が蛇行、トンネル出口付近の崩落、土けむり、つづく地震が「」の中のことが私の頭の中でほとんど一瞬のうちに浮かんだ。あとはもう夢中で「ゆっくり行こう、ゆっくり行こう」と主人につぶやいていた様な気がする。

山をどうにかくだり、荒谷の部落の一番下の橋でもう車で上ることが出来ず、車を止め降りたところでまた大きな余震、腰がぬけた様になり立ていられない。回りをみまわすと道脇の家からおばあちゃんが這う様に出てきた。まるで遊園地のコーヒーカップに乗っている様な気がした。そのうちゴーと言う様な音が聞こえオトコショの「…ちの池がぬけた！」と言う声、道を流れて来る水、暗くなってくる天気、頭から血を流しているおじさん、声もでないで震えるおばあさん、部落の人も集まって来た「川口へはぬけるか？」「ダメだトンネルがあぶない」「蘭木へは？」「わからない？」色々な声がとぶ。

どれくらい時間がたったろう、「家へ帰ろう」と2人で思った。親切に懐中電灯を貸してくれる人がいた。「車で休んでください。キーをつけて行きます」「わかった、気をつけていけ」見送られて荒谷の部落を主人と20数年ぶりにしっかり手をつないで、あちこち崩落しドロドロの道を歩き出した。蘭木の部落までの道、普段は気持ちのいいだけの山道がひ

どく変わっていた。トンネルは怖くては入れなかった。蘭木の人が三ヶ所に集まっていた「気をつけて行け」と声をかけてくれた。山むこうの火事のような明るさがすぐ気になった。やはり火事だった。岩間木のあたりが燃えていた。膝までドロドロになり主人にひっぱられながら、必死で山を降った。蘭木橋あたりから、走っていた様な気がする。家はあった。子供の名前を呼んだ。前の家の人が「橋の向こう辺りにいるよ」と教えてくれた。今来た道を橋の所まで戻り、近所の人達とブルーシートにくるまっていた子供と対面。「お母さん達どこかで埋まっていると思った」と涙目で話してくれた。それも不思議でなかつたなと思った。



私達が道路でまとまっていると、男の人が2人塩谷から歩いて来た。「塩谷では家がつぶれて人が下敷きになっている。何とか消防などと連絡がつかないか？」必死で話すが、私達も携帯も通じずどうにもならなかった。「でも今なら川口に出られるかもしれない。私達が来たばかりだから」と話し懐中電灯をわたす。走って蘭木橋をわたって行った。なんとか川口について早く助けが来ることを祈った。その夜は荷頃小学校の跡地の建設中の家の車庫の中でお年よりは一晩過ごし、私達は外で焚き火をして過ごした。あんなに降るような星空はこれまで、これからも見ることが出来ないと思うほどきれいだった。でも、余震があるたび「ピシッピシッ」と木の根の切れる音がして、そ

の後「ドドー」とどこかの山が崩れる音がする。一睡も出来ないでただただ早く明るくなれと祈った。夜中に橋の向こうの山の間から懐中電灯でない光が2つこっちに向かって来たので橋のたもとまで走った。マウンテンバイクに乗った自衛隊の人が自分達で道をつくりながら来てくれた。私達に「ケガ人はいないか」と聞き塩谷の方へ走って行った。あの2人が無事着いたんだ。助かってほしいと祈った。その後朝方大勢の自衛隊が塩谷方面へ向かって行った。その人達は塩谷で救助活動をしてそのまま山古志へ行ったと後で聞いた。私達はもう一晩野宿をして25日昼自衛隊の

ヘリコプターで老人、子供、病人を運び、後は自衛隊が応急的に作った道を4WDの車に相乗りして山を降りた。その後2ヶ月間の避難所生活を経て仮設生活と続いている。来年の春ごろには帰りたいと思っていますが、どうなりますか。

最後に色々な人達のあたかい心にすごく感謝しています。地震はつらくたいへんなものだったけど、それ以上のあたかい心にもふれた気がします。

ありがとうございました。



「廃業した友よ元気を出して」

大谷 昭吾さん 城内・66歳

中学の同級生だった友人が、10月23日の地震の翌日「オイ、オオタニ、大丈夫だったか?」と声を掛けに寄ってくれた。私が「お前の家は?」と聞くと「うん、駄目だ!完全に駄目だ!自宅はそうでもないが、借りているラーメン店の方はめちゃくちゃだ、店の営業再開は不可能だ。」と言った。



あれから間もなく一年になる。彼の店はついに営業不能になった。もう彼の美味しいラーメンは二度と味わえない。20年以上の間、おいしいラーメンを食べさせて呉れて有難う。一日も早く地震から立ち直って元気になってくれることを祈っています。これからも、同級生として友人関係は続けたい。

仮設住宅にお住まいのみなさんへのお知らせです

10月15日(土)

中越地震被災地支援コンサート



場所:千谷第1仮設住宅集会場
時間:15:30~16:30

主催:社会福祉法人 読売光と愛の事業団

10月10日(祝)

「郷土芸能交流会」

主催:郷土芸能交流実行委員会

場所:千谷仮設住宅
時間:14:00~

場所:元中子仮設住宅
時間:15:15~



10月 健康体操の日程

どなたでもできる簡単な健康体操、大好評!集会場・談話室にておこなってます。ぜひ、参加してね!!※健康相談後体操となります

★健康体操 体育指導員

★健康相談 健康センター看護師

■元中子 3日(月)10:00~12:00	■千谷川 11日(火)10:00~12:00
■千谷第1 4日(火)10:00~12:00	■吉 谷 11日(火)14:00~16:00
■土 川 4日(火)14:00~16:00	■栄 町 14日(木)10:00~12:00
■千谷第2 6日(木)10:00~12:00	■両新田 17日(月)10:00~12:00
■上ノ山 7日(金)10:00~12:00	■城 内 18日(火)10:00~12:00



お知らせ

中越地震復興関連イベント情報

10月8日(土)「おもしろファミリーコンサート」

第1部 「親子で楽しむハープコンサート」

入場無料

第2部 「動物たちのナイショ話」 動物博士:吉村卓三先生

場所:サンラックおぢや

時間:14:00~

主催:スイミングアカデミー小千谷

後援:小千谷市教育委員会・小千谷市社会福祉協議会



10月10日(祝)「郷土芸能交流会」



埼玉県川越市の皆さんによる「夏祭り獅子」及び「万作踊り」と小千谷市郷土芸能「豊年獅子舞」「共楽会獅子」「楽天会神楽」「巫女爺」による交流公演です。郷土芸能を通じて震災復興激励を行おうとするものです。

場所:市民会館大ホール

開場:18:00 開演:18:30

主催:郷土芸能交流実行委員会

問合せ先:小千谷市社会福祉協議会

ボランティアセンター tel.0258-81-6252



入場無料

10月15日(土)「中越地震被災地支援コンサート」

東京芸大などの卒業生で構成された「日本の音芸術を創る会」のメンバーによる美しい歌声を披露します。

協賛出演として市内のオカリナ演奏グループ「もみじの会」みなさんも出演してくれます。

場所:小千谷市総合産業会館
サンプラザ ホール

時間:18:30~

社会福祉法人

主 催:読売光と愛の事業団

問合せ先:小千谷市社会福祉協議会

ボランティアセンター tel.0258-81-6252



入場無料



お知らせ

中越地震復興関連イベント情報

10月16日(日)「光と愛のふれあい動物園」

ユーモラスなカメさんのレース、ミニ豚君たちのショー、観客の書いた手紙を届けてくれるカメの郵便配達まで、芸達者なミニ動物たちがいっぱい。小さなお子さんをはじめ、家族みんなで楽しめる移動動物園ショー ZOO KISSにどうぞお出かけ下さい。

ふれあいコーナー

展示コーナー

ファームコーナー

ポニー乗馬コーナー



場所: 日本ベアリング(株)駐車場 (雨天の場合は同体育館)

時間: 午前10時~午後3時

主催: 社会福祉法人 読売光と愛の事業団

協力: 日本ベアリング(株)・小千谷市社会福祉協議会

問合せ先: 読売光と愛の事業団 tel.03-3216-4921

10月22日(土)「未来への手紙」復興への思いを込めた 「タイムカプセル」に参加しませんか?

復興への思い、家族や友達への想い、未来のメッセージ等を書き綴って、タイムカプセルに入れてみませんか? タイムカプセルは小千谷市総合体育馆に展示し、復興を成し遂げている事を願い、2014年10月25日(日)に開封、返却いたします。

■参加資格

小千谷市在住、出身者の方、近隣にお住まいの方、災害ボランティアとして活動された方、中越地震の被災地を応援してくれた全国の方々

■参加方法

手紙を書いて封筒に入れ(封筒には返信先の住所を記入して下さい) 当日ご持参下さい。
当日参加できない方は〒947-0021 小千谷市郵便局留(復興の集いタイムカプセル)
に郵送してください。期間: 10月1日~10月21日まで

場所: 小千谷市総合体育馆 コミュニティプラザ(広場)

時間: 13:00~16:00 雨天時総合体育馆玄関前

主催: 中越地震 復興の集い実行委員会

問合せ先: 復興の集い実行委員会 星野祐磨

tel.080-5525-5711



小千谷市社会福祉協議会

小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地

TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

11月号

いーわか



毎月月末
發 行

あの日あの時 井口 久美子さん 城内・40歳

あの日あの時
2004年10月23日
みんなの体験談

までに経験したことのない揺れと音に、床にペし
ゃんと座り込み、頭の中が真っ白になった。あまり
のすごさに、地震だと理解するのに少し時間がか
かった。最初の揺れがおさまった時、夫が2階にい
た息子たちを助けに行った。息子たちは、しっかりと
、頑丈な机の下にもぐっていてくれた。あとで夫
から「タンスが倒れていて、あの時、机の下にいな
ければ下敷きになっていたかもしれない」と聞き、
背筋がゾッとした。しばらくすると、次の余震が襲
ってきた。揺れがおさまったところで懐中電灯を持
ち、外に逃げた。隣近所も皆、外に飛び出してき
た。子供たちに「大丈夫、大丈夫」と声をかけながら、肩を強く抱きしめていた。

そして、私はずっと携帯を握りしめ電話とメー
ルで連絡を取り続けていた。部活で出かけていた
長女だけが、今どこにいるかまったくわからなか
ったからだ。電話はつながらず、メールを送る。待

てずにまた電話をかけ、メールを送る。何度も襲ってくる
余震に不気味さを感じながら…。しばらくしてやっと、娘
から、中学校のグランドに

友達と避難したとの連絡が入る。これほど携帯電
話がありがたいものと思ったことはない。家族み
んなで長女の無事の知らせに安堵した。

その頃、カラーラジオのわずかな情報で自分たち
の置かれている状況を把握しながら、夫は職場に
向かうことにして。家族を守りたいと思う気持ち
を抑えながら…。しばらくして、余震も落ち着いて
きた頃、とりあえず今夜は車の中に避難することに決め、父と母そして姉に子供を頼み、私も職場に
に向かった。

この日、10月23日の夜から家を離れ、再び我が
子と夫、父、母と家族のみんなで顔を合わせること
ができるのは12日後の11月4日の夜であった。これ
ほど家族と一緒にいることの幸せと温かさを感じたことはなかった。

一年がたとうとしている今も、あの頃のことを
思い出すと胸が熱くなる。



★「あの日あの時」中越地震の体験談を募集しています。お話ししたい方、スタッフがお話しを聞きにお伺いします。ボランティアセンターまでご連絡ください。

仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

11月健康体操の日程

どなたでもできる簡単な健康体操、大好評!
集会場・談話室にておこなっています。
ぜひ参加してね!!

元中子	1日(火)10:00~12:00
千谷第1	7日(月)10:00~12:00
千谷第2	8日(火)10:00~12:00
千谷川	11日(金)10:00~12:00
上ノ山	14日(月)10:00~12:00
栄町	15日(火)10:00~12:00
西部開発センター	18日(金)10:00~12:00
平沢	21日(月)10:00~11:00
西部公園	21日(月)11:15~12:15

★健康体操 体育指導員

★健康相談 健康センター看護師

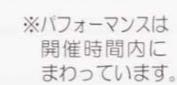


地域のお茶の間開催中

城内お茶の間 12月より開催予定です。
詳しくは次号でお知らせします。

神戸から コーヒー・ハーブティ
クッキーの提供があります

「胡弓の演奏」 演奏者 李亞輝さ
「南京玉すだれ」 「バルーンアート」
とき 10月29日 (土) 2時~4時30分
ところ 千谷川仮設談話室
千谷第2仮設集会場



※パフォーマンスは
開催時間内に
まわっています。

お知らせ

真人秋の陣

日時/10月29日(土) 11:00~16:00

場所/真人住民センター周辺

★小千谷高校吹奏楽部による演奏

真人出身のジャズシンガー塚田直江さんのライブ&谷高吹奏楽部のセッション

★豚汁無料サービス!!

★焼いも・さつまいもプリン・芋煮等あり

★フリーマーケット等イベント多数

お問合せ先
tel.86-3002

入場無料

市民ふれあい交流事業

人形劇団がやってくる

泣き虫桃太郎

ろう者と聴者でつくる人形劇、せりふの他に手話や視覚的な身体表現などを取り入れ、わかりやすい内容の劇です。4才のこどもさんから高齢者まで楽しめます。

申し込み方法

無料ですがチケットが必要となります。小千谷市社会福祉協議会(サンラックおぢや)に直接とりに来てください。郵送の場合はチケットが必要な方のお名前・年齢・ご住所・電話番号を記入して80円切って貼付して返信用封筒を同封下さい。 申し込み・お問合せ先 電話番号 83-2340

てんつくマン~天国を作る男~ 合同ライブ
エンジェル京子~ヒーリングアーティスト~

日時 11月17日(木) 18:00~20:00

場所 小千谷市総合産業会館「サンプラザ」3F大ホール

詳しく述べ
お問合せ先 090-9302-0702 柳田まり

入場無料

詳しく述べ
お問合せ先 090-9302-0702 柳田まり

※この情報誌にある記述や写真を無断で転載しないで下さい

小千谷市社会福祉協議会

小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地

TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

12月号

いわゆる onea

毎月月末
発行

赤ちゃんのお風呂 渡辺弘さん 上ノ山・66歳

あの日あの時
2004年10月23日
みんなの体験談

あの中越大地震から一年が経過した。あちらこちらに新しい家が建ち始め、下水道や道路の補修工事が各地で行なわれていて、交通渋滞が起きるくらいに、支援のための県外ナンバー車が目につく。復興は着実に進んでいる。だが、あの恐怖は鮮明に記憶され、長年脳裏から離れることはないだろう。

あの時私は市民会館事務室に一人でいた。突然「ズッシー

ン一瞬突き上げられたような感じがした。何だ! そのあとあの堅牢な建物が「グラグラ」地震だ!! 大ホールでなつメロの皆さんが、明日の発表会に備いて準備万端リハーサル中であった。「皆外に出て!!」皆さん取るものも取らずに駆け足で、市民体育馆駐車場に無事23名が避難した。(今思うと本番中でなくてよかったですと胸をなでおろす)

地震発生直後から電話も携帯も通じず連絡は一切途絶えた。全て身の周りの状況を見ながら行動するしかなかった。それから強い余震が何度も襲ってきた。あの大きな体育馆が揺れて二階のサッシが次々と外れ落ち「ガチャーン、ガチャーン」停電となっているあちこちで「キャー」という悲鳴が聞こえる。地面に立っていることができず四つんばいになってしまった。この強い揺れと破壊音が交錯して大人でさえこれからどうなるだろうかと不安と恐怖がよぎった。まもなく職員が駆けつけて来てくれて心強かった。余震が少し治まった頃に、

大ホールに置いてきた車の鍵や財布を交代交代で素早く取りに行って来た。その時はもう舞台の照明セットや事務室の中は滅茶苦茶であった。街の方から車が連なり、毛布をかぶったり、レジャーシート等を抱えた人達がぞろぞろと避難してくる。「トランスが落ちただから、電柱の近くを通らないで!」「どこに行ったらいいですか?」「グランドの真ん中へ行って下さい!」と誘導を続けた。「平成町で家がつぶれています!」「上ノ山でもつぶれています!」避難してくる人達が次々と情報をくれて、これは大変なことになっていると思った。

満月で明るく星空にヘリコプターが何機も灯りを点滅しながら飛んでいる寒い夜であった。若い職員が市民の家へ毛布を取りに行って来るという。まだ余震が続いている中「気をつけて!!」彼等が満載して来てくれた毛布はアツと言う間になくなり二度三度と最後には布団まで積んで来てくれて、大勢の人が寒さをしのぐことができ喜ばれた。

しばらくしてからグランドに行って見た。すでに人と車でほぼ一杯になっていた。どこから

調達したのか荷物置用のパレットの上に何人かでいる人。相撲場の土俵上に陣取っている人。一番感心したのは、誰が整理した訳でもないのに、車は縦方向に整然と並んでいた。最初の車の向きに習って並んだのだろうか?いつの間にか辺りがうっすらと明るくなってきた頃ようやく(家に行ってみよう)と思った。家は大変な状態!廊下の壁は落ち、家具は倒れ、テレビやレンジは飛んでいる。仏壇を元の位置に戻し、冷蔵庫から飛び出した食品だけ拭き取り、後は取り敢えずそのままにしておくことにする。



それから8日間車中泊が続いた。幸い長女の家の近くの駐車場を借り、次女夫婦もみんなで一緒にいることができて良かった。長女は9月27日に男の子を出産、まだ1ヶ月もたっていない赤ちゃんがいる。次女は妊娠6ヶ月でお腹が大きい。昼間は車庫の中で過ごし、トイレの時だけ家に入る生活が続いた。その時、近所のお母さん達が手に手に鍋やヤカンを持って来てくれた。「これで赤ちゃんをお風呂に入れてください!」お湯を沸かしてくれた。私はこの突然の心温まる配慮に自分が恥かしく思えた。赤ちゃんをお風呂に入れてやることなど全く気付く余裕さえなかったからである。早速風呂の準備をして、手足を伸ばして気持ちよさそうに入浴している赤ちゃんを見て目頭が熱くなった。お風呂が終つてから長女と近所の人達が集まって煮炊きしている車庫のところに礼に行った。

原稿募集のお知らせ

★「あの日あの時」中越地震の体験談を募集しています。形式は自由です。原稿はファックス・メールでも受け付けております。また、ご連絡くださればお伺いいたしますのでボランティアセンターまでご連絡下さい。

■電話番号 0258-81-6252 ■ファックス番号 0258-83-4683
■メールアドレス tvac_ojiya05@yahoo.co.jp



皆さんでカセットコンロや練炭コンロでお湯を沸かして持って来てくれたのだ。「ありがとうございます」長女も涙を拭きながら礼を言っていた。長女達はこの地に家を建て移り住んでからまだ年数が浅いのに、近所の皆さんから本当に良くして貰っている。物資の配給の場にミルクやオムツがあったからと少しずつ貰って来ていただいて大変助かりました。

この地震で私たちは大きな物的損失や精神的な衝撃を受けた。その反面、目に見えない貴重な体験をした。隣近所の絆の大切さも実感した。小学生の孫たちが飲み水やトイレに流す水汲みまで自発的に自分に出来ることは何かを見つけ行動した。遠くにいる親戚からお見舞いを貰ったり、地震の翌日に松本から車で一日かかって飲料水や食料品を届けに来てくれた友人等一層親交を深めた。

地震直後は大変な思いはしたけれども、全国から心のこもった沢山の支援物資をいただけてありがとうございました。又、自衛隊やボランティアの皆さん、本当に親身になって接していただいたありがとうございました。お疲れさまでした。

本当に困った時に助けていただいたこの気持ちをいつまでも忘れないように、いつか今度は、自分にできることがあったら一生懸命恩返しをしよう。まだ大勢の方々が家に帰ることができず、狭い仮設住宅で不自由な生活をされている。みんなで知恵をだし協力しながら地震の前の生活より、一層豊かで楽しい暮らしが一日も早く来るすることを願ってやまない。



魔の10月23日

あの忌まわしい大地震、この天変地異は、被災者全ての人々にとって恐怖となって心の奥深く沁みついているに違いありません。

10月23日午後5時56分、「ゴー」と云う地鳴りと共に、いまだかつて経験した事のない激しい揺れと、震度6弱という余震が、これでもか、これでもかと襲ってきたのです。

その時私は居間にいました。風呂に入ろうと思い上着を脱いだその瞬間!畳がドンと突き上がり、激しい揺れが襲いかかってきたのです。すぐ治まるだろうと、たかをくくっていたのですが、これは半端な揺れではないと思い、とにかく外へ出なくてはと必死でした。

「アッ!停電だ」すぐさま懐中電灯をと思い、台所に行こうとしたその時、すぐ脇のテレビが倒れ足の甲の上に落下しました。その時は無我夢中でいたのでしょう、あまり痛みも感じませんでした。女房が「早く早く」と外で呼んでいました。台所に入った瞬間、冷蔵庫が私の頭に倒れかかり、食器棚からは大量の器が一気に飛び出し「パン、ガシャガシャ」とすさまじい音と共に全壊したのです。ようやく、四つん這いになりながらも外に脱出する事が出来ました。

しかし、外はかなりの冷え込みで、薄着の私は冷えと恐怖で体が小刻みに震えだしました。度重なる余震で、地盤が陥没しガレージが倒れんばかりに傾き、家は前後に大きく揺れました。「ああー、これで我が家もおしまいか」と思いました。

余震も少し落ち着いたころ、息子が何とか家にたどり着き、お互いの無事を確認し合い、家も倒壊を免れ一安心。しかし、ライフラインは全て絶たれ、何もする事が出来ません。まずは避難場所を探さなければ・・・、とにかく一番近い「小千谷小学校に非難しよう」と道路の亀裂を避けながら、喘ぎあえぎ車を走らせ到着する事が出来ました。グラウンドには避難の車で溢れていました。それから2、3時間経った、確か11時を少し回った頃、急に足の甲が痛み出し、みると腫れ上がり、とうとう歩けなくなりました。翌朝、一番に治療を受ける為病院に行きました。予想はしていたのですが、院内は怪我人や病人で、長椅子は

田村 功さん 船岡町・70歳



もちろん廊下一杯に患者さんで溢れていました。大勢の医師、看護師、事務員さんなどが献身的に治療に奔走していました。一時間程待ったでしょうか、私もようやく手当てを受ける事が出来、足の甲に骨折があるかも知れないとゆうことでギブスをあてがわれ、松葉杖姿で帰宅しました。休む暇も無く、幾度ともなく襲ってくる余震におののきながら足を引きずり家の片付けに追われ、暗くなれば学校のグラウンドへと車を走らせました。

車中二泊目の夜、照明が明々と灯され、暖かい豚汁やおにぎりが炊き出され、身も心もぬくもり、あの時ほど救援に駆けつけてくれた人達に何とお礼を申し上げたらよいのかわかりませんでした。

その日の朝からは町内の避難所も南保育所に設営され、松葉杖をつきながらの手伝いで、町内役員として、何も出来ず、役に立たずじまいでした。大勢の人達たちが身を粉にして避難者のサポートに奮闘している時に、誠に申し訳なく、その場を去らざるを得ませんでした。家にあっても、水運びも出来ずじだんを踏みました。肝心な時に皆と一緒にになって救援活動が出来なかつた事が、いまだに心の底に引っ掛かっています。

今回の大震災に関わって下さった大勢の関係者の方々、ボランティアの方々、日赤の医療班、自衛隊の人達、そして全国からの心のこもった援助に対し、人々の善意に「ありがとうございます」と、いつまでも感謝の気持ちを忘れません。



地震の日

10月23日、その日の昼間は曇りで肌寒い日でした。私は母と親戚のおばさんと三人で、イカザワへ紅葉を見に行きました。

夕方5時ぐらいに家に戻り、一日中運転をして疲れていたのでベットで横になっていました。母はこの日イカザワで手に入れたきのこで味噌汁を作り、ひじきの混ぜご飯を作っていました。5時45分頃母が、「夕飯の支度ができるので飯にしよう」と2階まで呼びに来てくれました。いつもなら、1階から大声で「ご飯だよー！」って大きな声で叫ぶのだが（まあ、呼ばれた私もいつもすぐ行くわけでもなく、ダラダラしている事が多いのですが）この日に限って珍しく部屋まで呼びにきたので、なんとなくすぐ台所へ行きました。父は先に食べはじめました。私もテーブルにつき、最初に今日の収穫のきのこの味噌汁を飲もうと手に持った瞬間！！**唚然！** 地震だとすぐにわかりましたが、あまりの凄まじい突き上げる揺れに、テーブルに掘まりながら、どこか別の所で大変な事がおこっているのだと思いました。しかし、大変な事がおこっていたのは自分の足元だったのですね！天井の高さほどある食器棚からは、滝のようにお皿やカップが次々と流れ出るさまは今でも忘れられません。

私と父はテーブルに掘まっているのがやつとの間に、なぜか母はいち早く外に出られる窓とその横にある冷蔵庫に体をはりつかせていました。私はガスレンジ側にいた父に「ガスの元栓しめて！」窓側にいた母に「窓開けて！外にでないでそこにいて！！」と叫び、私の足元でフラフラして

いた飼い犬の首根っこをつかみ、引きずりながら母の所まで行き「犬を押さえておいて」と母に犬を託し、玄関の近くにある物置まで懐中電灯をとりにいきました。しかし、物置の中もメチャクチャで懐中電灯がどこに飛んでしまったかわからず、携帯電話の灯りで懐中電灯を探しました。なんとか探し出し懐中電灯を父にわたして、私は先に玄関から外に出て、家の前にとめて置いた車を家から少し遠ざけました。私の後を追って、家から飛び出してきた犬をとりあえず車に入れ、それから仕事で家にいない姉と弟にメールをうち無事なことを知らせました。

家の前で避難している時の、生活音のない今までに感じたことない無機質な空間、冷たい空気、

瀬沼 有美子 さん 城内・34歳

きれいな月が心に強く残っています。ただ聞こえてくるのは、大地の底を不気味に走る音と、車庫のシャッターが小刻みにカタカタ揺れる音でした。

しばらくして姉が徒歩で会社から戻ってきたので、情報を得る為姉と市役所まで行きました。そこには避難して来る人々、自分の避難先を聞いている人などがいて騒然としていました。（ちなみに私も日頃防災には全く関心がなく、自分の避難場所すらわかりませんでした）そんな中、まだ本震が起こって間もないというのに報道車も来ていました。この人たちとはいってここまで来たのだろうか？と不思議に思いながら遠まきに見ていきました。それから、警察署と消防署の前まで行ってみたら、大型観光バスが一台とまっていました。運転手さんが、警察の人に道路状況を聞いていました。柏崎で結婚式があり、十日町へ帰る途中に地震に遭ったそうです。どの道も駄目で長岡経由で小千谷まで来たが、小千谷からは十日町へは行けず、警察の人が「長野県から入るしかない」と言っていました。ちょうどバスの中にあるテレビがついていたので、しばらく外から地震のニュースを覗きみしながら、テレビも映るカーナビが車にあれば良かったのにと思いました。

家に一旦帰って車を親にあずけ、私と姉はまた市役所へ行き、そこに用意されてあった市のマイクロバスの中で一夜をあかしました。結局ねむれず、時間がたつにつれて、報道車や県外の消防隊、自衛隊が車列を組んで続々と集まつてくる光景をバスの窓から漠然と見ていました。

うっすら明るくなってきたころ家に戻りました。弟も川口近くの職場から朝帰ってきて、家族全員顔を合わせる事ができました。

家の周りは瓦が散乱、車にも瓦のあたつたあとが無数に有り、地震の時すぐに家から飛び出さなくて良かったとつくづく感じました。また、地震直後まで横になっていたベットの上には大きなスタンドが倒れており、母親が呼びに来てくれなかつたらと思うとゾッとした。更に、犬もよほど怖かったのでしょうか！今までに嗅いだ事がないような、強烈な悪臭を出していました。犬を3日間避難させていた車の中は消臭しても半年くらいは臭いがとれず、動物も強いストレスを感じていたのだと思います。



震災と自主防災活動

鈴木 賢二さん 千谷川・63歳

困るのでシャッターを開けたまま寒さに凍えながら毛布等で暖を取り、余震が来るたびにけたたましく鳴る救急車のサイレンの音とヘリコプターの爆音に眠れない夜を過ごしました。

その時、私は毎週末に訪ねてくる娘親子と夕食には孫の大好きな小千谷そばを食べに行く約束を楽しみに、帰宅したらすぐお風呂に入れるようにと風呂場の掃除をしていました。娘婿は二階で娘から「今ジャスコを出て家に向かいます」との電話を受けたその1~2分後の時でした。あの恐ろしい破壊音と家の揺れは今まで体験をしたことも無い激しさで思い出したくありません。

暗闇の中、娘婿と声をかけ合い、屋外に飛び出しました。どのようにして出たのか全く記憶にありません。娘たちの車が戻つて来たので車庫に入れ、道路に避難した近所の皆さんと「凄かったね！びっくりしただろう！○○ちゃん（11月末に2歳になる孫の名前）は大丈夫だった！」と話を始めた時に2度目の地震が襲つてきました。近所の皆さんと隣家の車庫前の広場に集まり私は孫の上に覆い被さり、地面に伏せて、せめて孫だけはケガをさせてはならないと思いました。その時、家の車庫前にコンクリートの塊が電柱から落ちてきました（翌朝になってわかったことは、コンクリートの塊は我が家基礎が欠けて落ちた塊でした）電柱のトランスが2個共半分落ちかけ、電線が大きく揺れていたので切れないか、また電柱が倒れてこないか心配で見上げているのが唯一できる事でした。

その後も次々襲つてくる余震に泣き出す子供や怯えで体の震えが止まらない人等を「大丈夫！大丈夫！直ぐ終るから」とお互いに励ましあいながら満天の星空を眺めていました。

町内の防災会は地震直後から活動を開始しました。防災会長（町内会長）は地震で段差が生じた道路、ガラスの散らばった小路等を軽自動車で何回となく見回り、町民を励まし安全の確認に駆け回ってくれました。防災会より午後10時ころ厳しい冷え込みになつたので、屋外から車の中や車庫に入るようとの指示が出ましたので、我が家も全員が車庫に入りました。娘と孫は車庫の車の中に、我々は地震でシャッターが開かなくなると



3箇所で給水を始めてくれ何処も長い行列が出来ました。午後からは食料支援も始まり1日2回各1000食分、11月3日からは食料の自給ができるようになってきたことから600食分を配給していただき町内協議委員・班長さん等皆さんとの協力で各家庭に配給を実施しました。

26日市立北保育所が町内の指定避難所になりました。防災委員が昼夜交代で管理当番をしました（10月31日閉鎖まで）。26日~27日にかけて青森県等から救援に駆けつけてくださった工事関係者の懸命な復旧作業により町内の全域で停電が解消久しぶりの明るい夜を迎えることが出来ました。30日地域消防団の協力を得て急傾斜地の崩落箇所や河川の土手の亀裂が入った箇所をブルーシートで覆いをしました。

11月5日ほぼ町内の全域に待望の水道を

供給できまとと水道局から電話がありました。ライフラインの復旧工事がほぼ終了したことから、11月6日会長が市災害対策本部に出向いて今までの食糧支援の御礼と中止を報告。10月24日以来毎日2回開催してきた災害対策会議を終了し、町内災害対策本部は暫くの間会長宅に置くこととし自主防災会の活動を終了しました。

町内防災会は平成9年4月発足し（町内会役員が防災会役員を兼務）7月の茶郷川の洪水による堤防の土壠積み作業や河川流域の宮田町住民の避難、10月の中越地震による救援活動と防災会創設以来未曾有の体験をしましたが、防災会長の下統制のとれた活動をする

ことが出来うまく機能したのではないかと思っています。



地震災害直後から救援活動をしてくださった熊谷市水道局の皆様、青森県等各地から駆けつけライフラインの復旧に昼夜活動してくださった工事関係者の皆様、食料支援等大量な援助物資を支援して下さいました全国の皆様に対して心から感謝申し上げます。

大きく変わる



あの日、長岡から帰り部屋でパソコンをしていました。ズドン！という音と共にパソコンが落ちた、次の瞬間ものすごい横揺れに襲われた。違う部屋にいた母親を呼びながら呼びかけ無事を確認、急いで母の手を引き、倒れたタンスの上を歩いて外へ・・・。この時唯一手にしていたのは携帯電話だけだった。家族にメールを送っている最中二回目の強い揺れに襲われた。何が起きているのかも分からずただ身を寄せて、安全な所まで移動していた。揺れが納まり隣りのじいちゃん、ばあちゃんを思い出し、訪ねると玄関はふさがっていて、縁側から声をかけた。「何があったがいや？」中から声が聞こえ、外に出るように呼びかけ、家から離れた道に移動した。また強い揺れが襲い、身を寄せて固まっていた。

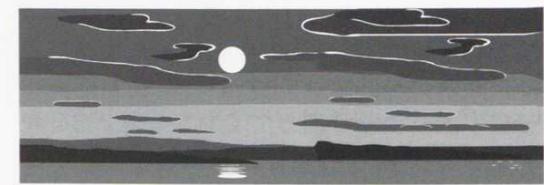
あの日は寒かったため、家から布団や食料を出しに入った。めちゃくちゃになった部屋、無我夢中で布団を出した。余震のたびに外に飛び出しなんとか落ちていた。その時今まで気を張っていたせいか、安心したところで一気に震えが襲ってきた。タバコに火をつける手がガクガクしてうまくつくれずにいた。

周りの様子がわからず、「みんな大丈夫か？」と叫んでいた。周りから声が聞こえ少し安心した。携帯にメールが入り兄貴と父親の無事を確認、千葉の友人から「大丈夫？」と連

星野 佑磨さん 東山・22歳

絡がきた。すぐ「詳しい情報をくれ」と送り、色々な情報をもらって、はじめて地震が起きたことを知った。揺れがおさまったところで周り近所で集まろうと話し、一つの場所に集まつた。そこに妙見から歩いてきた父親が帰ってきた。はじめて周りの情報が入り、小千谷全体が凄い事になっていることを知った。普段は家から小千谷の夜景が見えていたが、23日はパトカー、消防車の赤いランプしか見えなかった。あの日は満天の星空で一生見れるか見れないかと言えるほどきれいだった。一睡も出来ぬまま夜が明け、見渡す山が崩れ、削れていた。今まで緑のきれいな景色から大きく変わっていた。

今回の地震で辛い思いもしたが、避難所で出会ったボランティア、子供たち、色々な人と触れ合えて、自分自身大きく変わった。うまくは言えないけど地震によって忘れていた大切な事を気付かせてくれた。



妙見崩落現場で

片岡 慎太郎さん 朝日・67歳



一回目の地震で妙見崩落現場では四台の車を巻き込んだ。道路には進むことのできない車・車・人・人でいっぱいになった。続いて襲ってくる余震に岩石が崩れ落ち、バス・車・人が右往左往して暗闇の中を引き返す。私はやっと車が動けるスペースができる家に向かおうとした時、暗闇の中から「タスケテクレー！」と悲鳴のような声が聞こえてきた。崖下の水面から、さらに二人三人と助けを求める大きな声に、帰りの出足が止まる。甲高い女性の声もたえまなく聞こえてくる。助けに向かおうとしても余震が襲ってくるから自分の体もふらふらする。電話も携帯も使はず連絡のしようもない。暗闇の中であいかわらず助けを求める声はますます悲惨な声になるが、自分ではどうすることもできず、ただうろうろするばかり。余震が襲うたびに助けを求める声の方に次々

と大きな岩石が落ちていく。水面におちたときはさらに不気味な音がする。とめどなく助けを求める悲鳴、またしても帰る足が止る。でも、家には足の弱い九十歳の母が一人で居るはずだ。この地震でどうしただろうか。一刻も早く帰らなくてはと気持ちはあるが、相変わらず疲れきった声が助けを求めてくる。そうだ！確認した事だけでも知らせてやろうと懐中電灯で合図を送ってやる。そして「助けに行くから」と大声で呼びかけるが、台風23号の雨で信濃川は増水し激流の音で返事は返



ってこなかった。しかし、懐中電灯で繰り返し合図を送っていたら気がついたようで安心する。



一時間ほどしてから消防署の小型車が巡回にきてやっと連絡がつく。赤いランプの回転を確認して助けを求める声もやっととまる。

消防隊員が素早く準備すると、投光機の中を体にロープを付け、水面近くまで降りていく。まだ余震がくる。慎重に連絡を取りながら作業が続く中、トラックの運転手一人が道路まで上がってきた。運転席が水中に入ったため泥水をいっぱい飲んでしまったと言いながらかすり傷一つなく元気で握手することができた。

「あ、あ、よかったです！」



後日家族と会社の人達がお礼に来てくれた。運転手には5歳くらいの可愛い女の子が居た。暖かい日差しを受け、現場を見ながら皆でもとても喜んでくれた。



仮設住宅にお住まいのみなさんへのお知らせです

12月健康体操の日程

★ どなたでもできる簡単な健康体操！大好評！集会場・談話室にておこなっています。ぜひ参加してね！！



※健康相談後体操となります

元中子	1日(木) 10:00~12:00	栄町	12日(月) 10:00~12:00
千谷第1	2日(金) 10:00~12:00	両新田	13日(火) 10:00~12:00
千谷第2	5日(月) 10:00~12:00	西部開発センター	16日(金) 10:00~12:00
上ノ山	6日(火) 10:00~12:00	西部公園	19日(月) 10:00~12:00
土川	6日(火) 14:00~16:00	平沢	20日(火) 10:00~11:00
吉谷	8日(木) 14:00~16:00	城内	20日(火) 11:15~12:15
千谷川	9日(金) 10:00~12:00		

★健康体操 体育指導員 ★健康相談 健康センター看護師

■お茶の間 日時お知らせ

- ◎両新田 月・水・金 10:00~12:00
- ◎土川 火・水・木 10:00~12:00

注意：土川の開催日時は今まで通りですが、12月の体操はお茶の間時間外になってしまいます。

- ◎城内 しばらくの間お休みしますが、ご意見・ご要望がありましたら、ご連絡下さい。

■お茶の間 年末年始のお休みのお知らせ

- ◎12月29日(木)~1月4日(水)までお休みです。
1月5日(木)より始めます。
両新田・吉谷は1月6日(金)
平沢は1月10日(火)からのスタートです。



地域のお茶の間開催中

仮設にお花を届けよう

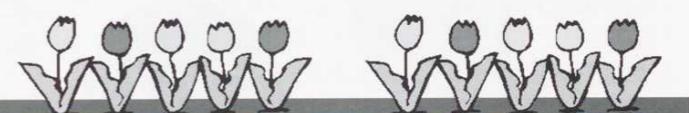
チューリップ植え

来年の春には仮設の集会場や談話室にプランタをお届けします



11月に小千谷中学校・東小千谷中学校・千田中学校の生徒さん・北保育園・吉谷保育園の児童さん、さつき工房の皆さんと仮設にお住まいの方達と一緒に、来年の春に仮設にお花が咲くよう、プランターに球根を植えてくれました。球根は春にプランターと花を提供してくれた花キューピットさんが、このたびも準備してくださいました。

来年の春が楽しみですね！



～上越牧区 牧湯の里 深山荘にて～

雪太郎大根 いっぺごとまつり交流会



11月12日上越の牧区で開催された大根祭り。小千谷からの参加は16名でした。大根料理食べ放題・ピンゴゲーム・温泉等楽しんできました。

牧区の方々のご好意で、畑から直接抜いた大根を頂きました。この大根はお茶の間で漬けて、お茶の間でいただきましょう。

ちょっと変わった大根料理 試してみてね

大根餃子

太めの大根を1~2ミリの薄い輪切りにし、塩をふってしんなりさせる。ひき肉・たまねぎ・にら・キャベツのみじん切りに、ニンニク・ごま油・塩・こしょうを加えて練り、具を作る。大根を「皮」に使い、片栗粉を内側につけて真ん中に具をのせ、ふちを合わせ、形を整える。蒸し器で約10分位火が通るまで蒸す。好みのタレで熱いうちにいただく。

哥磨会 もちつき大会



もちつき・やきそば・bingoゲーム・甘酒

日時：12月18日(日)
午前11時30分～
午後1時30分

場所：元中子仮設住宅

主催：哥磨会

お問い合わせ先：小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター 電話 0258-81-6252

各仮設に下記の時間頃
バスが行きます。
どうぞご利用下さい

千 谷	10:30
千 谷 川	10:30
平 沢	10:35
城 内	10:40
桜 町	10:45
諏訪公園	10:45
西部公園	10:45
両新田	10:45
土 川	10:50
上ノ山	10:50
時 水	10:55
高 畑	10:55
吉 谷	11:00
栄 町	11:05

帰りは元中子 13:30 発

お知らせ

入場無料 市民ふれあい交流事業

人形劇団 がやってくる

12月17日
(土)

市民会館「大ホール」
開場12時30分 開演13時30分

泣き虫桃太郎

ろう者と聴者でつくる人形劇、せりふの他に手話や視覚的な身体表現など取り入れ、わかりやすい内容の劇です。4才のこどもさんから高齢者まで楽しめます。

■申し込み方法
無料ですがチケットが必要となります。小千谷市社会福祉協議会(サンラックおぢや)に直接とりに来てください。郵送の場合はチケットが必要な方のお名前・年齢・ご住所・電話番号を記入して80円切手が貼ってある返信用封筒を同封下さい。

申し込み・お問い合わせ先 電話番号 83-2340

■お詫びと訂正
10月号の真人秋の陣で日付が間違っていました。正しくは10月29日でした。お詫びし訂正いたします。

※この情報誌にある記述や写真を無断で転載しないで下さい

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行
住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683



中越大震災体験記

高橋 古さん 桜町・68歳

夕食の準備を嫁が台所でしており、「食べれますよ」と言う言葉がけを待ちながら隣の寝室で、双子の孫のひとりと妻の三人でテレビを見ていた。ベッドからテレビを見やすくするため特製のテレビ台を作り、その下にガス暖房が設置されていた。暖房をするにはまだ早い時期ですが、幼稚園の年長となると勝手にスイッチを入れて「ショウガ持チエー」と横になり、すぐ上のテレビを見ていた。そこで私が「今から暖房は早いよ、子供は風の子だから」と言ったら、孫はすぐさま「大人は風の子、子どもは火の子」と私に笑いながら反論しているときだった。突然ドーンと縦揺れと横揺れが襲いかかり、瞬間に孫を引き寄せ自分の体で覆うようにしてベッドにつかり、揺れが収まる気配を待った。「台所の火は大丈夫か」と言うと嫁が「火は消しました」「孫の和樹はどうした?」「三階に寝ています。私が行きます!」「よし、わたしは悠樹を抱いて出る」と言いながら妻と外に出たが、三階に和樹を連れ出しに行った嫁が来ない。私が懐中電灯を持って家の中に入り「大丈夫か」と叫んだ。嫁は本棚や家具が倒れていて奥にいる和樹のところまで行くに大変だった。幸い大きな揺れにも目が覚めず熟睡していて家具の下にならず助かった。

五人が外に出たとき余震とは思えない震度6の揺れに立っていられず、地面にみんなではいつくばつた。そして三階造りの我が家が家の揺れがあまりにも強く、倒壊も覚悟したが、何とか持ち応えてくれた。

家族で未だ帰宅しない長男と次女の安否が心配だったが、車の中で地震に遭い、道路をあちこち迂回しながらようやく家にたどり着いた。家族全員



揃ったときは感激し無事を喜び合った。

それから、屋敷の中で一番安全な場所を選び、そこを避難場所と定めた。夕食を食べていないでおなかがすいた。我が家の中からご飯と味噌を倒れた家具の中より見つけておにぎりにして食べたら、孫も家族も「こんなにおいしく食べられたことは初めてだ」と言った。長男は家族に「自分は市役所に行く」と言いそのまま朝まで対策室の作業で帰ってこなかった。嫁は台所の食器棚が倒れる時に頭を打ったので、魚沼病院に処置を行ったが、幸い大事に至らず神様に感謝する。余震が続き安全なねぐらは自動車が一番と思い、2台の車で寝る事にした。カーラジオで小千谷、川口、山古志が震源地ということを知ることが出来た。

やがて朝が来て我が家の中を見て驚いた。玄関の戸が外れ側面のレンガの壁がそっくり落ち、何とか家中を見たら壁のいたるところが崩れ、家具はことごとく倒れていた。家族が早く屋外に出て助かったのだと背筋が寒くなった。総合体育館が近くの避難所であることを町内の役員が連絡に来てくれた。しかし我が家ではかまぼこ型の車庫を台所に仕立ててそこで地震の後の生活が始まった。

その後、全国各地から支援物資が届き、自衛隊の活躍、遠方から来た消防隊、ボランティアで駆けつけてくださった人々、数々の温かい情けに助けられ立ち上がる元気をもらった事を決して忘れる事なく心に刻んでおかなくてはならないと思う。



地震の禍福

保科 義明さん 城内・63歳

平成16年10月23日、あの地震のあった日、申し訳ないことながら、私は日光鬼怒川温泉にいた。当時勤めていたある団体の慰安旅行で、日光東照宮を参拝した後鬼怒川温泉のホテルに到着し、一風呂浴びて6時からの宴会まで部屋でみんなと雑談をしながら、テレビを見て楽しいひと時を過ごしていた。



5時56分、突然グラグラと鉄筋コンクリート

の堅牢なホテルの部屋がゆれ、みんなが「おー地震だいや、だいぶぞうぎらね」「震源地が近いんじゃないのか」「テレビに出るぞ」などと言ひながらみんなテレビの画面に釘づけになった。間もなくテレビのテロップで「午後5時56分頃新潟県中越地方で地震がありました。」と出て「おーい新潟県の中越地方だてや、そのあとすぐ「各地の震度をお知らせします。震度6、小千谷市」、・・・みんな息をのんで言葉も出ず、しばらくシーンと静まり返った。みんないっせいに携帯電話を自宅に

かけたが誰もが通じなかった。緊急に全員が集まって打ち合わせをした。なんとしても早く帰ろうということになった。もちろん宴会は中止。団体の会長さんが乗ってきたバスの運転手さんのところに行き、小千谷に帰る相談をしに出かけていった。



そのうちにテレビに小千谷の街並みが映し出された。市役所の周辺の建物、消防署、警察、原信、ジャスコ、千倍局などが市役所の屋上あたりにすえつけられたカメラから映し出されるが、遠くから写しているせいか崩れている様子もなく車も道路を走っているので損害の様子はぜんぜん分からぬ。停電しているらしく民家の様子も分からぬ。テレビ局から電話によるインタビューを受けている市役所の課長さんも今やっと市役所にたどり着いたところで被害の状況も把握できていない！気はもめるがみんなどうしていいかわからず、ともかく必死に携帯電話をかけている。そのうちに片貝町の仲間の一人の電話がつながった。その家族はみんな無事で、家の損壊もたいしたことないとのことだった。ただ小千谷の中心市街地の方はひどいらしいとのことで、私は城内なので家族のことが心配だった。たまたま携帯を持っていなかったので仲間の人から借りてかけてみたが、案の定つながらなかった。日頃は家族のことなどそんなに気にかけて生活していない私だが、さすがにどうしてんだろうか、まさか死んでいないだろうな、などと悪いことばかり想像した。やっと3回目くらいだつたから家内と電話がつながり、家内と娘、仕事先からやっと歩いて帰ってきた息子の3人とも無事にいることが確認でき、先ずはほっとした。家内の話では家には娘と二人でいたのだが、地震が来てすぐに家の外に飛び出したとのこと。飛び出して家の前の道路に出たが、恐怖とこれでもかと来る余震に立っていられず、しゃがみこんでしまったとのことだった。男の私も息子も家にいなかったので心細かったが、間もなく息子が帰ってきたので少し落ち着いたと涙声で話した。「そうか先ずはみんな無事でよかった。今帰るバスの相談をしていて、できるだけ早く帰るから落ち着いて対処してくれ。」と言って電話を切った。

そうこうしている内にバスの交渉に当たっていた会長が戻ってきて、「運転手の一存では帰れないそうで、旅行会社やバスの会社と相談した結果、関越高速道は通行止めだそうだし、道路の状況もつかめないので今日はこのホテルに泊ま



って、明日福島回りで帰ることになった。」と話された。みんなはやる気持はあったが、道路状況も分からず、ましてや夜間であることから誰しも異存はなかった。たくさん用意された酒もみんなが少し飲んだが、こんな酒は生まれて初めてだつた。今思い出してもどんな味だったかよく覚えていない。そそくさと飯を食べると部屋で真剣にテレビを見続けた。しかしながら被害の状況は分からず、もどかしく感じた。

夜寝床の中でも家のことを思い、なかなか眠れなかった。家内の話では瓦がほとんど落ち、壁も大崩れ落ちた様子だった。家はどんなに壊れても家族が無事だったんだからいいとしなければと思った。そして仕方ないことだがこんなとき家にいなかつたことは一生悔やまれるだろうと思った。



翌24日、朝早くホテルを出発、東北自動車道、磐越自動車道経由で新潟県に入り、三条燕インターあたりで一般道に下り、だんだん小千谷に近付くにしたがって、小千谷はどんなだろうと不安な気持ちで車窓からの景色に見入った。午後2時ごろだつたどうか、片貝町に入り、ところどころ傾いた家、瓦や壁の落ちた家が見えたが想像していたよりは被害は軽いように見えた。片貝町に止めておいた自分の車に乗り換え市街地に向かった。小栗田は通れず、坪野、山谷を回って何とか家にたどり着いた。家には「危険」の赤い紙が貼られ、家内と娘が緊張した顔をして救援の水運びをしていた。私は一瞬幼い頃記憶にある昭和20年8月の長岡空襲の光景を思い出した。その夜から車の中の生活が始まり、ご近所や、町内の役員、全国のボランティアと多くの人々に助けられ、衣食足りる生活ができた。人の情けの有難さを改めて認識できることも地震のお陰といえる。

1年を経過した今、災害の辛い思い出も多いが、得がたい体験もあった。そのひとつに内輪のことで恐縮だが、息子との車の中での対話が忘れられない。日頃家族といつても男同士のせいが高校以来しみじみ話したことも無かったが、狭い車の中で枕を並べて、彼の仕事のことや、これからのことなどじっくり話すことができた。思っている以上に成長し、まずは一人前の男として仕事をしていくことを知って嬉しかった。満月の夜だったが、これから先ああいう機会もまずないと思うとほのかに心の和む思い出となっている。



終息なき戦い

「ドドーン、ガタガタガタ、ギシギシ」異様な音と共に突き上げる激しい大きな揺れが襲う。なかなか止まらない地震だ。かなり近いなと思った矢先に電話が鳴った。足の踏み場の無い中、ガラス片を避けながら電話機の受話器を手にした。「お父さん大丈夫?」と千葉に嫁いだ娘からの電話だった「地震の震源は小千谷だよ」と聞かされた。震度6強の三回目の揺れの最中だった。あとで聞いた話であるが、上の子が東京からは何回かけてもつながらないので千葉の妹に電話してと頼んだのが繋がったということがわかった。私はすぐに電気、ガスを遮断し、懐中電灯とラジオ、無線機を持って近所の人を伴い近くの空き地に避難した。既にラジオでは地震の揺れの大きさや被害の状況が放送されていた。

近くでお店や家屋が倒壊した情報が伝わり私は町内の状況把握に走った。本町の交差点は車でごった返しており縦列となっていた、そこでやむなく交通整理をしばらく行った。橋に段差が生じたため火花を上げて通り抜けている。信号機は作動せず暗闇の中に車のライトが異様に眩しかった記憶がある。町内の人達の避難所の設定と怪我人の把握そして病院への搬送を行った。お陰さまで町内の若者が協力してくれ、本町防災会の指示に従ってくれた事に感謝している。

ワンパークはこれから事務所を閉めようとう時であった。町内の避難所として開放をお願



風間 久司さん 本町・66歳

いしフロアーの整理をし避難所とした。またたく間に問題が生じたのである。トイレの糞詰まり。皆が知らぬ顔をし何もいわない。そこでトイレ用の水確保に茶郷川の水運び、これも若手から協力してもらう。本町は町以外の市外の方々が多くこの人たちも避難所生活を送ってもらつた。交通手段が無く電話も不通で途方にくれた人々のお世話をした。避難所は老人・子供を優先し、車輛で物資を取りに行く。ごみ袋、ブルーシート、温パック、毛布、卓上コンロ等々町内要望の物品を備えた。更にボランティアの皆さんからの身体が温まる暖かな鍋物や食料の提供に心から感謝しています。

私達は予想をはるかに超えた未曾有の大地震に遭遇し、心に刻まれた恐怖と目に焼きついた情景は心身に宿り終息の無い生涯の戦いであると思うのです。

そして全国の大勢の皆さんから助けて頂いた事に感謝し、大勢の力が結集する事の大切さ、素晴らしい、皆の街を守るために団結の強みを知りました。自然の猛威に驚き足をすくめた人たちの真の頑張りに神は味方してくれました。地震・雷・火事・親爺、怖いものはやはり地震ですね。日頃から心の準備と災害に備えての心構え、そして準備と訓練に心がけたいものです。



原稿募集のお知らせ

★「あの日あの時」中越地震の体験談を募集しています。形式は自由です。原稿はファックス・メールでも受け付けております。(お名前、連絡先を忘れず記入して下さい。掲載時匿名希望の方は匿名希望とご記入下さい)また、ご連絡くださればお伺いいたしますのでボランティアセンターまでご連絡下さい。

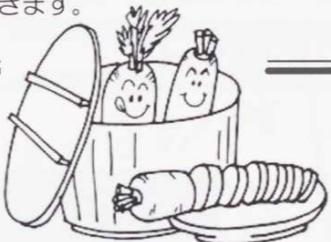
■電話番号 0258-81-6252 ■ファックス番号 0258-83-4683
■メールアドレス tvac_ojiya05@yahoo.co.jp

仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

大根漬け

先月上越市牧区のお母さん達から雪太郎大根を頂きました。

大根は12月初旬に4ヶ所の仮説集会場に持って行き、お茶飲みに来ていたお母さん達に漬けてもらいました。それぞれ特徴のある美味しい大根漬けができるこでしう!! お茶の間を開催しているところには漬けた大根を持っていきます。



地域のお茶の間開催中

年末年始お休みのお知らせ

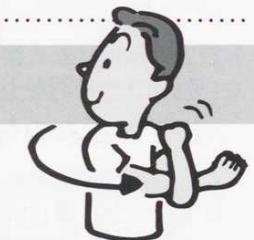
◎12月29日(木)～
1月4日(水)までお休みです
1月5日(木)より始めます
両新田・吉谷は1月6日(金)
平沢は1月10日(火)からのスタート

健康相談後
体操となります

1月の健康体操の日程



どなたでもできる簡単な健康体操、大好評!
集会場・談話室にておこなっています。ぜひ参加してね!



千谷第1	10日(火)	10:00～12:00	栄町	17日(火)	10:00～12:00
土川	10日(火)	14:00～16:00	両新田	20日(金)	10:00～12:00
元中子	11日(水)	10:00～12:00	西部公園	23日(月)	10:00～12:00
千谷第2	12日(木)	10:00～12:00	平沢	24日(火)	10:00～11:00
上ノ山	13日(金)	10:00～12:00	城内	24日(火)	11:00～12:15
吉谷	13日(金)	14:00～16:00	西部開発センター	27日(金)	10:00～12:00
千谷川	16日(月)	10:00～12:00	サンクリーン時水	30日(月)	10:00～12:00

★健康体操 体育指導員 ★健康相談 健康センター看護師

神戸における仮設住宅において私は消防士という職業柄、防火面において直接のかかわりを持ちました経験から当時を振り返り、中越における仮設生活の安全のために少しでもお役に立てればと思い、体験を記しますのでどうか参考にしていただければ幸いです。

神戸の仮設住宅火災事例①

「電気コンセントからの出火について」

神戸市の消防士 藪内生也

神戸の仮設住宅では土台が木製の杭で作られていたものが大半でした。これらは1～2年もすると腐ったりし、また不等沈下などで建物にゆがみが出てくる原因にもなっていました。建物にゆがみがでると、窓の閉まりが悪くなったりして、雨が染み込んでしまう。この火事はそんな雨の日に発生しました。窓の横に取り付けられたコンセント周辺に雨が染み込み、またそのコンセントにテレビ



などの電気器具も接続されたままだったので、留守宅で突然コンセント周辺から火災が発生したのです。コンセントは電気器具のプラグが接続されたままで、長期間にわたって掃除がされてませんでした。埃に湿気が溜まり出火することがあります。これはその器具のスイッチを切っていてもお構いなしに出火し得るのです。また、結露がひどければ同様に出火することがあります。さらにコンセント火災の危険なところは、留守宅でもブレーカーを切っていなければ、また夜間など電気器具を使っていないなくても出火することがあります。これは発見の遅れにつながり、気がついた時には部屋中に炎が広がってしまっていることになります。掃除をこまめにしたり、また電気器具を使わないときはプラグをコンセントから抜くなどして出火を防ぐことができるかもしれません。気をつけましょう。



お知らせ

■ごみの出し方についてのお願い！



ごみの分別がきちんとされてなく、ビンやペットボトルなどのふたをはずさずそのまま出す方がいます。中には仮設以外からも持ち込む方がいて大迷惑をしています。また飲み屋さんなどで使われたであろうあきビンが分別されずに大量に出されています。そのつど分別をし直していますが、かなりの手間となっております。どうかごみの分別にご協力して下さい。



第1回

おもちゃフェスティバルinおぢや

楽しいおもちゃが大集合!!
おもちゃを見て、さわって、感じて……いっぱいあそぼう!!

日時:2006年1月21日(土)・22日(日)午前10:00～午後4:00

場所:総合福祉センターサンラックおぢや

●グッド・トイの展示

おもちゃドクター来所 +

※壊れたおもちゃ、お持ち下さい

●軽食・休憩コーナー



あけましておめでとうございます

4月から発行した「いーねか」も皆さんがあたたかいご協力によりまして10号まで発行できました。ありがとうございました。

新年を迎え、また、新たな気持ちで発行してゆきたいと思いますのでよろしくお願いします。(編集担当)

手づくりおもちゃコーナーで使用するための牛乳パック(1000ml)を集めています。きれいに洗って開かずににお持ちください。千谷第一・第二仮設住宅集会場・元中子集会場に回収袋を設置いたします。ご協力をお願いいたします!

お問い合わせ先:サンラックおぢや 83-2340



小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683



2月号

毎月月末
発行

地震の体験から 川上 清一さん 東山・73歳

地震発生当日は東小千谷で地区会議開催の日だった。会議終了後、数名の同僚と東山へ向かう帰宅途中、薄生地内においてマイクロバスの車中で被災した。突然、頭がバスの天井にぶつかるほど、下から突き上げられた感じですごい衝撃を受けた。一瞬道路工事の穴に脱輪した衝撃と思ったが、車窓から瓦やサッシの網戸が飛び散る様を見て、大変な事態が発生したと直感した。道路の亀裂、段差、強い余震を乗り越えて進行したが、小出町の皆川優太君が奇跡の生還をした、あの妙見地内大規模岩石崩れで道を塞がれ、やむなく自宅ま

で約10kmの道程を歩き始めたが、その直後、浦柄地内で大土砂崩れのため朝日川が塞がれ、その水により一瞬にして浦柄地内の道路が大河と化した。急激な山津波に遭い身の危険を感じ高台へ避難した。腰まで泥水に浸かった。わずか五分位の間に浦柄町内の国道291号は水深1メートル以上の大洪水となり、車3台が浮き沈みながら信濃川へと流れる濁流を見て恐怖を感じた。早く町内へ帰りたい焦りから、国道からの帰路は諦め強い余震が続くなか山道を登り、杉の雑木林を搔き分け、大規模土砂崩れ箇所の山道の横断や、深い亀裂や樹木を跨いだり潜ったりして、真夜中ようやく町内に辿り着いた。

町内では比較的安全な広場に町内会長はじめ、消防団・町内役員の誘導で高齢者や子供達を真ん中に囲み、全員が無事避難されていた。一人の怪我人もなく避難出来たことに先づ安心した。だが数人の人達が当日帰ることが出来ず、翌日山越えをしてやっと町内へ帰って来た。電話(家庭用、携帯)は交信できず情報は麻痺、行政への連絡も不可、従って指示もなし、市内外の情報は携帯ラジオの報道のみが頼りだった。当日は幸い雨が降らなかったので

助かった。焚き火で暖をとり励まし合い、助け合いながら、ありあわせの物で炊き出しをして飢えを凌いだ。2晩、ブルーシート張りの寒い野宿避難をしたが、3日目に自衛隊のヘリと車の誘導で総体へ避難した。体育館内は2千名以上の避難者で混雑を極めた。最初は電気、ガス、上水道が使えず苦労した。食事も、おにぎり1個か菓子パン1個の配給が若干続いたが、いろんな経験から飲料水食料品の大切さを身にしみて感じたのか、不平不満の声は少なかった。

ライフラインの復旧と派遣された自衛隊や全国からの支援物資や、ボランティアで奉仕活動された方々に心から感謝申し上げたい。大勢の方々との和の大切さを学んだように思う。50日間の避難生活は大変だったが12月5日に千谷の仮設住宅へ移ることが出来た。13棟の仮設に58町内からの入居でまさに合衆国だ。被災後1年が過ぎたが、いまだ塩谷地区は避難勧告も解かれず、家屋倒壊で可愛い3名のお子さんが犠牲になり心が痛む。(17年12月26日避難勧告は解除になった)これからはお互いに助け合いながら復興に向けてただ頑張るのみ!頑張りましょう!!



5時56分・その時私は



「お父さん電話だよ」階下から妻の声が階段を駆け上りてくる。その声には、「早く2階の電話を取ってくれればいいのに、まったくー」が付いているような声である。機械オニチの妻は何年たっても、親機の電話を子機に転送する方法を覚えようとしない。「今日何してたー」これで誰と話をしいるかが分かるのは40年来の付き合いからである。二言三言たわいも無い会話をしていた。その時地下ではすでに地震の準備が進み、満月のように引き絞られた弓の弦が切り離されたように大地震発生である。「グアタ、グアタ、グアタ、ガチャン、ゴトン、ガラガラ」電話の主との長い付き合いが、この時ばかりは挨拶なしに電話を切った。コードで吊るされた受話器がぶらぶらと揺れている。改めて受話器を置きなおし、妻と娘に大声でどなった。「収まるまで動くな、つかまっていろ！」私は藪から追い出されたバッタのごとく右に左に揺れながら玄関に行き靴を履いた。揺れが少し収まつたので、妻たちに大声で叫んだ。「靴を履いたら外に出ろ、サンダルはだめだぞー」どなりながら左右の手で壁や柱をつたしながら母の部屋に向かう。食器は壊れて散乱し、入り口の引き戸が倒れ、小型の冷蔵庫に斜めに寄りかかっている。なんとかスペースを作り部屋に入る事が出来た。このときばかりは足の短さがとても幸いした。母はベットにキヨトンと座り、自分がおきたのか理解していない様子。足元につり下げ電気が落ちていた。母の部屋の箪笥や、茶箪笥は倒れていないのは、地震対策にL字形金具で固定して置いたのが幸いした。その金具は、阪神大地震の後に、ホームセンターが在庫を整理するため、箱に投げ込み捨て値で売り出したものを、1セット50円で買い占めたものだった。安くてもその効力は絶大で、和ダンス、洋ダンスもあの激しい揺れを耐え抜いてくれ、間接的に母を守ってくれる事となつた。母に声をかけ「しっかりつかまって」と言うより早く背中にゆすり上げるように母を背負って、脱兎のごとく縁側から庭を通り道路へ脱出した。妻も娘もそこに待っていた。「おばあさん大丈夫」二人で背中の母を覗き込む。私には聞いてくれないの・・・。お父さんは怪我などするわけがなく、そこに居て当然と思っているのかな。ともかく皆無事でよかった。



「私・・・ラジオを持ってきたよ」妻が手に持つて見せてくれた。余裕なのか、たまたま手に当たつたから持ったのか真相はわからないが、その後このラジオが大活躍することになった。

塙田 良次さん 土川・62歳代

余震の続く中、ガスの元栓と、家の中の電気ブレーカーを切り、逃げ道を確保しながら、家中から上敷き6畳用2枚、銀マット1畳用5枚をまず庭に放り出し、懐中電灯3本、ヘッドライト4個、乾電池など持てて庭へ出る。

振動が横揺れに変わったような気がした。再び物置からテント一張り、ストーブ1個、ガス缶数個、ブルーシート大3枚、ロープ、はさみ、カッターを集め外で寝るようになるだろうと、緑地帯の立ち木にロープを結び、ブルーシートを屋根の代わりに張った。その下に上敷きと、銀マットを敷き隅にテントを張り、ひとまず寝場所は確保出来た。

妻や娘に、近所の人を連れて緑地帯に行くように言い、私は再び家に戻り、毛布や布団、防寒コート、寝袋さらにご飯の入った炊飯器、塩、梅干、味噌、なべ、石油ストーブ、キャンプ用食器など運び出した。

これは母や孫ばあさんが、長岡の戦災の時に、米、塩、味噌、七輪がとても役に立った話を再三聞かされていたからである。必要なものは最小限運び出したので、一段落し緑地帯に行く。

我が家は全員無事避難したので、市内に住む長男家族を探しに向かう。車は走れないだろうと考え自転車で走る。市内は全体が停電し、信号機は倒れ、電柱も傾き、道路は陥没と浮き上がり、乗用車がタイヤを上にひっくり返り、さらに陥没した穴に半分落ちている車もあった。帰りに車で通れる所を確認しながら、ようやく目的地に到着した。

あたりの人に「塙田の家族を知らないか」と尋ね回る。その姿は、どこかで見た映画の一場面のようだ。数分後ようやく居場所が分かり行ってみると、嫁と孫は友達の車の中に避難していた。お父さんは会社に無事出ている事が確認できたので、二人を嫁の車に乗せて、来るとき確認して来た安全な道を我が家へ帰る。

その後、夕食がまだなのでぞうすいを作り交代で食べた。お隣のおばあさんも呼んできて一緒に食べた。とても喜んでおられた。

何気なく夜空を見上げると満天の星空、こんなきれいな星空は珍しいと思ったら、市内全体が停電で灯りがまったく無い状態だった。その夜はブルーシートの下でご近所二十世帯位が雑魚寝した。男は交替で夜回りをして、仮眠をとることにした。



あの日あの時

その時、一瞬何が起きたかわからなかった轟音と激震、私は家の中、玄関近くにいました。とっさに近くの柱につかり体を支えました。目の前で玄関の戸が倒れガラスが飛び散るのを眼の当たりにしてようやく地震だと気付き、居間で然としている妻に声をかけ、一緒に玄関にあった長靴を履いて外に飛び出しました。家の近くにいては危ないと思い道路に避難しました。余震が来るたびにしゃがんで体を支えて震えていました。地震と同時に電気は消え、辺りはだんだん暗くなり寒くなってしまった。家の前にあった車を道路に出して車の中で寒さを感じました。



しばらくしてから「町内の人達が近くのバス回転場に集まっているから来てください」と連絡がありました。8時頃に駐在さんが自転車でまわってきて来て「小学校が避難所になっているから、そこに移動してください」と言われましたが、小学校まで約2キロ車で行けるかどうかわからず家も心配なのでバス回転場に車をとめ夜を過ごしました。

明かりの消えた暗い中、満天の星、青白い月がこうこうと不気味な光景が今でも目に焼きついています。ヘリコプターが私たちの頭上に、手を振るとしばらく旋回してから去っていました。翌朝、バス回転場にいた町内の人達は家から、米・野菜・食品・それに鍋・釜・台所用品を持ちより食

樋口 和男さん 吉谷・66歳

事の支度を町内一丸となっての共同作業で行いました。小学校に避難した人達も帰ってきて、総勢百人余り近くの建設業の作業場を借りて、町内まとまるての避難所生活にはいりました。食事の準備は各班による当番交代で作り、朝食は7時、夕食は4時半、昼食は各自でつくりました。朝、食事当番以外の人達はバスの回転場でラジオ体操、日中は家に帰って後片付けこんな生活が二週間ほど続きました。

避難生活は大変でしたが、助けあいながらの共同生活で町内の絆をいっそう深める事ができました。私達、夜は車の中で一週間、車庫で20日間寝泊りました。ライフラインが復旧した11月19日ようやく家で生活する事ができました。避難生活の中で神奈川県の給水車が来てくれる事がありがたく、水道が復旧するまで大変助かりました。地震による被害、住宅は基礎のひび割れ、壁の落下。部屋の中の物はすべて倒れ、足の踏み場もない状態。さらに作業場は床落下、田んぼの陥没、お墓の倒壊と目をうるばかりの惨状に何処から手を付けてよいか呆然としました。



1年過ぎてようやく修理も終わり、もとの生活に戻りましたが、あの忌まわしい地震は生涯忘ることはできません。多くの人達に支えられた1年、あたたかい支援本当に有難うございました。

小千谷市ボランティアセンター活動

**センターの
日誌から①**

放置乗用車？誰の車？

ボランティアセンターの友愛訪問員が訪問している途中に、仮設の駐車場に雪のいっぱい積もった車を3台見かけました。心配なので市の建設課に連絡したりしましたが、車の破損や除雪の作業に影響も考えられ、放置しないように注意しましょう。

手足が不自由で市役所に行けない

仮設住宅に住むAさん(60歳、女性)は一人暮らしで、地震前後から手足に障害を持ち、体調も悪く、ほとんど寝たきりの状態です。12月の屋根雪のことと、11月に申請した障害者手帳がどうなったかが心配でした。友愛訪問でそのことを聞いたボランティアセンターではご本人の要請を受けて、除雪は市の「SOS雪下ろし支援事業」に除雪の申込を代行して行い、3日後には雪下ろしをしてもらいました。また、障害者手帳も交付されるとの連絡が市からあったので、ご本人が手が悪く書類も書けないので、一緒に市役所に行き、交付を受けてきました。併せて介護保険の認定についても説明を受けてきました。

このようにボランティアセンターでは、仮設住宅に住んでいる方で、高齢や、病気などにより、行政機関などに対する申請や手続きができない、また、書類や文書が理解できないなどの相談を受け付けています。

仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

四国に冬季間疎開 しませんか？！



ボランティアセンターに香川県の方から電話があり、「自分が所有する空き家があるので一時疎開しませんか。」というお話がありました。私たちから見ると少し突飛な話のようにも思いますが、毎日報道される新潟の豪雪の様子を見て、自分でできる事はないかと考えられたのだそうです。ありがとうございます。ご希望がありましたらボランティアセンターまで。

TEL.81-6252



地域のお茶の間開催中

からだシャッキリ体操

◎リハビリの先生による体操があります。

2月 お気軽に参加してね (^ ^)

栄町	2日(木) 10:00~
元中子	14日(火) 14:00~
千谷第1	15日(水) 14:00~
千谷第2	16日(木) 14:00~
上ノ山	20日(月) 14:00~
千谷川	22日(水) 10:00~

担当：リハビリの先生 ※1時間程度です



2月健康体操の日程

どなたでもできる簡単な
健康体操、大好評！

集会場・談話室にておこなってます。
ぜひ参加してね



★健康体操 体育指導員
★健康相談 健康センター看護師

元中子	3日(金) 10:00~12:00
千谷第1	6日(月) 10:00~12:00
千谷第2	7日(火) 10:00~12:00
土川	8日(水) 10:00~12:00
吉谷	9日(木) 14:00~16:00
上ノ山	10日(金) 10:00~12:00
千谷川	13日(月) 10:00~12:00
栄町	14日(火) 10:00~12:00
両新田	20日(月) 10:00~11:00
西部公園	20日(月) 11:15~12:15
平沢	21日(火) 10:00~11:00
城内	21日(火) 11:15~12:15
西部開発センター	24日(金) 10:00~12:00
時水	27日(月) 10:00~12:00

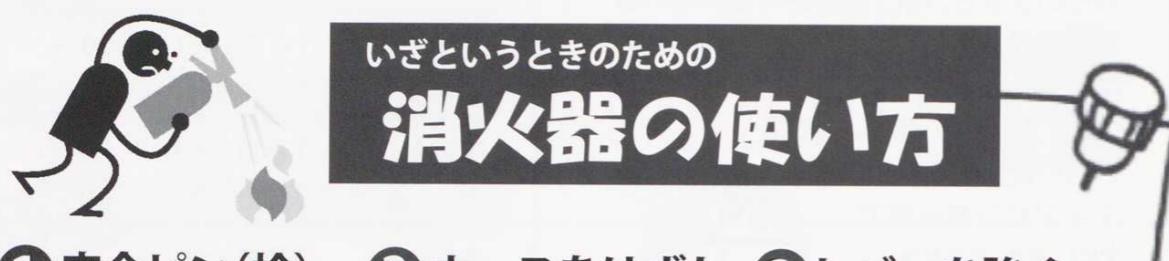
神戸における仮設住宅において私は消防士という職業柄、防火面において直接のかかわりを持ちました経験から当時を振り返り、中越における仮設生活の安全のために少しでもお役に立てればと思い、体験を記しますのでどうか参考にしていただければ幸いです。



神戸の仮設住宅火災事例②

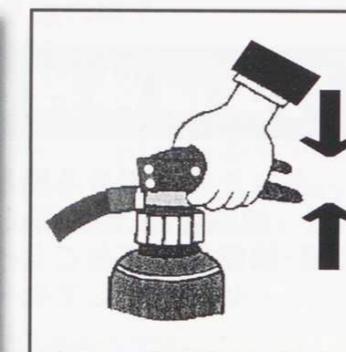
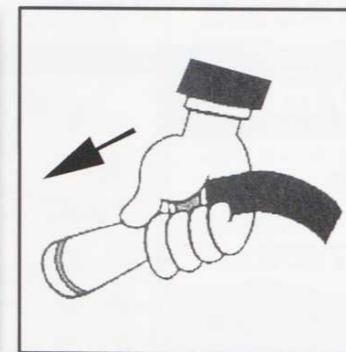
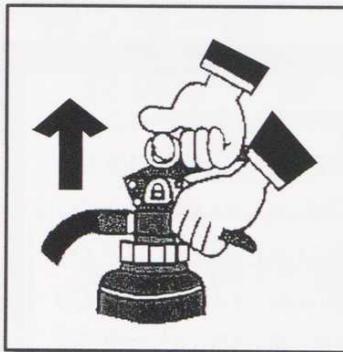
「仮設住宅の火災は隣戸への延焼がとても速い」 神戸市の消防士 藤内生也

5戸が1棟となっている仮設住宅の一番端にあるお宅から火災は発生しました。火災は早い段階で通報され、消防署からも遠隔地ではないため、消防車の到着もスムーズでしたが、すでに隣のお宅へも延焼し、3戸に被害が出ました。神戸での仮設住宅の隣戸との間仕切壁は不燃材料でできていたので、間仕切壁を介しての延焼はなかったのですが、天井板がベニヤ板であったため、天井裏と鉄板でできた屋根との間の空間を炎が伝って隣戸の天井裏へ炎は広がって隣の居室へと燃え広がっていました。しかし阪神淡路大震災から11年が経っているので、中越の仮設住宅では構造的にひとつとして何か対策がとられているかもしれません。また仮設住宅の建てられている敷地は公園や造成地が多かったので、道路にある消火栓からの距離も遠く、そのため消防車はすばやく消火活動に取り掛かれるように消火水を積載したタンク車や水槽車を出動させていました。



いざというときのための 消火器の使い方

- ① 安全ピン(栓)を抜く
- ② ホースをはずし 火元に向ける
- ③ レバーを強く握って噴射する



消火器がない場合の初期消火

消火器がない場合は、バケツなどで水を数回に分けてかけるか、てんぷらなどの鍋の場合は、ぬらしたタオル等で覆って空気を遮断します。



小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行

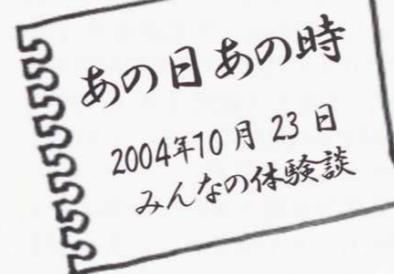
住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

3月号



毎月月末
発 行

風化させない願いで 磯部 和三郎さん 東山・70歳代



この度の地震については体験記をはじめ悲惨な写真などでおおむね報告されつくされた域がある。しかし一人ひとりの胸の中には忘れられない、忘れてはならない限りない思いがあるにちがいない。この思いは風化させてはいけない。

10月23日 その時私は3階の小部屋にいたが突然の轟音と烈震で「これは普通の揺れではない」と極度の緊張が全身

を走った。狭い階段を這うようにして2階へ降りた。急いで1階へ降りようするとそこにあるべき階段がない。激しい余震が続いている。「命が危ない」眼下の土砂の中に階段が崩れ落ちているのが見える。思い切って壁づたいに土砂の上へ飛び降りた(3m位か)。そこは1階より低い位置だった。

1階の茶の間に老妻がいるはず!「婆ちゃんいるか?」…3回ほど呼んだ「ここに居るて」の返事。テーブルの下へ頭を入れて揺れの鎮みを待っていたと言う。(教科書的護身方法だ)脚の不自由な妻を連れ出してサンダルを履いて、とにかく人の居る隣家へと急いだ。月が何事もなかったように明るく澄んでいた。

隣家の玄関先にはその隣の家族も一緒に子ども4人を含む11人が毛布などをまとめて肩寄せ合っていた。近くの谷間から不気味な轟音が絶え間なく聞こえる。「山崩れの音だね」南の方向(岩間木)の夜空に真っ赤な火柱が2本見える。ダーンダーンとガスボンベが爆発している。火災が発生しているが消防車もパトカーも救急車も来れるはずがない。(道路寸断・通信網不通)

私達はポツリポツリと恐怖の話をしていた。「そこに居ては危ない!金倉会館(町内集会所)へ避難してくれ」と町内自警消防員が自家用車で迎えにきてくれた。ひび割れた夜道を車は喘ぎながら走った。(ここで2夜過ごした)

この日は週末で、わが家(7人)は老人(私と妻)だけが在宅。嫁ぎ先の北浦中条町から長女が来ていて孫たち(4人)を連れて街へ。孫の父は会社勤め中。バラバラになった家族は連絡の手段(電話)を失い不安が募る。



10月24日 眠れない会館の夜が明けた。被災したわが家を確かめに行く。家屋全壊、宅地崩落の状況を見て愕然たり。倒れかけた家には入れないが私の域である書斎部屋(6帖間)と老人部屋、子ども部屋、台所、風呂場、トイレ等の上下階が母家からちぎれて土台ごと崩落、土砂に埋もれている。我ながら痛ましく残念でたまらない。こうなればピアノやステレオや家財類は惜しくないが、40年間の教職財産を全て失ってしまった。研究誌・文献・レポート・記録ノート・アルバム・書簡・絵画・個人名簿等は再び入手できない大切なものばかりなのだ。このことは昔の先輩、同僚各位にもたいへん申し

詫ないことだ。惜しんでも惜しみきれない（涙が出た）。



10月25日 地震当日の午前に作業小屋へ収納したばかりの当年産米（12俵は私の年生産総量）を確かめたが、これも小屋もろともに土砂崩れの崖下へ転落。米袋も農機具もいとも無造作に放り出されている。少しの米ももったいないと思って4俵ほど車庫内に運んだが大部分の袋は玄米が地面地中に散乱している。そんなところへ「そんなことしないで早く学校（被災した東山小学校）

へ行け！ ヘリコプターが来ているんだ」慌しい消防団員の声。これは「避難勧告」だと直感できた。従うべきだ！ ひび割れた校舎激しい校庭にカーキ色のヘリコプターがエンジン音を立てて待っている。自衛隊員がわれわれ一人ひとりをいたわりながら抱えるように機内まで連れ入れてくれた。フライト時間およそ10分、千足山、榎峰、国道17号、信濃川上空を横断し白山運動公園のサブトラックへ降着した。（2機でピストン搬送しているらしい）

赤やグレーの物々しい装備の東京消防庁・自衛隊・全国各都道府県の各救援者・輸送車・警察車等、大小諸車が目まぐるしく行き交っている。そんな中、着の身着のままの（私を含む）被災者達がうなだれて隊員に手をひかれて歩く姿が哀れである。

それにしても我が国の危機管理体制は優れて万全である。この機動力、この敏速性、手際よさ、慎重さ、厳しく訓練された隊員たちが全国各地から数時間で集結、直ちに作業する。災害救助法とはこんなものかと改めて畏敬と感謝の念が湧いてくる。

救急車らしい車に乗せてもらって（中央避難所）市総合体育館へ着いた。入り口に入るとどこからともなく「爺ちゃん、生きていたね」と娘が肩に抱きついて来た。「お前たちも無事だったか」と2日ぶりの面会で家族全員が無事を確かめ会って安堵した。

体育館の中は混雑至極「その部屋に入らないで下さい」と叫ぶ市係員の指示は聞こえないのか、われ先にと隙間を陣どろうとする避難民。パニック状態が続く。見る見るうちに1,000人2,000人と人波が膨らみひしめく。あちこちで応急食品や救援物資が配給されている。むろ

ん仲間と大勢いるから不安はないが、平常は家庭で寝たきりの老人も赤ちゃんもここでは一緒に狭い避難所となる。

ここへ長女の亭主が北浦中条から自動二輪で駆けつけてきた。「みんなで中条へ行こうや」些が躊躇したが家の乗用車に5人、二輪車に2人乗って深夜の国道を走った。ここ中条の家もたったの6帖2室のスペースだが老人と孫3人が暫くの世話になることにした。

10月30日 午後「瀬波の（高級旅館）汐美荘が被災者収容旅館に指定されている」との情報が瀬波の親戚から



入った。早々申し込んだところ小千谷市へ要連絡、要許可のこと。市いわく、「汐美荘は山古志被災者が入ることになっているから×」とのこと。それはおかしい。「この非常事態にそんな差別があるのか、市長を（電話口へ）出してくれ」と応酬。結果市長は出てこなかったが「どうぞ入ってください」との許可。

直ちに仕度して汐美荘へ急行。わが家7人入館手続きを済ませて当分はここに厄介になることになった。これは新潟県の災害対策本部の手配による救済措置で有難い制度であった。（被災者の利用は無料）

6帖と10帖の2室にベランダ付き、左に佐渡、右に粟島がよく見える海浜。静かできれいな宿だ。結局ここで50日間を過ごすことになったウィークデーは老夫婦だけだがウィークエンドは7人の家族が揃う。朝食はバイキング昼食は希望食を自室まで運んでくれる。夕食は刺身付き和食。温泉は大小あっていづれも24時間入浴可能でもったいない殿様暮らしだった。ちなみに結局ここ汐美荘にはわたしども家族のほか1人の被災者も来なかつた。

晴れた日はよく海岸を散歩した。寄せては返す白波の浜、こここの夕日は全国屈指の見事な風景。浴槽から見る景色は格別であった。



老妻が呟いた「汐美荘はこんなにいい所なのには村の人もここへ来ればよかった。話友だちがいるといいのにね」その気持ちはよくわかる。

ところで私にとってはここに来て予期しなかった有意義かつ有難いことがいっぱいあつ

た。下越には親戚も友人も多い。分家に当たる新潟市の従兄弟夫婦が激励（見舞い）に来館してくれたことをはじめ、弟姉方から励ましの電話、救援物資が来る。学生時代の友人（新潟・豊栄・村上居住）が陣中訪問（？）やらドライブ（笹川流れ）などで慰めてくれた。ここへ来てこれほどまでに（ことばではなく）人様の心に「有難い」という気持ちになれたことは皮肉にも地震のお陰と言えるかも知れない。この地の人びとは日本海の夕なぎや松の緑にも似てみんな美しい心なのだ。温泉のように暖かな心なのだ。



入館1ヶ月程が過ぎた頃、番頭さんが「いつ頃小千谷に帰れそうですか？」と優しく尋ねてきたが仮説住宅が出来たという連絡はない。「仮説住宅はいつ頃出来るんですか」「小千谷へ聞いてみますがまだめどが立っていないようです」「これ（写真集「中越地震」：新潟日報P17）を見てください。これが自宅」「まあひどい！ これがあなたの家？ 従業員に見せたい。しばらく貸して下さい」「どうぞ」等の会話が日を追って度重なっていく。しかし「そろそろ小千谷へ帰る準備をせよ」にも聞きとれる。（中略）

こうしてしばらく仮設住宅入居が（市から）許可になったのが12月17日（H16）、老妻と入居（家族と同居）できたのが12月19日。現在に至る。汐美荘での50日、スタッフたちとの朝夕の挨拶、対話等で顔なじみになれたことは私どもの人生史の1頁になるにちがいない。

◎仮設住宅生活1年余に思うと

大地震、改めて考えてみれば住める木蔭とてない状態になった大地にこうして仮設住宅暮らしができるだけでも有難いと思わなければならぬ。

①今度の地震は51人の尊い命を犠牲にした。 (域いはもっと多いかも)

自宅の前道路（千足呼坂線）を朝夕のスクールバスで通った東山小学校の児童3人が家の下敷きになって亡くなつたという。地震前日まで私の小さな田んぼ（学校田）で稻作体験学習をしていた5年生の元気な子がこの中にいたのだそうだ。「あ、何ということか！ 地震だとはいへ何でこの子らをこんな目に…」天国で幸せがとりもどせるものならどんなことでもしてあげたい。心からご冥福を祈るばかりだ。神も仏も地震

の力には及ばないということか。（合掌）

②あたかも正月（H17）前の入居

この地域（千谷川）の知人に案内を頼んで町内の若干名（役員）の挨拶に廻わつた。「しばらくご町内のお世話になります」「地震大へんだったのう、正月16日にはさいの神を見に来てください」気持ちのいい町内会長さんと賀詞交歓。折り悪く（さいの神）当日は仮設住宅の屋根の雪下ろしのため挨拶もそくさに屋根へ登つた。仮設族総出で汗して第1回の雪下ろしが終つた。こうしてこの地でのコミュニティ生活が始まった。この城川地域は14年間の勤務地だったから知人が大勢いる。道を歩いておれば1日に3人や5人と親しいことは交わされる。



③元気付けてくれる教え子たち

誰が伝えるのか、入居早々「先生クラス会やるから出て来や」私の所在を知って激励会（慰め会）を開いてくれる。指折り教えれば50代60代の教え子たちだ。涙が出るほど嬉しい有難いことである。遠い昔の思い出話でまた元気が出てくる。若返つてくる。こんな会が1年間で7回ほどあった。

④住宅内の苦楽（やっぱり社会の決断だ）

1. 狹い部屋、少しばかりの家財を置けば人間の居場所がないくらい。窓ガラスや側壁面に結露（水滴）がびっしょり流れている。玄関（入口）に雪が積もる。隣宅の話やテレビの音声が壁ごしに聞こえる。追い焚きがきかない風呂は1人入れれば冷めてしまう。仮設だから致し方ないとみんなで我慢しているのだ。

2. 談話室での憩いの時間。もともと十数戸の（中山）町内が1ヶ所の仮設で暮らすことは避難民としては幸せな方だろう。一日中退屈しがちな老人や母ちゃんたちが1室に団らんすることは暮らしの中で意義があることだ。茶菓子もよし、世間話もよし、談笑の時間は必要だろう。但し他人の中傷や不祥を話題にしたり、特定の人の雑言を喜んでいたりしたら止めた方がいい。みんな仲良くなる場でありたい。自作のイベントも奨励したいし子どもたちの喜ぶ顔にもあつた。



中越大震災 地区単位での耐震避難所があれば 片山 高志さん 本町・60歳代

大地震の突然の急襲! 本町商店街は銀行・郵便局・医院等は土曜日の夕刻という事でお休みですが、一般商店はほとんど営業中の遭遇となりました。



みんな夢中に国道であります道路に避難し、肩を寄せ合って恐怖の悲鳴を交えながら、多くの建物が倒壊するかの揺れにひたすら励まし合い耐えていました。

どのくらい時間が経過したのか、しばらくして自家用車のカーラジオを通じて地元が地震の震源地との情報を知りました。

やがて少し落ち着くと家は危険で戻れず、寒さを訴える高齢者や幼児が周辺に多く、何とか寒さをしのげる場所とすることで、商店街の丈夫な施設を探して、ようやく『小千谷市の子育て支援センター』を見つけました。

この建物は旧新潟中央銀行の建物で比較的新しく頑強である事から、当然無許可ではありま

すが市の施設でもあり、ここを適所と考え町内の電気屋から懐中電灯を沢山求め、まずは明るくして避難所を造りました。そして町内を巡回し神社の境内や空き地で寒さに窮している人達や家に戻れない方々を誘導し『ワンパーク』へ避難して頂きました。

当初は短期借用と考えておりましたが、結局それから1ヶ月を超える期間、町内会役員主導の町内の避難所として100人を超える多くの方が利用されました。

経験として地域に1ヶ所、公的な公民館活動拠点・町内集会所等で通常使用出来る耐震建造物を持てば災害の場合、大きな体育館や車中の不便な避難でなく、町内がまとまって助け合いが出来、災害本部との連携や情報そして支援物資の授受等大変有益であると痛感致しました。



激震その時

佐藤 三代子さん 桜町・67歳



その日、四十年近く、錦鯉を買いたいに四国から来ている友人を案内した夫は、山古志へ行っていた。「五時に鮨をとって待っているからね」と送り出したので、いつもより一時間半程早く帰り、息子と孫も一緒に六人で夕食が終る頃地震に遭遇した。

ピシィとテレビが消えたので、振り向く間もなく、ドスンと突き上げられガタガタと激しい揺れに、みんな言葉も無くテーブルにしがみついた。揺れがおさまってすぐ身巾ほど開いた所から庭に出たが、私はお客様も孫にもかまわらず一番先に飛び出した。熱帯魚の水槽が破裂、水の入った靴をはいた四国のお客さんが、「ウヒヤー冷たい!」と言った。

通りに出たら近所の人達も出て來た。瓦が飛んで來るのでみんなで農道へ走った。その時来た余震は物凄く、田んぼへ振り落とされるかと思った。その時山の向こうが異様に明るくなつたが、後で山古志方面で火事のあったことを知つた。

宇宙から人間界にものすごい怒りのエネルギーが送られているように感じ、空を見ていたように思う。三回目はみんなで、二男の車につかまっていた。田んぼ側にいた私は、揺れる度に車が私にのしかかり、車ごと田んぼへふり落とされるような恐怖におびえた。やまざに襲ってくる余震に怖くなつて、近くの総合体育館へ車三台で避難したが、まだ来ている人はわずかだった。総合体育館は、天井の窓ガラスが散乱してまだ入れてもらはず、そのまま車の中で過ごした。



地震のおさまりを見て、息子たちは毛布を取りに帰り、私も懐中電灯を頼りに、携帯電話を取りに帰った時、「もうこの家には住めない!」と覚悟した。

眠れない中で、住む場所ばかり考え、目が冴

えるばかりだった。車のラジオが唯一のニュース源で、心の救いでもあった。電話はつながらず、NTTの一言伝言板で、無事を呼びかける弟の声を聞いた時は、どんなに心強かったか知れなかつた。

夜が明けるとすぐに親類のアパートを借りに行ってもらった。幸い一つ空いていてすぐ予約し、その後の二週間は、宮内の二男の家で過ごした。

それから毎朝、小千谷へ片付け作業に通つたが、家の中はお化け屋敷同然で、障子の骨はボロボロとなり、戸という戸はすべてはずれ飛ばされて重なり、その散乱の中いつ貴重品を持ち出したのか全く記憶に無い。夢中だった!「もう無一物になったのだ」という気がしたが、「私ばかりでない」その思いが頑張れたのかも知れない。

四国のお客さんも車中で一泊、宮内で二泊を過ごし、二男が車で送って新潟から飛行機で帰つてもらい、安着の知らせにほつとした。その後、家の災害写真を撮つた。散乱した座敷のテーブルに、鮨も二人前ほど残っていたが、飲み残しのビールがこぼれずに写つているのが不思議だった。

可愛うなのは、宮内に1人でいた嫁さんで、小千谷へ電話はつながらず、泣きながら東京の実家へ電話していたと言つていた。

激震の夜は、とても寒く、月が煌々と照り、夜空に絶え間なく行き交うヘリコプターのバタバタ音と、救急車の音は今も忘れない夜となつた。

震災の留宿家を宿に猫の代子恋
佐藤 三代子の恋

原稿募集のお知らせ ★「あの日あの時」中越地震の体験談を募集しています。形式は自由です。原稿はファックス・メールでも受け付けております。(お名前、連絡先を忘れず記入して下さい。掲載時匿名希望の方は匿名希望とご記入下さい)また、ご連絡くださればお伺いいたしますのでボランティアセンターまでご連絡下さい。

■電話番号 0258-81-6252 ■ファックス番号 0258-83-4683

■メールアドレス tvac_ojiya05@yahoo.co.jp

あの日の体験

宮崎 英機さん 吉谷・60歳代

10月23日その日は日直勤務日だったのでPM5時30分頃自宅に帰ってきました。我が家は久し振りの夫婦水入らずの日でした。若手夫婦は結婚記念日だったので旅行に出掛けました。

「お父さん早くお風呂に入って！今日は早く夕飯にするから」と台所で準備していた妻の声。私は5時50分頃風呂に入りました。体を洗い、浴槽の中へ「ああいい気持ち」とその時ズドン！体は飛び上り電気が消え何事かと思った。家の中がガタガタと揺れ出しました。それにしても物凄い揺れだ！脱衣場に置いてあった下着さえ忘れて台所にいた妻を呼び、食器の割れる音、物が破れる音を聞きながら玄関へ「早く懐中電灯を持って来て」妻の声。私はそれどころではありませんでした。真っ裸で飛び出てきたのだ！足の踏み場もない！怪我をしないよう声を掛けながら、ようやく懐中電灯を手にしました。

玄関から出られないので、靴を捲し隣の部屋の窓から外に出ました。玄関の脇には運良く、作業服があったのでとりあえず寒さをしのげました。近所の人達も集まり始め、皆さんのがわるとホッとしました。

家中には勿論の事、隣の家の石垣は全部崩れ落ち、道路も割れて酷い状態でした。安全な場所に集まり「凄かったね」とまだ脅えながら声を掛け合っている時、又大きな揺れが2回3回！とても立っていられなくなり道路に座り込みました。すっかり暗くなり、寒さも増して來ました。時々来る余震、家の中に入つてまず私の下着と毛布を何とか持ち出す事が出来ました。

自宅前の道路に4台の車が集まりました。毛布のない人に毛布を、お菓子を持って来た人、助け合いながらまだ帰つてこない家族の事が心配で携帯電話をかけ続けていました。

間もなく、皆さんの連絡がつき一安心でした。しかし私は本町に嫁いでいる家族に携帯電話してもつながりませんでした。「本町に行ってこう」本家のお父さんが言ってくれましたので車で出掛けました。PM8時頃の道路は混雑してはいませんでした。

本町の家は大丈夫そうでした。避難してだれ



もいないのでワンパークに行って見ると、近所の人が小千谷総合病院へいると教えてくれました。病院のロビーの中は避難者で混雑していました。向こうから私を見つけてくれました。「吉谷に何回も電話をしたんだよ」連絡がとれなくて不安っていました。お互いの家族の安否が確認出来てホッとしました。

1才の孫はおんぶされ、4才の孫は毛布を掛け心配そうな顔をして横になっていました。「じいちゃんが来たから大丈夫だよ」と声をかけてやると「うん」とうなづいてくれました。PM9時30分頃自宅へ戻りました。そのころ町内会長、消防団の人達が様子を見に来てくれました。

早く朝にならないかと、車の中で妻と一緒に不安の一夜を明かしました。

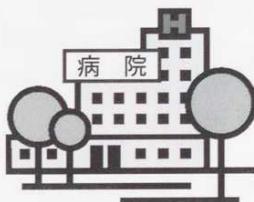
10月24日の朝、我が家の中を見ると、信じる事が出来ないほどの壊れ方でした。(全壊判定)

出勤のため職場に向かいました。いつも見ていた回りの景色が驚くほど変わっていました。道路の亀裂に注意しながら市民会館へ、職員はタバ交通手段が確保できる人全員集結したそうです。暗い道路を自転車で転倒して、怪我をしながら駆けつけた職員の方もいました。当日はとても寒い日だったので避難してきた人達の為に、市民の家に毛布を取りに4往復したとの話でした。又早朝、市民の家でおにぎりを作り、炊き出しをしたとの事でした。

AM10時頃妻から「若手夫婦が佐渡から戻つて来たよ」との電話がありました。テレビのニュースで知り早急に船に乗り、黒崎インターまで来た時、危険を感じ朝になるのを待っていたとの事でした。私達家族は本町の家族と一緒に本町の車庫の中で避難生活をする事になりました。

応急仮設本部が市民体育館の駐車場正面入口付近に設置されてありました。時間の経過とともに谷小グランド、体育館駐車場は避難車で満杯になりました。ものすごい事が起きたのだ再度思いました。

最大避難者数、谷小講堂内700人、新体育館



200人、視聴覚教室50人、屋内施設約1000人、グランド約1000人、計約2000人、10月24日～12月3日（職員談）

谷小の講堂が避難所として開設され社会教育課（市民会館）職員が役割分担で対応にあたりました。

全国から救援物資がたくさん届きました。ボランティア団体の方又いろいろな人達が大勢来て下さいました。感謝の気持ちで一杯でした。私が物資の所にいた時、1人の主婦が避難所が寒くて風邪をひきそうとの事で「毛布を1枚下さい」と言ってきました。渡した後、恐縮するほどのお礼を言って帰って行きました。頑張ってくださいと後ろ姿を見て胸がつまる思いでした。

自宅が倒壊しておばあさんを亡くされた女子職員の方も配食業務などで頑張っていました。「今でも信じられない、夢の中の出来事」と言っていました。地震さえなかったら…。

夜勤を当番制に定めて24時間体制になり、忙しい毎日になりました。

10月28日市民会館の前に民間業者さんの協力で仮設風呂が設置されました。私も風呂当番受付になりました。疲れきって避難されている皆さんが丸く大きな風呂に入り、気持ちよさそうな顔で帰って行く人達を見ると嬉しくなりました。

休日は我が家片付けを始めました。風呂場に行ってみると浴槽の水は半分に減っていました。下着は脱衣ガゴの中にあり、台所は食器の破片で足の踏み場もありません。壁が落ちて土間のようになった座敷。物凄い壊れ方でした。「ああ」出るのは溜息ばかりでした。片付けをしていました。静岡第1テレビの方が取材で家の中を撮影させて下さいとの事で来ました。あまりの熱心さのため「どうぞ中に上がって下さい」と案内しました。

数日後、取材のおおととの事で録画VTRが送られてきました。（震災の警告、迫りくる東海地震に備えて）静岡ローカル番組で放映したとの事。VTRを見ると我が家が映っていました。

私はいろいろの事を体験し、地震で沢山の物を壊され無くしましたが、気持ちだけは壊さないで復興に向かって頑張って行こうと思っています。

小千谷市ボランティアセンター活動

センターの 日誌から②



訪問先での緊急事態

2月積雪の多い山間地に、定例の友愛訪問に行く。

昨夜からの降雪で道路にはかなりの積雪がありました。道路に車を置いて歩いて訪問先を訪ねた。その家は高齢者のみの世帯だった。玄関の戸を開け声をかけたが、いつも様子が違い、家のなか見知らぬ女性が出てきて「丁度良いところに来てくれました。具合が悪いので見てもらいませんか？」と言わゆる奥の部屋に通される。ベッドの上で呼吸することさえ難儀そうに横になっている80代の男性。これはただ事ではないと思い声をかけた。「ボランティアセンターの○○です、分かりますか？」軽くうなずいた。「病院に行きますか？」軽くうなずく。身内の方も救急車を呼ぶことに同意し、私たちもセンターに状況を説明了承を得て、119番通報、救急車をお願いした。到着するまでの間、女性訪問員は救急車が来れる所まで、担架で運べるように、カンジキを履いて雪踏みをして待った。こうした緊急事態に遭遇した時に、昨年12月にセンターの職員全員が普通救命講習を受けたことがとても役立ったと思う。

仮設住宅にお住まいのみなさんへの お知らせです

からだシャッキリ教室

◎リハビリの先生による体操があります。

3月 お気軽に参加してね (^ ^)

西部開発センター 2日(木)10:00～

元中子 14日(火)14:00～

千谷第1 15日(水)14:00～

千谷第2 16日(木)14:00～

上ノ山 20日(月)14:00～

千谷川 27日(月)10:00～

担当：リハビリの先生

※1時間程度です



地域のお茶の間開催中

杖突いて
和ごむさま
待ち侘び春
桜木大吉
假設住宅の庭
桜木大吉
行く



歌・画 桜木大吉
上ノ山仮設住宅在住・80歳代

お知らせ 片岡 tel .090-1557-9002



3月12日(日)に行われる「風神祭チャリティーコンサート」の練習を行います。小さいお子さんは勿論、お年寄りも座つたまま簡単に踊れます！

場所：元中子仮設住宅集会場

日時：3月3日・6日・10日 午後7時～

ふれあい動物

おとなしくって、とっても
可愛いワンちゃんネコちゃん
が遊びにいきます！！



3月1日(水)

■千谷第2仮設集会場 午後2時～2時45分
■上ノ山仮設集会場 午後3時～3時45分
■問い合わせ 小千谷市ボランティアセンター tel.81-6252



3月健康体操の日程

★健康体操 / 体育指導員 ★健康相談 / 健康センター看護師

千谷川 13日(月) 10:00～12:00

栄町 14日(火) 10:00～12:00

西部開発センター 17日(金) 10:00～12:00

両新田 20日(月) 10:00～11:00

西部公園 20日(月) 10:15～12:15

時水 22日(水) 10:00～12:00

平沢 28日(火) 10:00～11:00

城内 28日(火) 11:15～12:15

神戸における仮設住宅において私は消防士という職業柄、防火面において直接のかかわりを持ちました経験から当時を振り返り、中越における仮設生活の安全のために少しでもお役に立てればと思い、体験を記しますのでどうか参考にしていただければ幸いです。

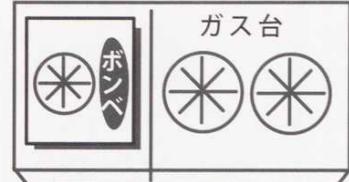
神戸の仮設住宅火災事例③ 最終回 カセットコンロ用のボンベの爆発

震災では避難者への救援物資としてカセットコンロが多く配布されました。一方で仮設住宅においては台所にガスコンロが一口しかなく、料理をするうえでとても不便なのに加え、流し台のスペースも狭いものでした。そこでガスコンロのすぐ横にカセットコンロをおいて調理をされる方がよくあつたようです。

そんな状態で爆発事故は発生しました。カセットコンロには正面から見て右か左のどちらかにガスボンベをセットして使うようになっています。爆発のあったお宅では、カセットコンロのボンベがセットされた側をガスコンロに接するようにして使っておられました。このような置き方でカセットコンロとガスコンロの両方を使って調理をしていたために、両方のコンロからの炎の輻射熱でボンベの温度が上がり、ついには破裂し、噴出したガスに引火し爆発てしまいました。奇跡的にも顔をすこし火傷されただけで、ボヤですみましたが、普通の家ではこのような使い方はしないので、仮設住宅ならではの火災と言えるでしょう。



危険な置き方!!



お知らせ

唄って踊れるまつり



・入場無料

- ・主催／風人の祭り小千谷実行委員会
- ・問い合わせ／市民会館 Tel 82-9111
片岡 090-1557-9002

ぱい かじびとう
出 演：南ぬ風人 まーちゃんバンド
ゲスト：市民有志

3月12日(日)

- 昼の部 午後2時00分～市民会館大ホール
 - 夜の部 午後7時00分～元中子仮設住宅集会所
- ※小さいお子さんは勿論、お年寄りも座ったまま簡単に踊れます！

チャリティーコンサート



※この情報誌にある記述や写真を無断で転載しないで下さい

小千谷市社会福祉協議会

小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地

TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

4月号



その日、山古志にいた！

その日、私は激震となった山古志にいた。預けてある錦鯉の秋の仕上がりと、新しい鯉を仕入れるため、四十年も来つづけている四国高松の友人と、川口町の相川から荒谷…蘭木を通り、道々にある鯉の生産者と話したり、各部落ごとの小さな「錦鯉品評会」を楽しみながら、荷頃を経て塩谷の部落に入り、H養鯉場を訪ねた。

しかし、翌二十四日が、山古志全村の錦鯉品評会で、鯉の池上げの為か不在だった。仕方なく近道の崖端道を谷に落ちないように注意しながら、十二平の部落に入った。

ここでも馴染みのSさんはおらず、やむなく、ここから引き返し、竹沢部落を通り、虫亀の集落へと向かった。

下記の写真はその途中、虫亀部落を谷一つ隔てた手前の地点で撮影したものである。虫亀まで後3キロ程あるが、ここからは虫亀の村全体が眺められる大好きな場所で、毎年ここで必ず写真を撮り、車から降り一服というが習わしだった。



今この写真記録を見ると午前十一時五十六分…地震発生のキッチリ六時間前だったことが分かる。正面の白い建物が虫亀小学校で、この部落には、数件の長い付き合いの親しい鯉の生産者や親類もあることから、昼食を駆走になり、午後の大半はここで過ごし、暗くなったら夕方六時半過ぎに帰宅するのが毎年の習わしだった。

その日は、私と同年である四国の友人が「保さん…来年はもうこられないなあ…」と弱音を吐いたので、家内が「お寿司とて待っているから、早く帰ってきてなさい…」の言葉に、いつもよりは二時間ほど早い、午後四時半ころには帰宅し、孫も来てみんな揃って寿司を食べ談笑している最中に激震が走った。

ドンと突き上げられるような強い衝撃がき

佐藤 保則さん 桜町・70歳代

た。ピチッと何かが切れたような鋭い響きが走り、電灯が消えた。その瞬間激しい揺れが襲つた。真っ暗闇の中で何かが碎け散るような音と激しい揺れが続き、声も言葉にならずテーブルにしがみつくようにして耐えた。恐怖感は無かつたが、頭の中は真っ白だった。

揺れが収まるとみんな外に飛び出した。私は部屋の入り口にある懐中電灯を取りに台所に入ったが、暗闇の足元には、様々なものが落下していく進めず、やっとの思いで懐中電灯を手にし、点灯して声がでなかった。

何がどの様になったか判断つかない程で、大きな食器棚は前へ倒れ、食器は原形が分からぬ程粉々に台所一面に散乱し、その脇は回りの棚、引き出し、わけが分からぬものが積み重なり、その有様に恐怖が走った。

玄関を照らすと、他のみんなが自分の履物を履き再び外へ逃げた。玄関の床には碎け散った水槽のガラスと、ぶちまけられた水の中にまだヒクヒクとしている熱帯魚たちが見えた。しかし救う方法もなくみんなの後を追って田の道へ走った。

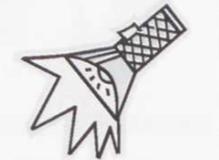
そこには近所のみんなが集まっていて、声高に恐怖をしゃべりあっていた。

その後に激しい余震が襲つた。ガラガラと屋根瓦が落ち、悲鳴が上がった。私は近くの自動車にすがつたが車が激しく左右に揺れ動き、田圃のなかに落ちるのではないかと恐怖が先にたつた。

「瓦が落ちてくるぞ！ 近づくな！」だれかが怒鳴った。「ガス臭い！」懐中電灯が走つた。その上に手当たりしだい物を乗せ、石を乗せて「大丈夫！ 人々！」と叫んだのはその家の主人だった。「ガスと電気とめてこい！」私が怒鳴ると、みんなが自宅に走つた。飛んで帰つた息子が「ガスとブレーカー切ってきた」と言った。「ここは危ないから体育館に行こう！」息子は家の前の自分の車に走り、孫と家内は二男の車に、四国の友人は私の車で、体育館広場に急いだ。

すぐ脇の集会場が、前のめりに崩れかかっている姿がライトに写し出され、気がはやつた。後から近所の軽トラが続いた。村の空地に村人が固まっているのが影の様に見えたが、声を掛ける余裕もなかった。ただ体育館へ急いだ。

体育館には数台の車がいるだけで、みんな車



の中にいるのか人影はなかった。時々避難してくる車のライトに、車の姿が浮かび上がつたりしたが、地震の全容はわからず、時間を刻んで、かなり激しい余震が何回か来るごとに言い知れぬ不安が増すばかりだった。

車のラジオがただ一つのニュース源で、地震の後、私たちが山古志からの帰り道だった浦柄トンネルが崩壊…車が三台土砂にうまつたニュースに声がつまつた。余震が収まるのを待つて、真夜中に息子たちは毛布を取りに帰つた。家内も行く…というので「デジカメを取つくるよう」頼んだ。外の風は冷たく、夜空だけが雲もなく澄んでいるのが不気味な感じだった。

ニュースで、被害が想像以上に広範囲で大きい事を知つた。家にものを取りにいった家内が帰つてきて「家は倒れなかつたけど、もうだめみたい…」と言つた。すぐその実感は沸かなかつたが暗いものが心を包んだ。



午前三時、突然、おびただしい消防車、パトカーなどが体育館広場に次々と入つて来て、「何が起つたのか…」と不安になつた。後で知つた事だが、市役所の建物が危険で、対策本部が消防署に移されたためだつた。

おびただしい赤い点滅が、心の中の不安をいつそう搔き立てる思いがした。

明るくなつて、自宅にかえつて見た。

信じられない光景が待つていた。家屋は傾き、玄関と座敷の窓ガラス戸は投げ出され、ガラスは粉々に碎け、玄関の床が二十センチほど持ち上がり、ぽつかりと暗い穴が開いたようになつた。

タベのテーブルのまわりには、様々なものが散らばり、天井の大きな明かりが部屋の端に吹つ飛び変形していた。床の間の柱が大きく右に傾き、押入れの戸は捩れて飛び、仕切りの襖が一枚ねじ曲がり、はずすことができなかつた。可愛がついた老猫は現れず、急いで何枚かカメラに撮つたが、昨夜みんなで楽しんだテーブルの上のコップに、ビールがこぼれずそのまま残つているのが、なんとも言えない不思議さだつた。

いつ来るか分からぬ余震が怖く、逃げ道を確保しておおざっぱに片付けたが、二階には余震が怖く上がり、貴重品を探し出し、曲がった窓枠に落とし板を無理やりはめ玄関は板で塞ぎ、道の開通をまつて宮内の二男の家へ向かつた。



小国の中街道の電柱がすべて傾いて並び、四つ辻の信号機は倒れ、タベ崩れかかっていた集会場はいつ倒れても不思議でない程前のめりに傾いていた。道の真ん中に下水のマスが二尺程飛び出し道路面は波打つように続いた。

洋服の青山店後ろのKさんの家は、一枚の瓦板を敷き詰めた様な下にペシャリと潰れ、脇のアタン屋根の家屋は辛うじて残つていた。



コメリの前では落下した電話線に絡みつかれたようになって動かれぬ軽トラがいて、道は穴があき、デコボコの道が続いた。車は渋滞し気ばかり焦つたがなかなか進めなかつた。

辺りには赤色棒を持つ警官が立ち、ものしい雰囲気だつた。

宮内の孫の家に落ち着いた二日後、四国の友人は息子が車で送り新潟から飛行機で帰つた。「安着」の電話で大きな肩の荷がありた気持ちだつた。その日から毎朝…宮内から家の「片付け通い」が続き、隠れていた猫が翌日には出てきて連れて帰えることができ、私の肩の重みがまた一つ軽くなつた。

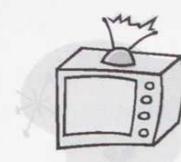
宮内ではテレビが見られたが、見たこともないような惨状の映像が続き、その日にいた「塩谷の部落」毎年尋ねた「十二平部落」は肝を冷

やすような映像で、何時もお茶のみながら鯉談議してくれたSさん宅は道の上から崖下へ消え、分断した道がそこから又続くという、凄惨な映像に声もない気持ちだった。安否は分からなかったが、後でご家族はみんな無事で、市内の息子さん宅に落ち着いたと知って、安堵の胸をなで下ろした。

虫龜の親類は、電話連絡がつかなかったが、川越の妹を経由して「ヘリで救出され、長岡の体育馆にいる・・・」電話連絡が入った。

十一月五日、宮内から引き上げ、予約していたアパートに移った。しかし、このアパートも揺れがひどく怖かったのか、周りの家族が帰ってきたのは、私達が移った四、五日後の十日頃だった。

今度はそのアパートから、毎日家片付けの日課が始まり、まったく知らないボランティアの人たちが、重い洗濯機をアパートの三階まで上げてくれたり、心温まる事も多かった。



この地震のもたらしたものは、形のない心や病をより深く蝕み、特に正月明けから、多くの知り合いや、近隣者が相次いで亡くなるという、形を変えた悲惨な様相が続き、友人知人、近隣者の葬儀が数ヶ月の間に10以上もあり、痛手の上に幾つもの悲しみを重ねる結果となつた。

そして、又、十五年も一緒に暮らした老猫が、急激な生活の変化に追いつく事が出来ず、正月の五日早朝に亡くなったのも、暗い年明けを感じさせた心の中に重苦しい空洞をつくった。

・・・今考えていると、地震の数ヶ月前、地震が来たら危ないなあ・・・と感じて、枕元の脇に高い本棚があったのだが、本棚が倒れても危なくないように二尺程ベットを後ろに下げたり、懐中電灯をいつもの場所から、部屋の入り口に移動させたりしたが、この地震を何かが私に教えたのだろうか、ただ偶然とは言えないものをつくづくと感じている。

「ヘビ」と「地震雲」

大地震に見舞われたのは、丁度、夕食の時だった。

ドーンという凄い音がして、下から突き上げられ、体ごと宙に浮き、停電した。激震で、家の中の物などすべて横倒しで、足の踏み場もない・・・私共の老人部屋には、

10年前に仕入れたタンスと、90年も前の古い書棚が、東西に向き合う形で置かれていて、今日まで利用して来た。ところがこの度の地震が縁で、両者の家具はともにかんのんびらきを解放、中身をサラケ出して急接近し合体。真っ暗闇の中で乱闘・・・そして最後は共倒れとなつた。この乱闘の巻き添えから逃れる事ができ、ホットした。

ところで、この老人部屋に、強い関心を寄せ、二度も三度も苦労しながら3m近くもある高床を這え昇り、俺達が落せぬよう設置した手すりに絡みつき、じっと部屋の中を覗きこみ、追払うとしても逃げる気配なし二匹のシマヘビ。おそらく天変地異を感知し、俺達が家具の

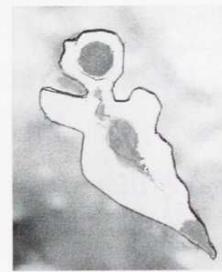
下敷きで、センベにならぬよう警笛に来てくれたんではないか・何か言いたそうな彼らの表情だった。



そして地震が来たのがヘビが騒ぎ出してから二週間目だった。あたかも、日光江戸村の忍者みたいだった乱闘騒ぎ・・・ヘビ達は大勢して、どこかでこの騒ぎを観てたんでないか・と思う。

これまで、見たことも覗れなかった「地震雲」とやらを、やっと見ることが出来た。魚沼神社の下手の上空・・・10月下旬、月のきれいな夜だった。

まず「ヒツヅ目小僧」つづいて「海坊主」。なかでも圧観だったのが「流氷の天使」と呼ばれ親しまれている「クリオネ」だった。頭は月・体は雲・・・この世のものとは思えない。今でも目に焼きついている。魅せられた・・・感動した。



小千谷市ボランティアセンター活動

センターの 日誌から③

のぞみ住宅団地見学会

19名の参加がありました

東小千谷の木津団地に隣接したところに建設されている、市の災害（復興）公営住宅「木津のぞみ団地」が完成し、3月12日の日曜日に見学会が行われました。ボランティアセンターは、仮設住宅に住んでいる、車のない人や、高齢者を対象に午前1回、午後1回バスを運行して19名の皆さんを送迎し、見学会にお連れしました。参加者は鉄筋4階建ての大きなマンションのような建物に先ずびっくり、内部に入り2階の1LDK、2DK、3DK、4DKの各居宅を見学、見て回りました。「明るくてきれい」「結構広いね」「住んでみたい」「エレベーターがあつていいね」などの声が聞かれました。これからできる千谷や千谷川の復興住宅もこれと同じですかなどと質問され、人もおりました。百聞は一見にしかず、この見学を参考にして、これらが見られました。子の住まいを決めたいと真剣な様

仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

★健康体操 / 体育指導員
★健康相談 / 健康センター看護師

4月健康体操の日程

千谷第1	10日(月)	10:00~12:00
千谷第2	11日(火)	10:00~12:00
元中子	14日(金)	10:00~12:00
上ノ山	17日(月)	10:00~12:00
土川	18日(火)	10:00~12:00
千谷川	21日(金)	10:00~12:00
両新田	24日(月)	10:00~11:00
西部公園	24日(月)	11:15~12:15
栄町	25日(火)	10:00~12:00
西部開発センター	28日(金)	10:00~12:00

■土川仮設談話室お茶の間開催日の変更
毎週火・木の午前中です

~春の到来!!~

昨年の秋に中学生や児童さん達が植えてくれたチューリップ!りっぱな芽がでました。

3月9日にボランティアさんが集会場や談話室に運んでくれました。しばらくすると、きれいな花が咲くと思います。お天気の良い日に集会場・談話室前に見に来て下さい!

お知らせ

みんな集まれ!

4月2日(日)

哥磨会 やきそば大会

たこやきなどもりだくさん

場所: 千谷仮設住宅あずま屋付近

時間: 11時頃~

お問合せ先: 小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター tel 81-6252

※この情報誌にある記述や写真を無断で転載しないで下さい

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行
住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683



地震その時

経験したことのない中越大震災。あの時は、勤務で白山にいました。「おーい、もう時間だよ」と、交替勤務の人が事務所に入ってきた。もう少しだと言いながら雑談していた。と、その時、「ドーン」と突き上げるような轟音と共に激しい揺れが来た。「地震だー」天井がギシギシと物凄い音を立てながら揺れている、「天井が落ちるぞ危ない机の下へもぐれ」の声に机の下へ身を伏せじっとして激震のおさまるのを待った。1分以上だったのか大分長かったように思った。地震が収まった。「それ出ろ!」一斉に外へ飛び出した。2階で会議をしていた大勢の人達も大声を出し興奮しながら外へ飛び出してきた。

外はもう薄暗くなっていたし、みんな気が動転していたので周りの様子を見ることもなくアスファルトに腰を下ろして気の落ち着くのを待っていた。外へ飛び出してから少しつつ、又轟音と共に物凄い地震が来た。鉄筋コンクリートの建物がギシギシと音を立てながら揺れて、今にも崩れるのではないかと思うほどだった。みんな「ウォーウォー」と驚きながら見ていた。暫くしてまた先ほどの余震よりも大きい揺れが来た。歩くことも出来ず四つん這いになって体を支えた。幾度も来た大きな余震に驚き動転するばかりだった。

7時近くになったか少し落ち着いたころ自宅が心配になってきた。勤務交替して帰る途中山崩れで道路を塞がれ通行不能になっていた。坂の途中で引き返し山谷を廻らなければ帰れないと告げて帰った。その道路も所どころ地割れしていて危ない所もあったが何とか帰ることが出来た。家の手前の広場に車を置き、飛んで玄関に行き「おーい! 大丈夫か」と呼んだが返事がない。今度は反対側へ廻り声を掛けたがまた返事がない。心配になってきた、縁側へ廻ってまた声を掛けたら、隣の家の前の道路の方から「お父さんだー」という声がした。「大丈夫か、怪我はないかい」「大丈夫だよー」との返事でようやく安否が判り安心した。子供、孫たちは、今日はみんな"ちぢみの里"へ行っていた。まだ帰ってこない、大丈夫かな、連絡が取れないし帰りを待つより仕方なかった。

すっかり暗くなり周りの様子が判らないので、懐中電灯を取りに家に入ろうとしたと

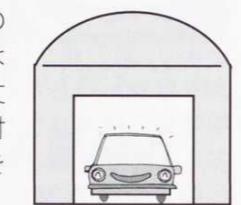


瀬沼 康男さん 桜町・60歳代

ころ女房が「危ないからやめて」といったが、とにかく懐中電灯が無いと駄目だと思い中に入った。真っ暗だが部屋の中がメチャクチャになっているのが分かった。箪笥が倒れ書庫が倒れ本や物が足の踏み場もないほどに散らばっていた。枕もの近くにいつも懐中電灯を置いているのすぐ探せると思ったが、気が焦っていてなかなか見つからないでいるうちに、「ドカーン」とまた来た。「危ない出てー」女房の声。轟音と共に今にも家が崩れ落ちそうな激震、何がなんだか分らず転がり出た。地面を這うように夢中で逃げた。腰を下ろして、家を眺めあゝ大丈夫だった、怖かった、と胸をなで下ろした。しばらく女房と地震当初の家の様子を話していたところ、多分7時半ごろだったと思うが又「ドーン」と大きな地震が来た、農作業場が度重なる激震で耐え切れず目の前で轟音と共に崩れ全壊になった。だめだ! 腰が抜けたようになり呆然としていた。おしまいだ。崩れた作業場を見て頭を抱え暫く上げることが出来なかつた。

孫たちが帰ってきた。みんな怪我もなく無事だった。"ちぢみの里"も物凄かったようだ。早く出なければ帰れなくなると思って外へ飛び出したようで、浴衣のままで帰ってきた。途中あちこちと通れないところもあったようだが、何とか帰ることが出来たという。家族全員怪我もなく無事だったことが何より、みんなで喜び合つた。

家族みんな車中で眠れぬ一夜を過ごし、朝が来て我が家を見て驚いた。玄関のガラスが割れ中は殆んどの家具が倒れ物が散乱していた、足の踏み場もない、仏壇が部屋の真ん中まで出ていた。もしかの時幼い孫たちが居たらと思うと背筋が寒くなった。



町内役員が避難場所の連絡に来たが、我が家はカマボコ型の車庫が大丈夫であったため中を片付けそこで地震後の生活を始めることにした。

全国大勢の方々から支援頂き、多くのボランティアそして自衛隊や消防隊などの活躍・温かい声援に助けられて立ち上がる勇気を貰いました。ありがとうございました。

ちまたの話によると当日夕雲が異様だった話を聞いた。私も夕方西の空が赤く雲がいつもと違

うように記憶している。地震の前兆だとか…?あの日から1年半近くになります。復旧にはまだまだ遠い道のりですが、これら全国各

地大勢の方々の支援・声援を忘ることなく心に刻み頑張って行きたいと思っています。

激震と土石流の中で

平沢 シズイさん 南荷頃・67歳

主人は他県へ1ヶ月程主張中、孫達はおじいちゃんの帰りを指折り数えて待っていました。子供達の両親は職場から未だ帰らぬこの時間、平成16年10月23日午後5時56分中越大震災震度7となりました。激震と土石流の中で幼い孫達四人皆様のお陰で助けて頂きました。



皆でテレビを見ようと座ったとたん、物凄い50cmも突き上げられたような激震! 私は幼い子供達の上に覆いかぶさりました。テレビが落ちると危ないから少し離れようと立ち上がった瞬間、ゴォーと凄まじい音がして、冷たい大きな雪の塊か岩の塊のような…土石流が私達を襲つて来ました。いつ抱いたのか陽大ちゃん(1才3ヶ月)を脇に抱えていました。月夜の晩なのに…私は地球に異変が起きて空から何かが降つて来たのか? この辺一帯がこんな状態なのだろうかと思いました。凄まじい威力の鉄砲水これは後で分った事ですが地場産業である錦鯉のあらゆる養鯉池の崩壊でした。家の脇に巾4m余りの川があり、直ぐ前に暗渠があります。いつも穏やかな川のですがこの暗渠に鉄砲水が凄まじい勢いでぶつかり逆流して家の壁を打ち破り、後ろから来る水、逆流の水がぶつかって渦を巻き四才の麻由ちゃんを家の外へ流し出しました。私はとっさに「声を出せ!」と子供達に呼び、神名を中心唱えながら精一杯助けて助けてと…子供達も大声で「助けて~」と一生懸命でした。

怒濤で何も聞こえないと思いましたが必死でした。薄暗い中、麻由ちゃんは私の顔を見ながら左手を上げ後ろ向きで流れで行きました。陽大ちゃんを左脇に抱え、麻由ちゃんの手をひっぱってやらなければと思うのですが…陽大を放してはならない! 自分の口の中まで水が入る。頭を後ろへもたげながら、いつの間にか私も家の外へ押し出されました。麻由ちゃんは流れしていく。もう皆死ぬと思いました。力が抜けるような気がしました。私はどうなっても、この子供達どう

しよう? どうすればいい…その時頭の中をよぎったのは、平成15年の中ノ島の大水害で亡くなった人達はこんな状態だったのだろうかと思った…とたん麻由ちゃんが立ったのです。五、六メートル流されたのでしょうか、小さなブロックがあった所だと思います。あつ! 麻由ちゃんが流れずにすんだ…一步足を外せば深い川の中へ吸い込まれて行く。私は何の声かわからないけど「あっ」と奇妙な大きな声を出したのを覚えています。歓喜なのか、怒りなのか、驚きなのかわからない。神様が麻由ちゃんを止めて下さった。立ちはだかってくれたのだと思いました。麻由ちゃんの肩まで水があったようです。陽大ちゃんを脇に抱え麻由ちゃんの手を引っぱって泥水の家の中へ上がる時、近所の人が入って来られ子供を抱きかかえてくれました。男の人の胸まで水がありました。



澄玲ちゃん(小学1年)は自分でもがき襲いかかって来る大きな根株、雑木、壊れた戸と闘っている時、麻由ちゃんが流れ出るのを見て、助けなければならぬと思ったそうです。「自分の首まで水があったと」言っていました。次女の香帆ちゃん(5才)は落ちたテレビの上にのり渡してあった物干棒に両手で掴まつたら水の上に体が浮いたと言いました。

その後、どうして逃げたのか、泥水の中をもがき出ようとした時、近所の人に助け出されたのだと思います。皆ぶ濡れで裏どなりの家の前に来た時、誰も泣きません。泣いている余裕がなかったのです。泥水の中をもぐりどおしの陽大ちゃんが泣かないのが心配でした。近所の人達は度々余震がある大変な中、間を見ては自分達の衣服を持って来られ着替えを手伝って下さいました。暖かい車の中で近所の友達と一緒に越す事が出来ました。陽大ちゃんはズボンを一枚はきバスタオルに巻か

れて私に抱かれていた。車の中が暖かかったので飲み物欲しがり「チャ～（お茶）」と言うようになった。私はほっとしました。幸い月夜だったので人々は屋外テント、シート毛布、フトンを持ち寄り安全な場所で一夜を越しました。車の中に居る時も度々余震があり体が硬くなる思いでした。

翌朝四時半頃、薄暗い中いくつかの灯りが見えた。七、八人程、自衛隊が来られたのです。私達の胸の中に、小さな灯りがついたような気がしました。近所の人達はそれぞれに食料を持ち寄り分け合って下さったので腹の虫を押さえる事が出来ました。

子供達の両親がどんなに心配しているか連絡する事が出来ず、澄玲ちゃん・麻由ちゃんは小さな切り傷があったので自衛隊さんに手助け頂き一里山道を近所の親子と自衛隊に誘導されながらとなりの部落の避難所へたどり着いた。自衛隊さんから両親に連絡して頂く事が出来た。お昼頃だった、皆髪も頬っぺたも泥塗で硬くなり香帆ちゃんは大人の洋服を着て長い袖をぶらぶらさせながら、友達と歩いていたが元気だった。何か冒険にでも行くような笑顔が見えた。皆様のお陰で助けて頂きました。大勢の人達に心を寄せて頂きました。自衛隊の皆様、ボランティアの皆様ご支援ありがとうございました。いつになんでもある中をと不思議なご守護でした。

家財道具は洗濯機でまわしたようにメチャクチャになり、へ泥は1メートル10センチも置いて行かれ、水位の跡は1メートル60

センチ。

泥の入ったタンスから紋服など必要な物は何とかしようと思いました。台所用品、セトモノなど使える物を拾い出したり、ほとんど壊れたり、流されたりしてなくなっていました。

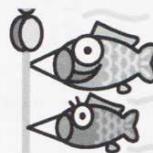
ヘ泥の中には錦鯉の死骸が何匹も悪臭を放ってささっていました。ヘ泥の対処は自衛隊にお願いする事なり、ポンプ車やキャタピラ トラック等使用し、ほとんど土嚢袋に詰めての手渡しで、50人体制で3日間大変な作業でした。泥の中から家財道具、袋詰めのヘ泥は道路に運び出され積み上げられました。

このヘ泥を片付けなければ雪になる、市の対策本部へ再度お願いに行きました。市全体の事としてなかなか対処出来ず、悩んでいる所へ、ボランティアから声を掛けてもらいました。「私達に任せて下さい」と二人の女性。この人達がボランティアセンターに声をかけて下さったのです。大変な作業として一旦お断りしたが、「大勢でやれば」再度声をかけて下さったので、お願いする事になりました。

隊長は下調べをし写真を撮り、捨て場の許可を得なければなりません。

12月20日・21日と80人体制で作業を開始、中には女性も何人もいました。家財道具の仕分け、土嚢袋は手渡しでトラックに積み上げる大変な作業でした。荷頃区長さんをはじめ委員さん方も一緒に作業をして下さった。

12月22日から雪となりました。お陰様ありがとうございました。



小千谷市ボランティアセンター活動 センターの 日誌から④

神戸市の黒田裕子さん を講師にボランティア センター職員研修会

ボランティアセンターでは、毎日友愛訪問を実施していますが、皆さんからいろいろな相談を受けたり、お話を聞いたりするときにどのようにしたら皆さんの支援や、心の癒しになるだろうかと考えています。そのため月1回頃の勉強の大切さを実感しています。そこで月1回程度職員全員で研修会を開いています。2月と3月の2回、神戸市で活躍している黒田裕子さんを講師に学習をします。そこから今まで、避難所、仮設住宅など皆さんとのところに功労賞を受賞された有名な人方であり、兵庫県の震災復興に来られるそうですので、仮設住宅、復興住宅と主に高齢者、障害者を支援されてきました。黒田さんは阪神大震災のときから今まで、避難所、仮設住宅など皆さんとのところに功労賞を受賞された有名な人方です。これからも時々小千谷に来られるので、仮設住宅など皆さんと一緒に過ごす。機会がありましたら、いろいろお話ししてみて下さい。

仮設住宅にお住まいのみなさんへの お知らせです

■お茶の間曜日の変更

両新田仮設談話室（5月より）

月曜・木曜の10:00～12:00

■ゴールデンウィークのお茶の間予定

カレンダー通り祝祭日・土はお休みとさせていただきます。



あなたにもできる簡単な体操です★



5月健康体操の日程

★健康体操 / 体育指導員
★健康相談 / 健康センター看護師

千谷第1	8日(月)	10:00~12:00
千谷第2	9日(火)	10:00~12:00
元中子	12日(金)	10:00~12:00
上ノ山	15日(月)	10:00~12:00
平沢	16日(火)	10:00~11:00
城内	16日(火)	11:15~12:15
吉谷	16日(火)	14:00~15:00
千谷川	19日(金)	10:00~12:00
時水	22日(月)	10:00~12:00
栄町	23日(火)	10:00~12:00
西部開発センター	28日(金)	10:00~12:00

お知らせ

春本番! 弥彦温泉優待旅行



■日 時 6月20日(火)
午前8時30分
総合体育馆前集合

■場 所 四季の宿みのや

■参 加 費 3,000円

■募 集 定 員 100名(仮設住宅居住者対象)

■申込方法
電話で住所・氏名・年齢・電話番号。
介添えが必要かどうかをお知らせ下さい。
電話: 81-6252
締め切り日: 5月10日
尚、応募多数の場合は抽選にさせていただきます。

行程予定
8時30分集合→9時出発→11時弥彦温泉到着(入浴・飲み物付き豪華昼食・休憩・希望者弥彦神社参拝)→帰路寺泊魚市場休憩→小千谷17時ごろ到着

申込先・問合せ先 〒947-0035 小千谷市大字桜町5140番地
小千谷市社会福祉協議会小千谷ボランティアセンター 電話 0258-81-6252

(車椅子の方や介添えの必要な方は家族の方が付き添うか、出来ない場合は主催者でお世話をします。車椅子用リフト車使用)

雪も消え、陽気も良くなつてくるとどこかに行つてみたいと思いませんか? 社会福祉法人読売光と愛の事業団のボランティアセンターでは、ご協賛を頂き、弥彦温泉への出かけない方に、安心で、楽しい旅行を提供したいと思います。日帰り旅行を行います。

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行
住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683



幼稚園を預かる立場として 船岡芳英さん 幼稚園勤務・51歳

平成16年10月23日の土曜日。一生忘れられない(もし生まれ変わるとしたら、二生忘れられないくらい)強烈な思い出の日となってしまいました。午後5時56分、ズドンという激しい縦揺れに続き、それに勝るとも劣らない激しい横揺れ。一瞬、何が起ったのかわからず、地震だと気付いたのは次の激しい余震が起きていたからでした。

その1時間前に小千谷インターに高速バスで到着した、大学時代の友人と自宅の3階で



「そろそろ蕎麦(小千谷そばは彼の大好物である。もちろん、紹介したのは私ですが)を食べに行き、帰りに軽く飲んでこようか。」などと言っていた矢先のことでした。もちろん、蕎麦や飲むどころの騒ぎでなく、立っていることも難しかったので、せいぜい机の下に隠れるくらいのことしか出来ませんでした。彼は翌日行われる幼稚園の作品展の手伝いも兼ねてわざわざ来てくれたので、当然翌日帰京する予定だったのですが、実際に帰れたのは3日後、しかも何とか新潟まで行って飛行機でということになってしまいました。

少し落ち着いたと思われる頃(まだ余震は絶え間なく続いていましたが)、外にでたのですが、その時はもう午後7時を回っていたと思います。後で小千谷新聞社が発行した雑誌で知ったのですが、この間に震度3以上の本震・余震は39回(6強2回を筆頭に、5強以上6回)を数えています。3階にいたせいもありますが、とにかく、外に避難する時間もなかったというのが正直な実感です。どの幼稚園でも地震や火災に対する避難訓練をやっていると思いますが、地震の場合、たいていは本震があったら机の下などに隠れる、次に余

震に対して十分注意し安全を確認したら、外に避難というようなやり方だろうと思います。今回の地震は、この常識はまったく通用しなかったということが身をもって感じられたことです。今更ながら、地震災害に対する恐ろしさを再認識いたしました。

幼稚園を預かるという立場から、特に強く感じたことは、とにかく子どものいない時間に起こってよかったということでした。亡くなった方も大勢いましたので、不謹慎かも知れませんが、このことについては神様・仏様に感謝したい気持ちです。あれだけ長い時間の揺れがもし保育中だったらどうなるかと思うだけでゾッといたします。

地震当日、翌日は教職員となかなか連絡が取れず心配もしましたが、地震の3日後からは無事を確認できた教職員から集まつてもらい、園児と家族の安否確認を先ずやってもらいました。まだ強い余震も続いていましたので、教職員の安全を考え、二人一緒に徒歩か自転車(災害には最適な交通手段だと思います)で、各避難所や自宅を回りましたが、やはりこのような時だからこそ、直に顔を合わせることは、相手に勇気を与えます。保護者

の方々からは、とても喜ばれたとのことです。数日間で全家族の安全も確認できましたが、その間の教職員の責任感、実行力にはただただ感謝です。

近頃はプライバシーを重んじ、なかなか保護者のみなさんが連絡先を聞かせてくれないような風潮があると聞きますが、緊急時に備えて園が把握しておく必要性があるということを日頃からよく説明しておかなければならぬと再認識いたしました。みなさんの中で幼稚園にお子さんを通わせている方がいらっしゃいましたら、そのようなお願いには快く応じてあげてもらいたいと思います。

40年位前に、小千谷地震が唱えられ、一時は全市を挙げて避難訓練を実施したり、様々

な活動をしたりと真剣に取り組んでいたことを覚えている方もだんだん少なくなってしまったのかもしれません、やはり、よく言われるように、「災害は忘れた頃にやってくる」確かにその通りでした。もう二度と同じような経験はしたくないとは思いますが、絶対にないとは言い切れませんので、幼稚園としては常に緊張感をもって防災訓練に取り組んでいます。

話は変わりますが、前述の親友の彼とは、奇しくも地震を通して、戦友になってしましました。



震災後の暮らし

東山保育園 原 ケイ子・55歳

地震発生後、市内の保育園が次々と再開していく中、東山保育園は再開の目途が付かず、とても不安な思いをしましたが、幸いにも高梨保育園の保育室に余裕があり、11月15日(月)より合同保育といった形で保育を再開できた時は本当に嬉しかったです。保育を再開した時に東山の皆さんと分かち合った喜びや安心感は今でも忘れられません。

しかし、子ども達は今までと違う環境での保育に戸惑ったり、家族から離れる不安から泣いたり、甘えたり、登園を渋ったりと様々な姿が見られましたが、温かく受け入れてくださった高梨保育園の保護者の会や地域の皆様、そして職員に支えられてここまで來ることができたと感謝しています。

また慣れない避難所生活や仮設住宅での暮らしで、子どもも大人も過大なストレスを抱えている様子でしたが、顔を見るたびに励ましの声を掛けスキンシップを図り、一人ひとりを見守りながら心のケアをしてきました。明るさや元気を取り戻し、以前に比べて落ち着いて生活できるようになった東山の子ども達。幼いこの時期に自宅を失い、みんな別れ別れになっていくといった辛い体験

をしっかりと心に刻み、強くたくましく生きていって欲しい。この地震がなければ、みんな一緒に東山で生活できたのに……と思うと、今でも残念で仕方がありません。

昨年末に復旧工事も終わり、おかげさまで今春4月5日には、無事に東山保育園で“入園のつどい”を行なう事ができ幸せに思っています。11人の子ども達の元気な声が響き、明るい笑顔が



キラキラ輝いて、子ども達のパワーがこの地区の復興に役立てばと願っています。



センターの日誌から⑤

心、悩んでいませんか？

地震から1年半以上たった今でも心の悩みを抱えている人がおられます。家族や親戚、隣人とのトラブルや、長くなつた仮設住宅での暮らしでの寂しさ、健康やこれから的人生への不安から、心が沈んだり、眠れなくなつたりと様々な症状に悩まされる方がいます。私たち訪問員は、そうした状態に気付いたときは、相談を受けたときは、市の健康センターを紹介したり、専門の精神保健福祉協会が設置している、「魚沼こころのケアセンター」（城内2丁目、電話8210290）への相談を勧めたりしています。一人で悩まず専門機関へ相談されてみてはいかがでしょうか。また、身近に悩んでおられる方がいたら、ぜひご相談されることをお勧めします。

仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

どなたにもできる簡単な体操です

★健康体操
体育指導員
★健康相談
健康センター看護師

6月健康体操の日程

元中子	2日(金)	10:00~12:00
千谷第1	5日(月)	10:00~12:00
千谷第2	6日(火)	10:00~12:00
上ノ山	9日(金)	10:00~12:00
両新田	12日(月)	10:00~11:00
西部公園	12日(月)	11:15~12:15
千谷川	16日(金)	10:00~12:00
栄町	19日(月)	10:00~12:00
土川	20日(火)	10:00~12:00
西部開発センター	23日(金)	10:00~12:00

お茶飲みに来てね

5月14日(日)にJR東労組のボランティアさんが素敵なお花を贈りました。

お花のある暮らしはいいですね！チューリップも終り集会場・談話室にあるプランター、夏に向けてお花を植えます。お楽しみにね！

ゴミに関する3つのお願い!!

○多くの方はゴミ出しのルールをきちんと守っていますが、まだまだルール違反をされている方がいます。ゴミを出すとき一度ご確認下さい！

1. 指定日にゴミを出して下さい
2. ゴミ袋には必ず部屋番号をご記入下さい
3. タバコなどのポイ捨てはおやめ下さい

お知らせ

極楽寺パンチ～フリーマーケット・ライブ

場所：小千谷市平成 極楽寺

日時：6月25日(日) AM10:00~PM5:00

★被災した小千谷の活性化とともにイベントを通じ環境問題を考えるイベント
当日のPM7:00よりキャンドルナイト・in極楽寺が開演(前売り券千円・当日券千二百円)

主催の遊友優では手づくり品や骨董品、民族料理等のフリーマーケットの出展者を募集している。出展料1000円(1区画2m×2m)。お問い合わせ・申込先 tel.090-6776-6937 fax.0258-82-4248まで。

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行
住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683



震災後の暮らし

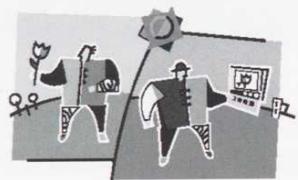
星野 武久 千谷・68歳

2004年10月23日夕方予告もなくおそった中越大震災、余りのゆれで一時は地球がこわれ、この世の終わりかと思いました。(1度の人生今からあの世とやらにはまだ行きたくない)その後色々な方面から物・心ともに多大なご支援をたまわり誠に有難うございました。紙面を通して衷心より御礼申しあげます。

震災後早1年7ヶ月が経過しました。避難所・仮設住宅と様々な生活を余儀なく致しました。その中で私は一番感じた事は心だと思いました。今迄(地震前)の日本(中越地方)は第2次戦争後努力し、平和な豊でおだやかな生活を送っていたと思います。ところが地震で一変して生活環境が変わった訳です。色々と悩み苦しんで、各々方が自分なりきに進路を決めて実行に移していると思います。「鉄は熱いうちに打て」「若い時の苦労は買つ

てもする」人もばねが大事だと思います。太くなくとも細かくとも、ねばりの有る柔軟性に富んだバネが必要であります。

ラジオ深夜便でAM4:00~心の時代と言う番組が有りよく聞くのですが、人間何が大切であるかというと「心」だと思います。心を豊で何事にも動ぜず、人生一生勉強をおこたらず、チャレンジ精神を忘れずこの苦境を乗り越えていこうではありませんか。「和を持って人は制す」たとえ他人でも心が通じれば夫婦になり新しい子孫を残し、時代・社会をつくりだしていくこうではありませんか。



小千谷市ボランティアセンター活動
センターの
日誌から ⑥



寺た。ろい人り
泊魚路しいどた
たりしてくつぎ、お昼
には豪華?食事をしな
がら演歌歌手の「越ひ
かりショー」を楽しみ
ました。その後の自由
時間は、弥彦神社に参
拝した人、旅館で休憩
する人、買い物をした
ひとなどでした。

今回は高齢者や身体
がご不自由のためなか
なか旅行に行けない人
を対象としましたが、
参加した皆さんから好
評をいたたき、成功の
うちに終わりました。
有難うございました。

弥彦温泉に行ってきました!

6月20日、小千谷
市ボランティアセン
ターハ主催、読売光と愛
の事業団後援によりま
す「弥彦温泉優待福祉
旅行」が行われ、仮設
住宅居住者と一般市民
の方、ボランティアさ
んを含め111名が参
加、日帰り旅行を楽し
んできました。弥彦温
泉の休憩場所「四季の
宿みのや」に到着後入
浴をしたり、横になっ
たりしてくつぎ、お昼
に豪華?食事をしな
がら演歌歌手の「越ひ
かりショー」を楽しみ
ました。その後の自由
時間は、弥彦神社に参
拝した人、旅館で休憩
する人、買い物をした
ひとなどでした。

市場に寄り、5時前
千谷に到着しました。此
の旅行には、西高
等学校の生徒さん11
名が、ボランティアと
して参加され、車椅子
の参加者や歩行の不自
由な人の介助をしてい
ただきました。介助を
してもらった参加者は
大感激、「ほんとに有
かったです」と喜んで
おられました。

仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

6/27(火)

絵手紙のつどい

~世界で1つだけのオリジナル絵手を
一緒に作ってみませんか?~

■千谷第1仮設集会場 10時~12時
■元中子仮設集会場 14時~16時

★必要な材料は主催者で用意します
★描きたいモチーフがありましたらご持参下さい。

主催 / 姫路心のケアネット
お問合せ先 : 小千谷市ボランティアセンター
電話 81-6252

~仮設住宅から
ふる里に帰郷~

牛
三年ぶり
かえてきたや
人情の里
牛郎みどりや
牛
広井源次郎

地域のお茶の間開催中

千谷川お茶の間開催時間の変更

毎週月曜・水曜・金曜になりました。ご要望などありましたボランティアセンターまでご連絡下さい。

**仮設にお花を
植えました!**

6月22日・23日に市内の中学生
ボランティアさん達がプランターに苗を
植えてくれました。6月26日は3時半過ぎ
に元中子仮設で
植えてくれます。黄色の可愛らしい花で
す。見に来てくださいね。

7月健康体操の日程

★健康体操 / 体育指導員
★健康相談 / 健康センター看護師

	千谷第1 3日(月) 10:00~12:00
	千谷第2 4日(火) 10:00~12:00
	元中子 7日(金) 10:00~12:00
	上ノ山 10日(月) 10:00~12:00
	平沢 11日(火) 10:00~11:00
	城内 11日(火) 11:15~12:15
	千谷川 14日(金) 10:00~12:00
	吉谷 14日(金) 14:00~15:00
	時水 18日(火) 10:00~12:00
	栄町 19日(水) 10:00~12:00
	西部開センター 21日(金) 10:00~12:00

★どなたにもできる
簡単な体操です★

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行
住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

8月号

いーあか 毎月月末発行

新潟中越地震について

平成16年10月23日(土)今日は昨夜からの雨もあがり、穏やかな日和となった。丘の畠から、車で運んだ「サヤ豆」を老夫婦と剥ぎながら、午前と午後の2回、村周りの散歩した。約20分、約1,700歩。

陽が落ちてから豆を莫薩に入れたまま1階の地下に入れ、少し早めに風呂に入り、寝巻き姿となり、寝室に布団を敷き、家族5人で夕食の食卓の椅子に腰をおろした。缶ビールの蓋を抜き、カップに満たした瞬間、5時56分屋根に何か落ちた様な音がして、停電となった。食卓の下に潜ったが余震が続き、長男が「家の外に出よう」と叫んで、私をおんぶして、お隣さんの畠の広場へ、約20m程の所に避難した。

段ボールの紙を敷き、上衣とズボンを重ね着して、毛布にくるまって寝た。近所の人達が次々と集まつてくる、「どうなるだろうか」と考えてわが家を見たら倒れていない。十三夜の月か、人々と冴えている。息子や、男の人達は焚き火を始めた。温もりと明かり用にしていた。秋の日は釣瓶落としのように早く暮れる。火事が起こらなかった事が幸いだったとの話も聞こえた。寒いと心細さのせいかトイレに行く人が多く、わが家の車庫の側溝に用を足す人が居る。毛布にくるまって休んでいたが、強い余震の度に人々が、声を上げるので寝付かれず、軽自動車に老夫婦2人で後部座席に乗つた。夜風も当らず静かで良いと休んでいたが、妻がトイレに行くとのこと、一緒に車から出たが足と腰が痛くうまく歩けない。手を握りあいながら、お互いに側溝に用を足し、車にも戻って「何とかなるだろ」と休んでいたら、ラジオニュースを聞いた人から、義兄が避難する車の中で「ショック死」との訃報を聞いた。なかなか眠れず、2人で話し合う事にして一夜は一睡も出来なかつた。集まつた人達も人数が大分少なくなつた。寒いので車で総合体育館へ避難したこと。車から見た街や、隣村は真っ暗闇、余震が有ると危ないから家の中には入れない、明るくなればトイレは側溝というわけもゆかず、屋敷内にある桃や梅、キウイに組立てた棚と畠があり、畠に溝を掘り支え用に鉄パイプを備えつけてトイレとした。回りは「みょうが」に囲まれていて都合がよい。わが家は高床式軽量鉄骨造りであるが、いつ余震が有



佐藤 藤吉さん 桜町・81歳

るやも知れず、カマボコ型の車庫二棟に、着の身着のままで2組の夫婦が起居し、孫娘は自分の車に布団を敷き長々と車中泊した。

車庫に半月程就寝したが、夜風は寒く、シャッターのすき間には新聞紙を挟み風除けとした。ライフラインとか、電気は7日目に通電したが、それまでの夕食は、ローソクと電池が頼りであった。水道とガスはなかなか復旧せず、道路寸断のせいか、毎日東京都や、横浜市の給水車でバケツやペットボトルに給水を受けた。食糧は総合体育館に行けば貰える、危険で未だ家の中には入れないし、片付けられない。

義兄の「ショック死」とのこと、10月24日午後、孫娘の車で老夫婦と東京へ向つた。わが家から真っすぐの道路で、隣村の山田部落へ走らせたら、道路が陥没した所があり、通行不能でバックして村の入り口を右折しようしたら、下水道突出しており、又車をバックして、私の耕地の脇の砂利道を、田圃の畔がずり落ちているのを見ながら291号B線桜町トンネル道路に入り、本町から旭橋を走らせ到着した。遺体は病院から届いていた。まだ明るいけれども、電気が復旧していない為午後3時頃親戚と子供孫たちと焼香しながら、脱脂綿で顔や胸に組んである指先や足等を拭き、涙を押さえながら納棺した。その前に、夜伽見舞いと言う事で酒屋さんに立ち寄つたら、店が乱雑しているので中に入らないでくれと言われた。小千谷市の火葬場はライフライン不備のため使用出来ないとのこと3日後の10月27日の柏崎市行きの予定となつた。寝棺の前の灯りは余震がきたので全部消し、次の日の打ち合わせをして孫娘の車で家に帰り、寝室に入つたら幅1m高さ3mの日記帳や機関紙がぎっしりと納めた本棚が、私と妻の枕を覆い隠して俯つ伏せに倒れていた。夜中の激震であつたら2人の命の保証は無かったかも知れない。その本棚の引き戸はガラス戸であり皆割っていた。危険物と日記帳を順に納めて、布団に飛び散つたガラスなど掃除して、掃除機は使用出来ず炊飯用はカセットホースノンでの食事。ガスの復旧まだなので、お風呂は総合体育館に行き、自衛隊の設置したテント張りのお風呂に男女交代制で入浴させていただいた。食料も総合体育館に並べば、ご飯や、パン、バナナなども支給され、一時はこの施設に3千名の避難



者を収容したこと。

10月末になって水道が復活したが、濁水が混じるかもと当分飯食用に使用しない様にとのこと、毎日定時に指定の場所に給水車が来て助けられた。ガスは当分の間見込みないと連絡。

東京都荒川区に住む次女夫婦から連絡があり、自家用車で送り迎えしてくれること。11月11日から11月29日まで東京都の住人となり老夫婦は避難した。表日本は、空気が乾燥しており布団も暖かく毎日1番風呂に「湯ったり」と入浴することができた。テレビニュースは新潟中越地震で始まる。今年いっぱいは東京に滞在しなさいとのことを聞かされたが、そう我が儘も出来ず、小千谷市の自宅から、11月23日1ヵ月目にガスが入ったとの電話が入り、又、老妻の病院予約あり、やはり被災地へ帰りたいと思った。毎日お互いに支え合いながら午前と午後は散



歩をして、公園に休んで櫻落葉の散るのを眺めたり、二部の新聞を読んで居たが老体ながら郷愁が湧く、住めば都でやっぱりわが家、11月29日自家用車で小千谷市の桜町まで送つもう。自分の村を一回りする散歩を始めたが、道路の復旧は手付かず、全壊の家は重機で取り壊しが始まっていた。わが家のすぐ前の2世帯は半壊とのことであるが、土壁が崩れて板の外側は膨らんでおり、大屋根にはブルーシートで覆われている。家の中は散乱で、余震に備えて仮設住宅に入り、夜の灯りがつかない。わが家は倒れず補修すれば降雪期に入つても冬は越せる。庭の石垣は崩れたが生活にはさしつかえない。わが村で菩提寺さんと共に6戸は全壊その家屋を片付けるにも、重機やトラックに経費がかかり仮設住宅に入居しても二年とのこと。人生80年を振り返って、戦争に2年余り青春を奪われて、生命を拾つたが、この震災の経験、不幸中の幸いとして残生を頑張ろうと心強くしている毎日である。

センターの 日誌から⑦



7月8日(土)、岩手大学附属中学校生徒156名が、修学旅行にかわる学習旅行として、小千谷市を訪れ、ボランティア活動をしました。2～3名が1班になつて、42班が仮設住宅の高齢者の世帯を担当、19班が4つの集会所と1つの談話室を担当し、窓ガラスや換気扇、クーラーや畳や床まで清掃してくれました。生徒の皆さん、の真剣なボランティア活動ぶりがとても真面目で、立派なもので居住者に感銘を与えるものでした。

お年よりは「きれいに、新品みたいになります

ました」と大喜び、中には盛岡市から来たと聞いて感激、涙を流す人もいました。

掃除をとおして住人ととの交流は、学生たちの心にも感じるところを与えたようです。

この中学生は、9日から10日まで滞在し、錦鯉、闘牛、棚田などの体験作業をして震災を受けた小千谷市の実情を学習して帰りました。



仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

8月の健康体操

★健康体操 / 体育指導員
★健康相談 / 健康センター看護師



どなたでもできる、
簡単で、安心・安全操作です！

元中子 4日(金)10:00~12:00
千谷第1 7日(月)10:00~12:00
千谷第2 8日(火)10:00~12:00
上ノ山 11日(金)10:00~12:00
千谷川 18日(金)10:00~11:00
栄町 21日(月)10:00~11:00
土川 22日(火)10:00~12:00
西部開発センター
25日(金)10:00~12:00

お茶飲みに
来てね！

ゆっくり
してつてね

地域のお茶の間のお知らせ

■開催日下記の通り変更となりました。
栄町月・水・金 午前10時～午後12時
西部公園木 午前10時～午後12時

8月14日(月)～16日(水)はお茶の間は
お休みになります

おゆみ野小学校・中学校・アカデミーは聞いてます

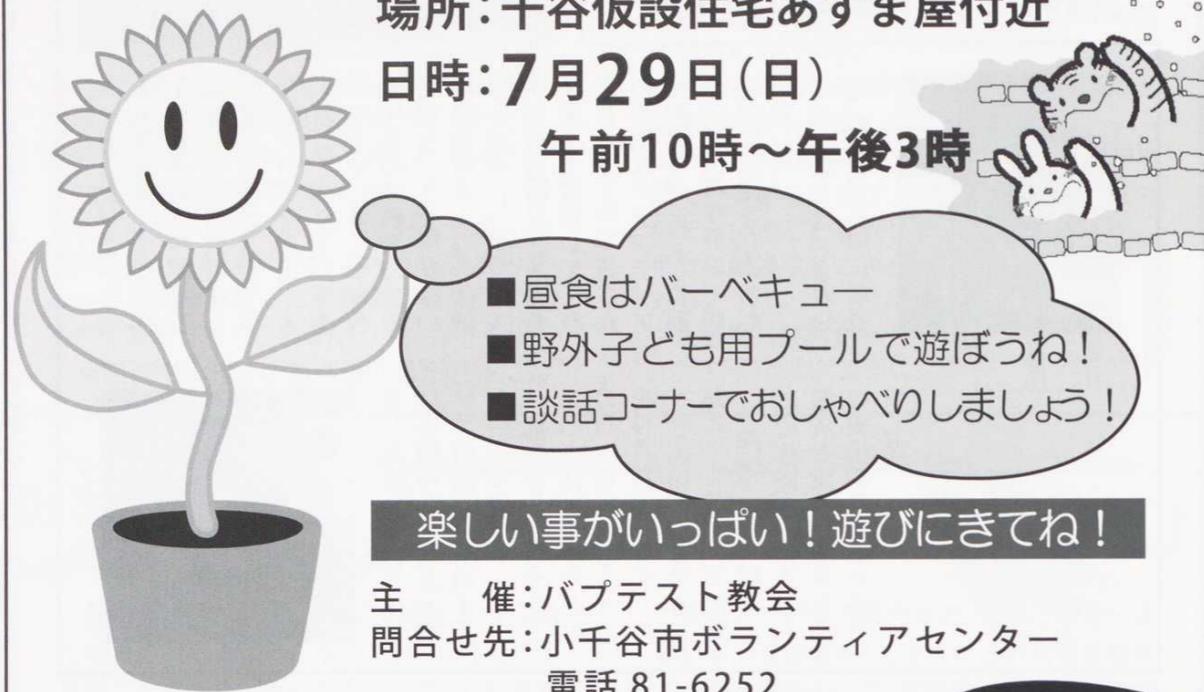
電話 81-6252

★こどもと遊ぶプロジェクト★

場所：千谷仮設住宅あずま屋付近

日時：7月29日(日)

午前10時～午後3時



主催：バプテスト教会

問合せ先：小千谷市ボランティアセンター

電話 81-6252



みんな
あつまれ～!!

流しそうめん& 水遊びのお知らせ

場所／千谷仮設住宅芝生広場

日時／8月17日(木)

流しそうめん 12:00～13:00

※おわん・はしは各自でご持参ください。資源の節約にご協力お願いします。



水遊び(水鉄砲) 14:00～16:00

問合せ先／080-6537-9319 担当：桑高

主催／妙高市市民活動センター・新潟市学生ボランティア有志・新井高校社会科クラブ

個人ボランティア有志一同

協力／小千谷市社会福祉協議会小千谷市ボランティアセンター

小千谷市社会福祉協議会

小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地

TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

9月号

い・わ・か



毎月月末
発行

地震の記録

私の報道ステーション、水道応急水隊、各緊急隊、ボランティアの皆さんに感謝します。

激震、余震、大地が揺れるそして不気味なしづけさ。静かな暗闇にサイレンが鳴り響く、赤色灯をくるくる回しながら、10台20台、いやまだまだ来る。30台目が来た。救援の消防車輌が越の大橋方面からやって来た。千谷工業団地長岡空襲の様に浮かびあがらせる。

平井 英三さん 千谷川・68歳

被災3日目、25日夜中の2時ごろのことである。カーラジオは家屋の倒壊、道路の破損、陥没、新幹線や関越道も被害で緊急車輛通行できないと報じられていた。よく来れたものと関心する。後日市報で「下越や山形、福島、などの市の支援隊」と知る。

小千谷の全世帯約
1万1千戸の電気、ガ
ス、水道、電話、が停止
した。



ボランティアセンター活動

センターの 日誌から⑧



ボランティアセンター
事務室が移転しました

お盆も過ぎ、おぢやまつりも終って、吹く風になにか秋を感じる頃となりました。あの地震から間もなく2年が経過しようとしています。震災の記憶も風化しつつあるという声も一部から聞こえますが、小千谷の市民はなお不安と恐怖心が消えていないのではないかと想うが、それ以上にこれから暮らしに寂しさや困難な気持

鬼灯（ほおづき）は
実も葉もからも紅葉哉
芭蕉

仮設住宅の玄関前の鉢に、ほおづきを植えてあるお家がありました。今の子どもさんはほおづきを鳴らすことができるのでしようか。昔はお母さんやお姉さんが子どもに教えたものです。ゲーム機も絵本も満足にない時代の母子には今の時代にないふれあいがありました。

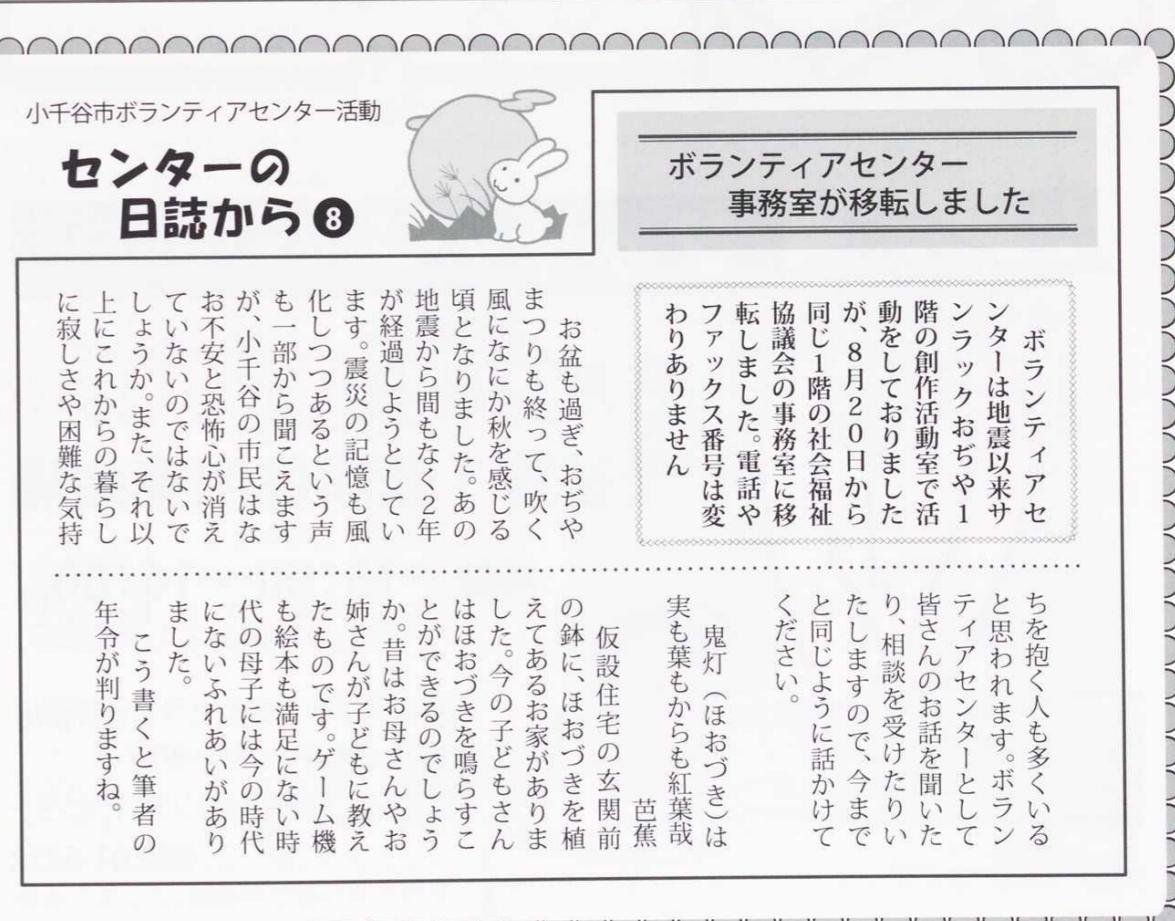
こう書くと筆者の年令が判りますね。

ボランティアセントラルは地震以来サンラックおぢや1階の創作活動室で活動をしておりましたが、8月20日から同じ1階の社会福祉協議会の事務室に移

ちを抱く人も多くいる
と思われます。ボラン
ティアセンターとして
皆さんのお話を聞いた
り、相談を受けたりい
たしますので、今まで
と同じように話かけて
ください。

112

113



仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

千谷第2仮設住宅集会場の
お茶の間のお知らせ

9月15日(金)東山地区の健康診断のため
午前中のお茶の間はお休みとなります。
午後1時～午後4時までは通常通り開催しま
すのでご利用下さい。

地域のお茶の間開催中

9月健康体操の日程

★健康体操 / 体育指導員 ★健康相談 / 健康センター看護師

★どなたでもできる、簡単で、楽しい体操です！



元中子 1日(金)10:00～12:00 上ノ山 8日(金)10:00～12:00
千谷第1 4日(月)10:00～12:00 千谷川 12日(火)10:00～12:00
千谷第2 5日(火)10:00～12:00 吉 谷 12日(火)14:00～16:00
西部開発センター
15日(金)10:00～12:00

マッサージ

8月27日(日) ★仮設の暮らしで
千谷第1仮設住宅集会場 疲れていませんか?
★夏バテていませんか?



時間／13:00～16:00
※当日直接おこし下さい

主催／スポーツ鍼灸セラピー神奈川
施術師／鍼灸マッサージ師
お問合せ／小千谷市ボランティアセンター
電話 81-6252

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行
住所 〒947-0035 小千谷市桜町 5140 番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

い・わ・か



10月号 毎月月末
発 行

震災後の暮らし

広井正紀さん 木津・83歳

仮設生活の17年3月8日
夜中の12時、家内がトイレの
帰りに転んで左股を骨折して
しまった。夜中のことですので、
夜の明けるのを待って病院
に行って、先生から診てもらって手術をした。
お陰様で今は施設に行っている。



仮設にいる時は自分の村からきている人が
多かったので良かった。それに集会所がと
なりあったので行ってみると話ができるて本当に
良かった。

私は年寄りなもんで何か自分で出来る仕事
はないかと考えていたら、隣のお父さんが來
たので話をしてみた。「それじゃ
あ俺が草履作りの材料を持って
来てやる」と言って持って来てく



れた。この時はあり難くて涙がでた。それから
私は草履を作っている。この仕事は自分の惚
け防止にやっていこうと思っている。

18年4月22日午前10時電話がきた。
子供がこれから家を片付けに行くことだ
った。それから家を片付けた。

そして、5月1日に木津のぞみ団地に入
った。私は新しい所だから全部入るもんだ
と思っていたらわずか10戸だった。そこへ入っ
ても知らない人ばかりである。早く団地全部
に入ってもらいたいものである。人間は1人
立ちは出来ない。早く皆が寄り
合って、話し合って
良い団地生活を
送りたいもの
である。



小千谷市ボランティアセンター活動

**センターの
日誌から⑨**

心、悩んでいませんか？
遠藤先生の横顔

各仮設で行われている、「健康体操」皆さんのが健康づくりやリフレッシュに役立つていると思います。平成17年2月から始まって延べ196回、1,681人の方が参加されています。この講師をされているのがお馴染みの遠藤則子先生。市の体育指導員5年のベテランです。会場に入るや集まつた人の性別、年齢層、健康状況をぱっと見て、体操のメニューとバージョンを決める臨機応変の技は他の人が真似できないものです。そしてその快活さとユーモア、集まつた人に楽しさと安らぎを与えてくれます。

先生もお家に帰れば2男1女の優しいお母さん。でもお子さんにゲーム機は与えないしつかりした教育理念を持ったお母さんもあります。正に一隅を照らす小千谷市の宝物的な女性です。





10月 健康体操の日程

★どなたでもできる、
簡単で、楽しい体操です！

千谷第1	2日(月)10:00~12:00	千谷川	13日(金)10:00~12:00
千谷第2	3日(火)10:00~12:00	栄町	16日(月)10:00~12:00
元中子	6日(金)10:00~12:00	土川	17日(火)10:00~12:00
上ノ山	10日(火)10:00~12:00	西部開発センター	20日(金)10:00~12:00

★健康体操 / 体育指導員 ★健康相談 / 健康センター看護師

演奏会

10月17日(火)

マッサージ

10月22日(日)

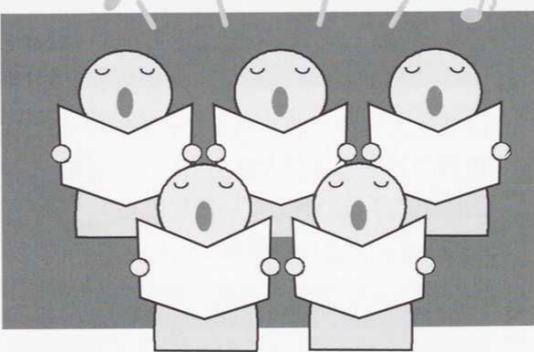
■元中子仮設住宅集会場

午後2時30分～

■上ノ山仮設住宅集会所

午後3時30分～

主催／彩の国大宮童謡唱歌の会
お問合せ／小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター
電話 81-6252



無料

100人のチェロコンサート&
おぢや健康福祉まつりに行きませんか?

10月8日(日)各仮設住宅にお迎えに行きます!

ご希望の方は小千谷市ボランティアセンターまで

お電話下さい。電話 81-6252 定員 20人 先着順

*コンサートの詳細は「いーねか」におり込まれているチラシをご覧下さい

行程预定

- 9時45分～10時15分の間に各仮設へ迎えに行きます
 - 10時35分東山小学校到着
 - 11時開演
 - 12時過ぎ出発
 - 12時30分サンラックおぢや到着予定(健康福祉まつり見学)
 - 14時30分出発 各仮設へ

お知らせ

第25回 おぢや健康福祉まつり

○健康福祉展／会場：総合体育館

各団体が健康と福祉について紹介します！

テーマ「震災を乗り越え、健康で明るい生活」

○福祉ふれあいフェスティバル／会場：サンラックおぢや

★ボランティアコーナー ★おまつりコーナー

★レストランキッチン

★お笑いトークショー

(ヤングキャバツ出演)

■無料シャトルバス運行

元中子仮設住宅発

9:30 12:30
10:30 13:30
11:30 14:30 (最終)

千谷仮設住宅発

9:30 12:30
10:30 13:30
11:30 14:30 (最終)

総合体育館発

10:00 13:00
11:00 14:00
12:00 15:30 (最終)

※元中子仮設住宅 ⇄ 小千谷駅前 ⇄ サンプラザ前 ⇄ 総合体育館
※千谷仮設住宅 ⇄ サンプラザ前 ⇄ 総合体育館

主催／小千谷市 おぢや健康福祉まつり実行委員会 健康福祉課（健康センター）電話 83-3640

おもちゃドクター 養成講座

初級編
2日間

■日 時／10月14日(土)13:00～16:00
15日(日)10:00～16:00

★2日間受講された方には、おもちゃ病院連絡協議会から修了証を交付します。

■会 場／サンラックおぢや 2階 第2研修室
(小千谷市大字桜町5140番地)

■対象者／小千谷にお住まいの方で、おもちゃに関心のある方、おもちゃドクターになって自分の持っている技術や経験を活かしたいと考えている方などが対象です。

■定 員／10人 ■受講料／4,200円
(資料代・教材費・書籍代・登録料込)

■締切日／10月2日(月)

■講 師／おもちゃ病院連絡協議会(東京)嶋田弘史氏

■持ち物／筆記用具・昼食(15日)・プラスドライバー
中型・小型・マイナスドライバー・小型・
ピンセットまたはラジオペンチ

■申込先・お問合せ 小千谷市社会福祉協議会 TEL.83-2340

10月8日(日)

午前10時～
午後3時30分



第2回おもちゃフェスティバルinおぢや ボランティア募集

昨年も大好評のおもちゃフェスティバルです！
世界のおもちゃが大集合！！

会場のお手伝いをしていただける
ボランティアさんを募集しています。



11月24日(金)午後1時30分～午後5時

★会場の準備・グットトイの展示

25日(土)午前9時30分～午後5時

★グットトイの展示・整理・手づくり
おもちゃコーナーのお手伝い

26日(日)午前9時30分～午後5時30分

★グットトイの展示・整理・手づくり
おもちゃコーナーのお手伝い
会場の後片付け

※半日参加でも都合のつく時間だけでもOKです

小千谷市社会福祉協議会

小千谷市ボランティアセンター発行

住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地

TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-4683

11月号

いわゆ



毎月月末
発 行

我が家における中越地震 中林喜昭さん 若葉・48歳

平成16年10月23日土曜日、当日は同僚が退社するにあたり、長岡の飲食店にて午後7:00より送別会に出席する予定で定時に退社。とりあえず入浴を済ませ脱衣所で着替えをおえたところでした。ユサユサと静かな横揺れを感じ、またいつもの関東方面での地震の余波が来たのかと思っていましたところ、急にドドーン！ガチャーン！の音、音、音これは大変な事が起きたなど実感した瞬間でした。その際脱衣所に居た私は、洗濯機

の上に取り付けて有った乾燥機がいかにも頭デッカチで不安定でしたので、必死に押さえ付け何度も頭や肘をぶつけながらも何とか倒さずにすみました。今にして思えばそんな家電製品を守るよりもまずは自分の生命の安全を守る事が一番大切な事で有ったと思えるのですが、当時は動搖もしていましたので、その事のみに気持が向かっていたのかも知れません。

家の中の状況のあまりのすごさに呆然としていた所へ第2波の大きな余震、危ないと思いすぐに外へ飛び出しました。私が送別会へ行くという事で家内と長男(5才)次女(2才)は外食で済ます様言っておりましたのですでに自宅にはおらず、どこの飲食店に行っていたのかもわからず安否確認しようにも携帯は全く機能しない状況の中、とにかく自分を守る事だけに精一杯だった様に思います。家内達が自宅にようやく戻る事が出来たのは地震発生後1時間以上も後のことでした。飲食店に入りテーブルに付く直前に被災したとの事でした。トラウマなのか地震以降あれ程大好きだったお店へは今でも行きたいとは次女は言わなくなりました。それ程彼女にしてみれば恐ろしい体験だったのかもしれません。

長女(3才)は土曜日という事もあり、保育園もお休みでしたから家内の実家の有る岩沢へお泊りの予定で行っておりましてそちらで被災しました。R117魚沼橋も山本の発電所をまたぐ橋も手前で大きく陥没し、交通が寸断された状態で迎えに行く事も出来ないまま、その後約2週間程家内の実家と周辺住民の方々のお世話になっておりました。

翌日になってようやく携帯も何とか利用出来る様に成り、家族全員の無事と両親の安否を確認する事が出来て安堵したのも束の間、24日に開催予定の魚沼水産秋の市場祭へ行くつもりでおりましたので、家内とも相談し出来るだけ冷蔵庫内の食材は無くしておく事にしていました。そこへ突然の地震の発生でほとんど食べる物も無く家族4人で配給のおにぎり2個と500mlのペットボトル2本を分け合って食べるといった状況でした。こんな状態がいつまで続くのか正直心配しました。



私の住まいは若葉町に有ります住宅でおよそ800世帯で自治会を形成しておりますが、様々な所からの移住世帯も多く小千谷市における従来型の地域コミュニケーションの有る

町内とは異なり、棟や入り口が違えばほとんど交流の少ない自治会でも有りました。しかし震災の際には駐輪場をみんなで片付けブルーシートを敷き、発電機も設置して冷蔵庫内に有る食材を持ち寄っての炊き出しを行いました。他の多くのコミュニティーにおいても同様な助け合いが成されていた事も後日知りましたが、自治会役員の方々を始め住民のみなさんの“いざ”という時の結束といいますか団結のすばらしさを実感しました。

ただ震災の翌日より家内の就業上の事情もあり帰宅が遅くなる事もたびたびで、2人の幼児を抱えおなべを片手に炊き出しが有ると聞けばすぐにそちらへ出向き、自衛隊の方が設営して下さったお風呂に入れると聞けば順番を待つ列に並ぶといった生活が約2週間程続きました。しかし息子に至っては一生懸命に私達を助けて下さった自衛隊員のおにいさん達の雄姿がよほどカッコ良く見えたのか、胸を張って「僕も大きくなったら自衛隊員になる」とのコメントには室内共々ちょっぴり笑わせてもらいました。

地震から数日が過ぎ、そろと家の中を片付けなければと思っていたところ、片付けの間子供達の相手をして遊んでくれるボランティアの人達も居る事を聞きすぐにお願いしました。中には元保母さんや学校の先生、現役の大学生さんと様々な方々のお世話になりました。

私自身としましてはあれが出来なければ、これ

も出来なければボランティアなんてとても出来る事では無いと正直思っていましたが、どんな事でもどんな立場にいた方でも様々な場面で必要とされ役に立つ事が有るのだと思い、それまでのボランティアに対する認識も変わりました。

また13日間に渡る車中での避難の間、晚秋にさしかかった時期でも有り、朝晩の冷え込みやストレスも重なって子供達も体調を崩したりしましたが、各都道府県より派遣されて来られた医療チームの方々が総合体育馆に駐在し毎日各避難所を巡回していただいた事は、幼児を抱えていた私共親にとりましても心強く大変ありがとうございました。



2年が過ぎようとしている今、こうして避難生活を改めて振り返ってみると、私や室内も確かに大変だったねと話したりもしますが、本当に大変な思いをしたのは子供達で有って、恐怖と不安そしてストレスをかかるなかで頑張っていたんだとつくづく思います。しかしその様な状況下に有ってもいろんなボランティアの方々とのふれ合いを通じ、人に対するやしさやいたわり、助け合いの心の大切さを幼いながらも少しは感じる事が出来たのではないかとも思います。この大変ではあったけれども貴重な体験を基に、将来子供達が様々なボランティア活動に率先して参加する様な人格に成長してくれる事を親として今は願っております。

大勢の皆さんに感謝

伊東カズさん 稲荷町・60歳

地震2ヶ月前だったでしょうか？町に買い物に行く途中、ふと目に見えた一直線の雲、神戸の地震雲をテレビで放映した事を思い出しながら予感がした。その後も一直線の雲が気になって、今度小千谷にも地震が来るのだろうかと不安を感じた。そんな予感がしたのか、地震が来たら素足で外に出るとキケンだと思いサンダルを2足買っていた。

10月23日地震当日午後から十日町の市展を見に主人と車で出かけた。すばらしい力作を見て「みんなすごい作品ばかりだね」と話しながら帰って来た。主人は「ガソリンが無くなつた」と言ってスタンドに行き、私は夕食の仕度を始めた。天ぷらを揚げ土曜日なので早めの夕食をすませ、後片付けをし、「やれやれ」と部屋に行き、腰をおろし、いくらもしない時グラ

グラと大きく揺れ「地震だ！」と大声を出しながら外に飛び出した。家中はどんなになつたかは全くわからず、余震が来るたびに柱につかり近所の人達に声を掛け「大丈夫ですか？」と安否を確認しながらその晩は町内の公民館の駐車場にブルーシートを敷きテントを張りその中で過ごした。

嫁いだ2人の娘の家族も心配でしたが、携帯もつながらず困っていた時ようやくメールが来て、娘家族の無事が確認できた事がうれしかつた。町内の役員の方々も一生懸命だった事に感謝しています。

翌日明るくなった時の道路はすさまじく波うついて亀裂も入っており職場にやつとの思いで着いた。職場に行ったが仕事ができる



状態ではなく、校長先生は校舎の被害状況を確認し2ヶ月位臨時休校にした。その間も動員がかかり市役所の脇にある車庫の中で自衛隊の方と沢山のボランティアの人達と炊き出しの手伝いをし、何千個のおにぎりを作った。又、平沢町にある車両センターには救援物資が来ていて、県外から駆けつけて下さったボランティアの方達と手渡しをしながら作業し

た事を思い出す。地震当時の小千谷市内の道路は県外ナンバーの救急車、消防車、自衛隊車、警察の車も何台も走っていましたが、遠くから駆けつけて下さった大勢の皆さんに感謝したい。

最後に地震の年は私の定年の年でもありました。忘れられない平成16年10月23日です。



仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

お茶の間開催日時の お知らせ!!

地域のお茶の間開催中

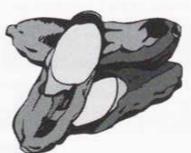
今年で終了になるお茶の間

- 千谷第2集会場 11月30(木)で終了
 - 栄町談話室 11月29(水)で終了
 - 土川談話室 11月30(木)で終了
 - 両新田談話室 11月30(木)で終了
 - 西部公園談話室 11月30(木)で終了
 - 吉谷談話室 10月31(火)で終了
 - 平沢談話室 11月28(火)で終了
 - 城内談話室 11月26(日)で終了
 - 西部開発センター 11月30(木)で終了
- ※仮設住宅自体の閉鎖時期はこの日とは異なります
- お問い合わせ 小千谷市ボランティアセンター 電話番号 81-6252

★アツアツ焼いも★

10月28日(土) 14時～15時

千谷仮設住宅広場



千谷の河川敷の畑で作りました。
欲しい方集まれ～!!

★いも煮会★

11月10日(金) 12時～13時

上ノ山仮設集会場



美味しい秋の味覚
心も体もポッカポカ

主催：山形県高畠町ボランティアグループ

11月 健康体操の日程

★健康体操 / 体育指導員
★健康相談 / 健康センター看護師

★どなたでもできる、簡単で、楽しい体操です!

千谷第1	6日(月)10:00~12:00
千谷第2	7日(火)10:00~12:00
元中子	10日(金)10:00~12:00
上ノ山	13日(月)10:00~12:00
西部開発センター	17日(金)10:00~12:00
千谷川	20日(月)10:00~12:00
吉谷	20日(月)14:30~16:00

小千谷市ボランティアセンター活動
センターの日誌から⑩

禍福はあざなえる縄の如し

震災2周年が過ぎました。どのたの胸にもいろいろな思いが去来すると思っています。2年の間に環境や暮らしが大きく変わった方もたくさんおられ、それに順応しようとするとする努力が今懸命に続けられている段階と言えると思います。一方苦しいこと、辛いことの中にも思いがけない出会いや感動があつたとよく言われます。

10月8日には東山小学校で「中越地震復興チャリティーコンサート」が開催され、93名のエロリストによる演奏が行われました。木造の東山小学校体育館に、重奏なすばらしい音が響きわたり、集まつた250人の人達はまさに酔いしれていたように見受けられました。これも地震がもたらした出会いと感動であつたと思います。

お知らせ

第2回 おもちゃフェスティバル in おぢや

今年もグット・トイ委員会が選定した世界のおもちゃがサンラックに大集合!!おもちゃの展示の他にも、手づくりおもちゃコーナー・軽食コーナー・おもちゃ病院があります。ご家族でぜひお越し下さい。

入場無料

日時 : 11月25日(土)
午前10時~午後4時
11月26日(日)
午前10時~午後3時

会場 : 小千谷市総合福祉センター
サンラックおぢや

■3階大ホール
おもちゃ展示・おもちゃ病院
手づくりおもちゃコーナーなど

■2階 軽食・休憩コーナー

※授乳・おむつ交換コーナーもあります

★おもちゃフェスティバルのお手伝いをしていただける方を募集しています

■お問合せ先 小千谷市社会福祉協議会 電話番号 0258-83-2340

小千谷市社会福祉協議会
小千谷市ボランティアセンター発行
住所 〒947-0035 小千谷市桜町5140番地
TEL. 0258-81-6252 FAX. 0258-83-2777



「2年間を振り返って」

2004年10月23日 午後5時56分
自宅にいた私は大きな揺れに「浅間山が噴火したか!?」と思った。揺れがおさまり、TVをつけるとニュース速報には「小千谷市」の文字が…。ドライブで数回訪れたことのある小千谷！震災の2ヶ月前にも訪れたばかり。自分の知っている場所が…そう思い、様々な思いが頭の中を駆け巡る。7・13水害でボランティアをしていたから尚更だった。今思えば、この時点で「小千谷に行こう」と決めていた気がする。

2004年11月5日(金)～7日(日)

夜、以前一緒に訪れた友人と共に小千谷へ。当時、高速は一般車通行可になっていたばかりで、混雑するかもしれない。時間がかかるても下道で行こうと思い、和南津トンネルを迂回し

群馬県 桑高 仁志さん 28歳

国道117号を通る。途中、塩殿で2箇所の大きな崩落現場を乗り越え、早朝小千谷入りした。初めて見る、浮き上がったマンホールと傾いた電柱が地震の大きさを物語っていた。

朝、小千谷市災害ボランティアセンター(以下V・C)に着くと、全国から駆け付けたボランティアで溢れていた。登録を済ませ、初めて受けた依頼は“小千谷高校の避難所でのマッサージ”だった。依頼者の方も「避難所の方々へマッサージをして欲しい」とのことだった。一般ボランティアの私達は声掛けに戸惑いながら校庭のテントを回ったが、マッサージは受け入れてもらえないかった。校庭には“被災動物一時預かり所”的テント(以下預かり所)



があり、子供達もいた。戸惑っていた私達は正直「助かった」と思い、子供達としばらく遊んでいた。

途中、犬の飼い主の方がみえマッサージを依頼してくれて本当に嬉しかった。

その方のお話では「犬は3匹飼っていたが、“塩谷”から避難した時に連れて来れなかった。一時帰宅した時には一匹しかいなかつた。数日前、やっとの思いで連れて来れた。」とのことだった。その犬は次の日、埼玉の親類宅に連れていくという。

夕方再び“預かり所”を訪ねると、夜の運営ボランティアがいないと相談された。しかし犬はいる。飼い主さんがいないとずっと鳴いていた。V・Cに電話したがV・Cも混乱していて上手く伝わらなかつたため、私達は塩谷から避難してきた犬の世話を1晩することにした。テント横に車をつけ、寝ていても犬が鳴くと一緒に過ごした。

翌朝、友人がとあることから大ケガをしてしまい、急遽群馬に帰らざるを得なくなつた。自衛隊の方に応急処置をしてもらい、急いで群馬の病院へ。夕方、別の友人を迎えて高校に戻つた時には飼い主さんとあの犬はおらず、挨拶出来なかつた事を後悔しています。

群馬に戻つて2週間、TVのニュースが小千谷市の合同慰靈祭の様子を伝えていた。途中、同級生にお別れの言葉を言う1人の女の子が映っていた。見覚えがある。“預かり所”で一緒に遊んだ女の子だった。その時、初めて塩谷で起きたことを知つた。そしてこの子供や塩谷・東山地区にかかわられたらい…と思い始めた。

その後のボランティアの中で“避難所託児保育”や“入居前仮設への支援物資配り”等をしたが、気づけば偶然にも東山地区の子供達だったり東山地区の方が大勢入居した仮設だった。

何かの縁を感じ、X'mas会の企画を考えたが実現出来ず、友人らと話し合い、寄付を募ってお菓子を買い、お菓子の詰め合わせを配ることになった。

2004年12月25日(土)

仮設に着くと託児保育で出会った子供がおばあちゃんと一緒に歩いており、プレゼント



の事を話すと集会所や子供達の部屋を案内してくれた。集会所には7・13水害でお世話になった三条市社協の方もあり、人の繋がりを感じた。その後も数日間、千谷の仮設で子供の遊び相手をして年末は群馬に戻つた。

2005年2月13日(日)

年明け後も数回千谷仮設を訪れる中、「2月に集会所でプラ板のキーホルダー作りします」と保護者の方にお伝えすると、それまで4～5人だった子供が当日は10人になつた。初めて一緒に遊んだ子も「明日もまた来てね」と言ってくれたことが嬉しかつた。そして、子供のストレスや運動不足、雪下ろしや片付けの際の預かり、子供達の笑顔、笑い声、落ち着かれる時間を作る事に少しでもお役に立てればと訪問交流を始めました。



2006年10月15日(日)

約2年間に渡る子供達との訪問交流が終わりました。雪合戦・プラ板工作・ちぎり絵・うちわ作り・芝滑り・水鉄砲・スイカわり・流しそうめん・水鉄砲・花火・タイムカプセル・綿菓子作り・X'mas会・チョコレート作り・たこ焼き・焼き芋…。

その場面毎にたくさんの思い出があります。迷いながらの連続でした。当初2つの仮設を行き来しながら途中で行けなくなつてしまつた事、子供達に何がしてあげられるか、続けていく事の責任・意味…。ボランティアでなく、寄り添えるカタチを模索していました。その中で親御さんにもご迷惑をおかけしたと思います。小千谷市社協V・Cの皆さんにもお世話になりっぱなしでした。

この2年間を共に支えてくれたボランティア仲間、子供達、小千谷の方々、V・Cの皆さん、本当にありがとうございました。学んだことは群馬で精一杯伝えていくつもりです。これからは小千谷の一つとしてよろしくお願いします。

群馬より皆さんのご健康をお祈りしています。

小千谷市ボランティアセンター活動
**センターの
日誌から**

師走となりました

木々の葉も落ち、カレンダーもあと一枚となります。十二月と聞くと何か気ぜわしくなりますね。現に引越しや家財の片付けで忙しい方も多いことだと思います。震災避難所、仮設復興住宅又は自家へと大きく環境の変化が続いています。どうぞお体を大切になさってください。

さて、ボランティアセンターの広報紙として、みなさんから愛読いただきました。「いいねか」だきました。「いいねか」となりました。「いいねか」の文字・顔のロゴマークは、発刊当時仮設にお住まいだった、小林美佐子さんに描いていただきました。また新谷梨恵子さんからは原稿の依頼収集や、編集などに協力をいただき、たいへんお世話になりました。

「あの日あの時の地震の恐怖と復旧のために話になりました。」「あの日あの時の地震の恐怖と復旧のために話になりました。」

家族が心を合わせたことや、全国のボランティアに支援していただいたことなどの記録は将来貴重な資料として残るものと存じます。これまで原稿を寄せていただきました皆さんが、これまで原稿を寄せていたいと思います。来春には保存版として一冊にまとめ、発刊することになります。ご期待ください。

来月からは少し趣きを変えて、「いいねか」のミニ版として、仮設でのイベントなどを伝えて行きたいと思います。



仮設住宅にお住まいのみなさんへの
お知らせです

12月健康相談・体操の日程

日頃の健康管理は大丈夫ですか?
看護師による健康相談です。

- 主 催 / 健康センター
- ★健康体操 / 体育指導員
- ★健康相談 / 健康センター看護師



地域のお茶の間開催中

千谷第1

時間
10:00~11:30
4日(月)
健康相談・体操
20日(水)
健康相談のみ

元中子

時間
10:00~11:30
5日(火)
健康相談・体操
18日(月)
健康相談のみ

上ノ山

時間
10:00~11:30
6日(水)
健康相談・体操
19日(火)
健康相談のみ

千谷川

時間
10:00~11:30
7日(木)
健康相談・体操
22日(金)
健康相談のみ

西部開発センター

時間
10:00~11:30
8日(金)
健康相談・体操
21日(木)
健康相談のみ

★お茶の間開催日時

- 元中子集会場
 - 千谷第1集会場
 - 上ノ山集会所湯
 - 千谷川談話室
 - 西部開発センター(諏訪公園仮設にお住まいの方ご利用下さい)
- 月～金 (10:00～12:00)
13:00～16:00
- 月・水・金 (10:00～12:00)
- ★7日(木)健康体操があります。お茶の間も実施しますのでご利用下さい。8日(金)がお休みになります。
- 月・水・金 (10:00～12:00)

年末・年始お休みのご案内

- ★各お茶の間のお休み
12月29日(金)～
平成19年1月3日(水)



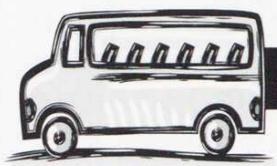
千谷・千谷川のぞみ団地入居者説明会

送迎のお知らせ

日時 **12月3日(日)**
■千谷川 午前 ■千谷 午後

高齢者やお車がない方などお困りの方ご利用下さい

各仮設→市役所→のぞみ団地→各仮設



★希望者は27日(月)までにボランティアセンター**81-6252**へご連絡下さい。
29日(水)までに時間をお知らせいたします。

あとがき

ご覧いただきありがとうございました。

震災の辛い思い出を呼び覚ましてしまったのではないかと心配をしています。できるだけ楽しいイベント等の写真も入れて、恐ろしかったこととともに、地震によつてめぐり合えた出会いやあたたかさも含めた冊子にしようと企画しました。

この発刊が禍福あざなう縄のごとき震災を風化させないために、その一助となれば幸いです。

時間の関係で一部に了解を得ずに掲載したものや、誤った表現もあるかと思いますが、ご了承賜りたいと存じます。

また、ご感想やお気づきの点などありましたらお聞かせください。

最後になりましたが、ご協力いただいた社会福祉法人読売光と愛の事業団様並びに原稿や写真をお寄せいただいた皆様に重ねて厚く御礼申し上げます。



いーねか 保存版

平成19年7月15日発行

発 行 社会福祉法人 小千谷市社会福祉協議会
(小千谷市ボランティアセンター)
〒947-0035 新潟県小千谷市大字桜町5140番地
総合福祉センター「サンラックおぢや」内
電話 (0258) 83-2340 FAX 83-2777

協 力 社会福祉法人 読売光と愛の事業団

印 刷 株式会社 位下印刷



Photo by: [unclear]